

始



327-920

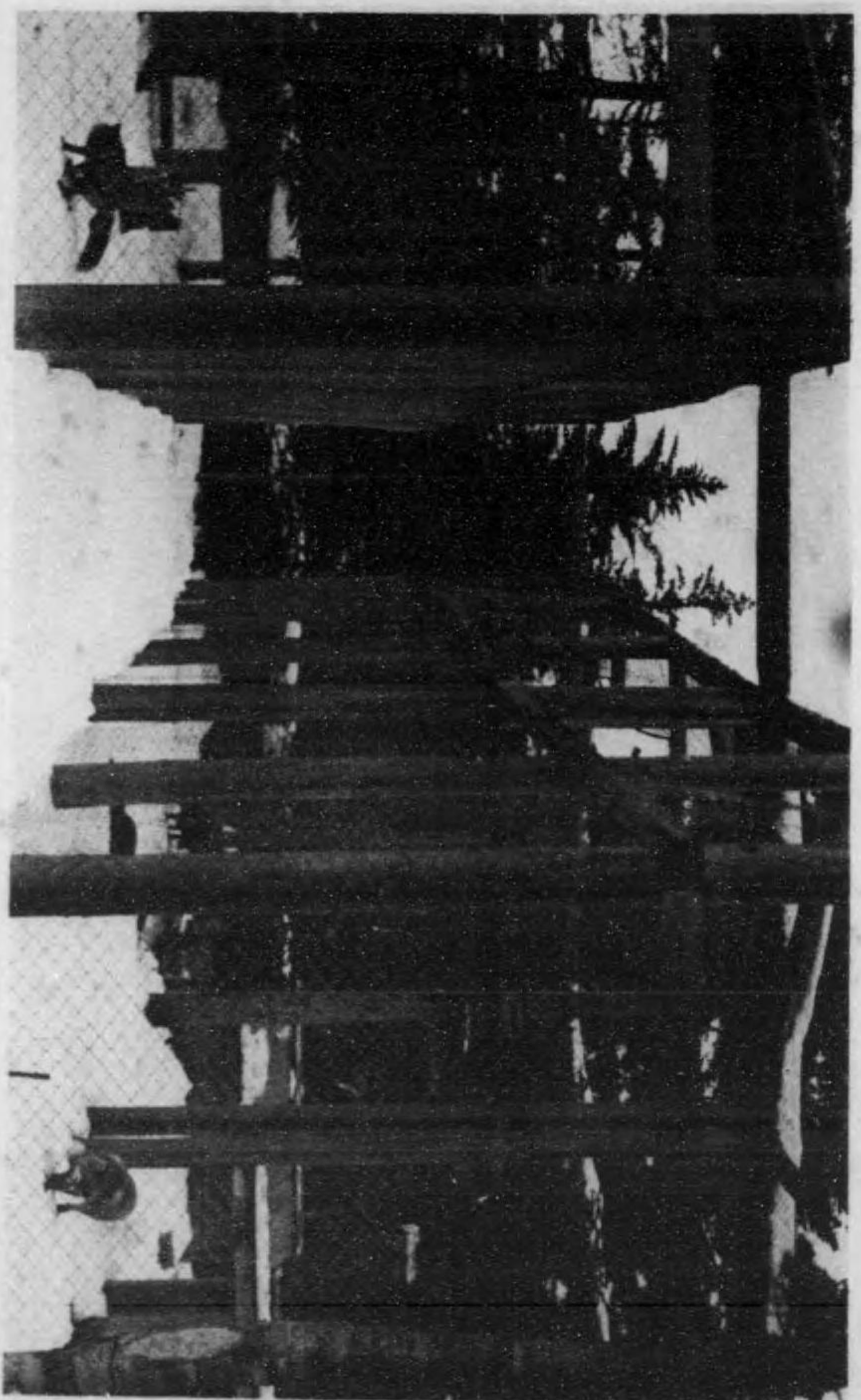
農學士川口順次郎著

# 養蠶業經營論

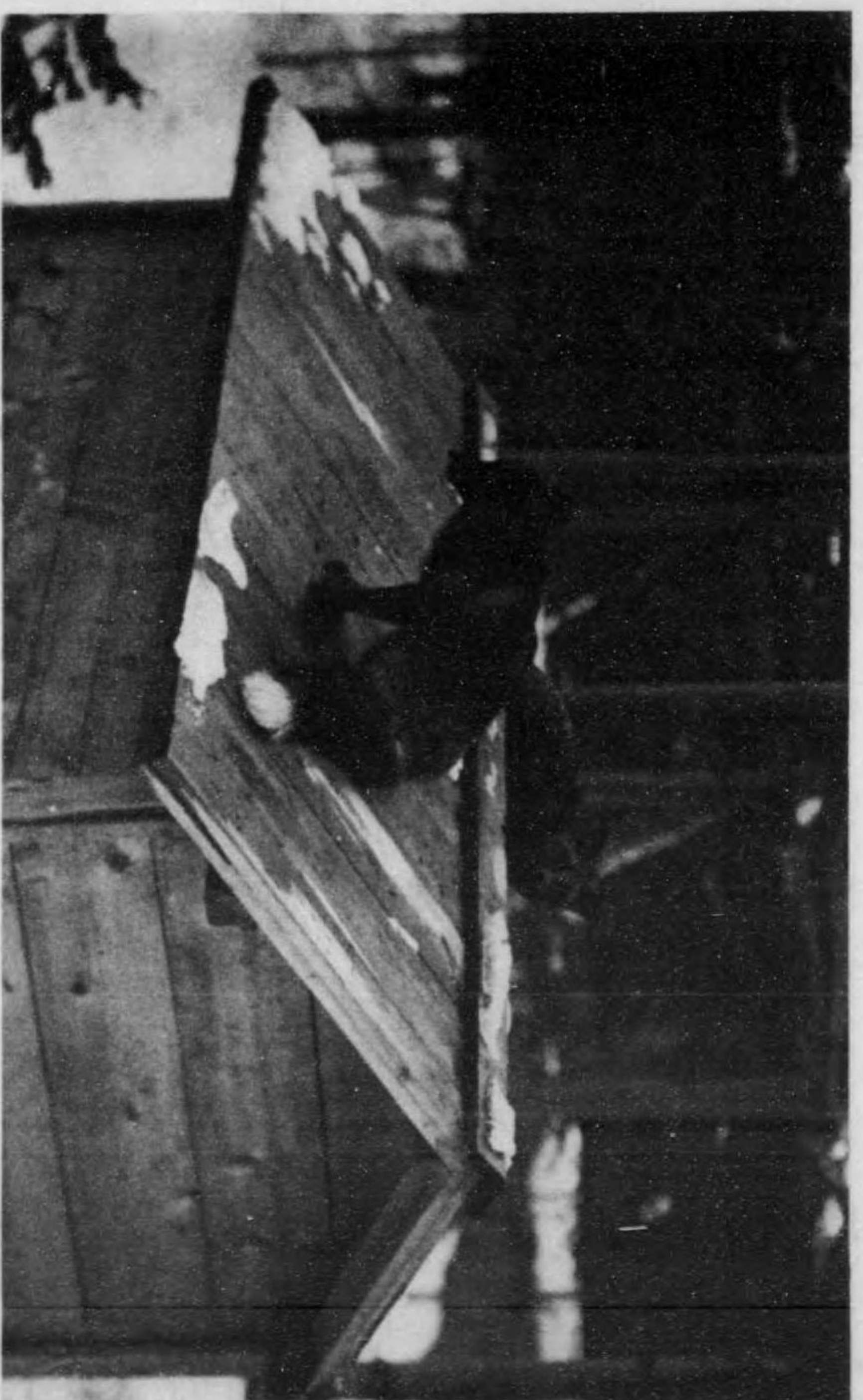


東京 丸山舎發行

大正  
6. 1. 22  
内交



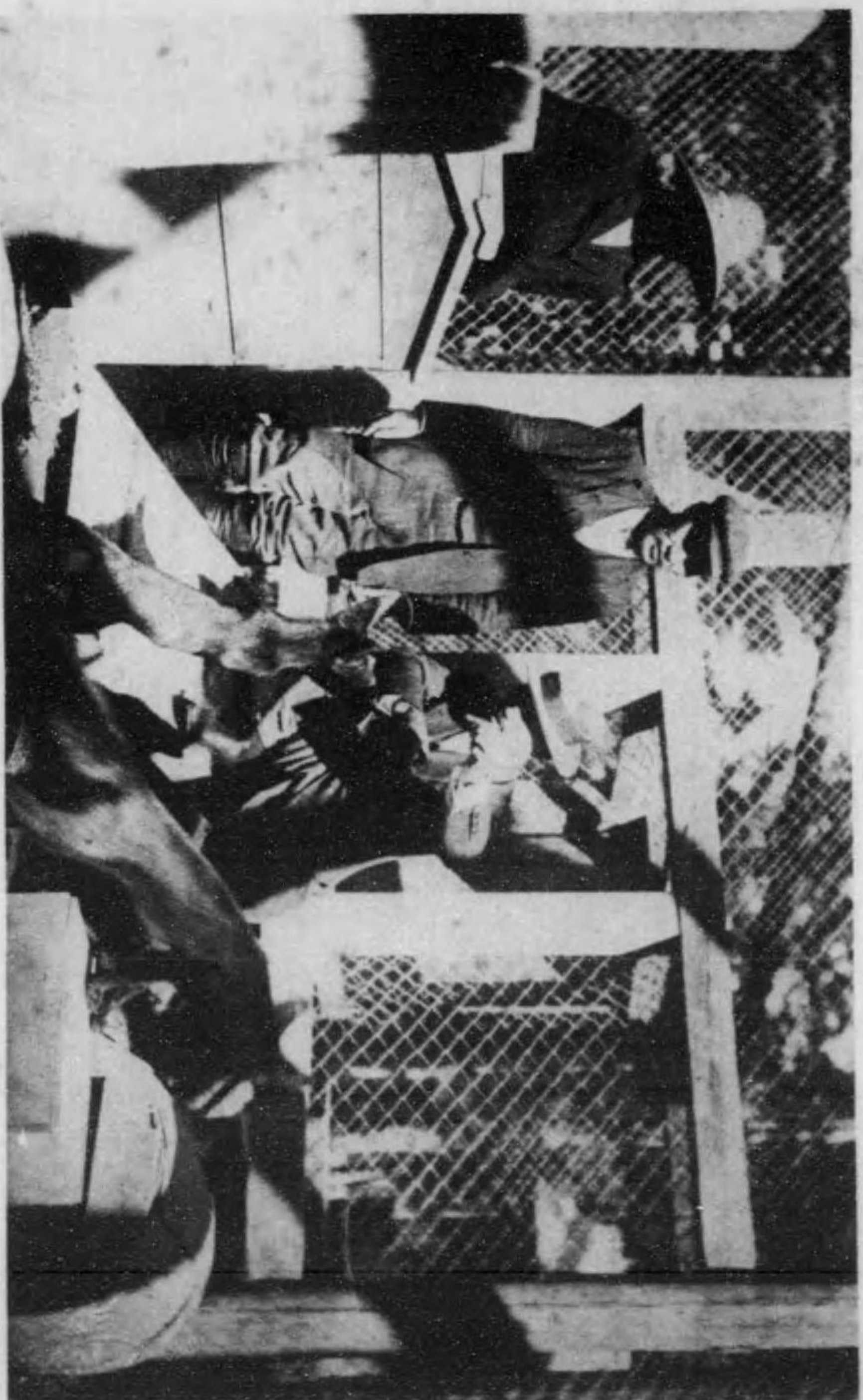
圖ノ垣牆網鐵内馬養飼狐塙畜和廳太樺



圖ノ舍狐内境養飼狐場畜種廳太樺



圖ノ動運狐中雪内場養飼狐場畜和廳大樺



大樽種宮崎飼養內狐兒、廢廢

## 序

毛皮ノ需要ハ衣帶ノ料ニ座席ノ具ニ將タ防寒裝飾ノ用トシテ逐年増加スルコト單リ歐米ノミナラス我邦亦其趨勢アリ而シテ毛皮ノ供給ハ素ヨリ天然産ニ待タサルヘカラサルモ森林ノ伐採藪澤ノ開拓ニ伴フ蕃殖産出ノ減少ハ茲ニ人工ヲ加ヘテ其乏ヲ補フノ必要アルヤ明ナリ此レ近時北米加奈陀ヲ始メトシ其他ニ於テ養狐業ノ漸ク興ル所以ナリ

樺太廳夙ニ斯業ノ有利ナルニ著眼シ著者ヲシテ專ラ其事業經營ノ任ニ當ラシメタリ爾來地利ト天慶トヲ利用シ更ニ人工的方法ヲ盡シ其結果黑狐ヲ産出シ頗ル良好ノ成績ヲ舉ケ得タリ是ニ於テ著者其結果ヲ録シ此新事業ヲ普ク世ニ紹介

序  
シ併セテ此業ヲ興サントスル者ノタメニ資スル所アラント  
ニ  
ス蓋シ斯業ノ發達ニ益スルコト鮮カラサルヘシ一言ヲ卷首  
ニ題スルコト爾リ

大正六年一月

農務局長 道 家 齊

序

學者言ヲ立ツル則チ當ニ人ヲ利シ國ヲ益スヘキノミ此ノ書  
題シテ養狐論ト稱ス果シテ何ノ國ヲ益スル所ソ花卉ヲ培フ  
ハ桑麻ヲ種ユルニ若カス猫狗ヲ養フハ羊豚ヲ畜フニ若カス  
狐ヲ養フ果シテ何ノ人ヲ利スル所ソ狐ハ其ノ皮奕ニシテ温  
以テ衣トスヘク其ノ毛輯ニシテ猗以テ領トスヘク以テ冠ト  
スヘシ其ノ珍ナルモノニ在リテハ則チ千金ニ直シ所謂一狐  
ノ腋ハ千羊ノ皮ヨリ貴キモノナリ近時其ノ服ニ其ノ飾ニ大  
ニ毛皮ノ聲價ヲ舉ク而モ其ノ産ハ其ノ需ニ伴ハス若其レ狐  
ヲシテ之ヲ養フコト猫狗ノ如ク之ヲ蓄スルコト羊豚ノ如ク  
ナラシメ而シテ弘ク世界市場ニ致サハ小ハ則チ人ヲ利シ大  
ハ則チ國ヲ益スルヤ論ヲ須タス是ニ於テ養狐論ノ書ノ深ク  
學者立言ノ旨ヲ得ルヲ見ル蓋シ徒著ナラス我邦養狐ノ書ハ



序

二

實ニ此ノ著ヲ以テ矯矢トス斯道ヲ講スル者ニ在リテハ其ノ  
珍タル亦當ニ狐腋ノ貴ニ讓ラサルヘシ樺太ノ風土氣候ハ最  
養狐ノ地ニ適ス來移ノ民此ノ書ニ頼リ蕃畜ノ方ヲ講セハ則  
チ應ニ貨殖ノ道ハ必スシモ五稔ヲ買フノミニ止ラサルヲ知  
ルヘシ予任ニ樺太ニ在リ此書ノ樺太ノ産業ニ裨益アルヲ想  
ヒ需ニ應シ喜テ一言ヲ卷首ニ序ス

大正五年十二月初樺太官舎ニ於テ

樺太廳長官從四位勳三等

昌

谷

彰

### 例言

人若シ草木ノ褐ヲ着、羽毛ノ裘ヲ纏フト云ヘハ、如何ニモ太古  
ノ風俗ヲ聯想セサルヲ得ヌ。併シナカラ草木ノ纖維ハ吾人ノ  
衣服以外愈々多ク各種ノ用途ニ供セラレツ、アリ、羽毛ヲ原  
質トスル製品ハ、益々其ノ需要ヲ喚ヒ起シツ、アル。則チ知ル  
富國ノ基ヲナスヘキ利用厚生ノ術モ、原料品ノ生産豊富ナル  
コトヲ前提トセナケレハ施スニ所カナイ。是ニ於テカ原始産  
業ハ何レノ世、何レノ時代ニ於テモ、之ヲ尊重シ之ヲ發達セシ  
メナケレハナラヌ。今日樺太ニ於テ毛皮動物ノ飼養繁殖ヲ云  
フモノハ、其主旨トスル所ハ樺太ニ於テ他ニ比類ナキ特殊ナ  
ル原始産業ノ重ンスヘキコト及此ニ依リテ、今日農林業上利  
用シ易カラサル地方ニ施シテ、一ニハ古クシテ然カモ新タナ

例言

一

ル産業ヲ起シニハ此遺利ヲ拾得スル島民ヲシテ其ノ福利ニ浴セシメントスルニ外ナラナイ。

毛皮動物ノ飼育繁殖ニ就キ樺太ニ於テハ初メテノ試ミテアリ、且ツ之ヲ世界ノ廣キニ見テモ、夫レカ新興ノモノテアルタケニ學者ノ攻究調査モ少ク、經驗家ノ實驗談モ未タ稀少テ、討尋スヘキ資料ヲ得ルニ甚シク困難ヲ感シタノテアル。仕合ニモ東京帝國大學理科大學教授渡瀬博士ノ懇篤ナル指導ニ依リ一先ツ短編ナカラ取纏メタル次第テアル。然カモ通俗ヲ旨トシテノ記述テアルカラ筆意ニ任セス亦論究ノ不充分ナルコトハ、後日ニ補正スルトシテ、豫メ讀者ノ諒察ヲ請ヒタイ。

本書出版ニ當リテハ、畏友西垣恒矩君、惠登代磨君、其他諸氏ノ多大ナル後援ヲ得タルコトヲ、併セテ茲ニ感謝スル次第デア

# 養狐業經營論

## 目次

第一章	緒論	一
第二章	狐飼育ノ沿革	七
第三章	飼育場用地ノ撰定	一四
第四章	飼育場ノ建設	二二
第五章	飼養竝管理	三三
第六章	繁殖及純粹育成	四六
第七章	衛生竝疾患	五五
第八章	狐ノ捕捉及運送	六二
第九章	狐ノ屠殺	六六
第十章	毛皮ノ品質	七〇
第十一章	毛皮及種狐ノ取引狀況	七八

目次

第十二章 結論……………八四

附錄 樺太ニ於ケル養狐事業經營ニ必要ナル關係法規抄錄……………一

# 養狐業經營論

農學士 川口順次郎述

## 第一章 緒論

奢侈ト實用トハ、其物ニ對スル人ト時トノ如何ニ依リテ論定スヘクシテ、其物ノ絶對的性質デハナイ。現ニ絹織物ノ如キ、之ヲ奢侈品ナリトシテ、着用ヲ禁シタル時代サヘアツタガ、今ハ是レ時世ニ適セサル迂論ト成ツタデハナイカ。此レト同シク近年毛皮類ガ、衣服ノ料トシテ裝飾ノ具トシテ、上下一般ノ歡フ所トナリ、其ノ用途ハ著シク増加シ來リ、一襲ノ外套裏地ニ數千金ヲ投シ、一筋ノ襟卷ニ數百金ヲ費スヲ惜マザル者アルニ至ツタガ、併シ毛皮ノ價格、常ニ斯ノ如クナリトセハ、常人ノ使用ニ堪ヘサル贅澤品ナリト稱スヘシト雖モ、然カモ毛皮ニハ自ラ品彙ノ多様ニシテ、之ヲ裝飾トシテ、將タ保温用トシテ、常人ノ使用ニ適スルモノ多々アルニ於テハ、毛皮類ノ流行ハ、既ニ實益ヲ基礎トシテ立テルモノナリト云フコトガ出來ル。況ンヤ奢

侈品トシテ其物ノ絶對批判タラザルニ於テオヤ我邦ノ氣候カ濕氣多ク冬期ニ於ケル低温度ハ一層寒サヲ感セシムルモノアルニ於テハ毛皮類ノ使用ハ保温上蓋シ必然ノモノデアルト言ハナケレハナラス北海道竝樺太ニ於ケル住民カ粗末ナカラモ獸毛皮ヲ以テ製セル衣服ヲ着用シテ居ルノハ即チ此自然ノ必要ニ迫ラレタルモノデアアルマイカ。

一領ノ白狐裘カ價千金トハ支那人ノ稱スル諺テ我邦ニ在リテハ衣服ノ仕立方ニ對スル構想竝ニ古來ヨリノ傳說的習俗ニヨリテ毛皮類ヲ用フルコトガ少ナカッタ否寧ロ之ヲ嫌忌シタリト云ヘキデアルケレトモ遂ニ時代ノ風潮ハ自ラ毛皮賞用ノ聲ヲ大ニシツツアル之ニ反シテ古來毛皮ハ布帛ト同様ニ衣服ノ料トシテ用ヒラレ且ツ之ニ對スル嗜好ノ深カリシ歐米諸國ニ於テハ毛皮類獲得ノ爲ニハ如何ナル僻遠ノ地ニモ如何ナル北極互寒ノ域ニモ之ヲ辭セス或ハ遠征軍ヲ起シ或ハ探險隊ヲ遣シ敢テ辛苦ヲ意トセナカツタモノデアアル一七七八年英人クックガ「アラスカ」探險ヲ行ヒ一七三三年和蘭人「ベーリング」ガ露國皇帝ノ命ヲ受ケテ露國學士會員「ミユラー」等ノ一隊ヲ率ヒテ東部西伯利亞開發ノ基ヲ開キタルモ皆此毛皮ヲ索ムルノ意ニ出テタノデアアル又加奈陀ニ於テハ是ヨリ先キ一六七〇年「ハド

ソンベイ」商會ガ加奈陀「ハドソン」灣地方ヲ征服シ此所ニ基礎ヲ据ヘ毛皮貿易ニ從事スルコト百五十年一八〇〇年頃強敵タル佛國商會「ルビヨン・フレール」ノ競争ヲ見ルニ至ルマテハ加奈陀毛皮ハ殆ント其手ニ歸セリ此等ノ商會ハ今モ尙同地方ニ於ケル毛皮商トシテ世界ニ重キヲナシテ居ル續キテ一八〇〇年以來露米商會北米商會等カ極東西北利亞竝「アラスカ」ヲ根據地トシテ設立セラレ近ク我日本ノ北邊ニ「黑船來」ヲ唱ヘタノモ其真意ハ亦彼等カ北方海陸ニ棲息セル毛皮動物ニ對スル憧憬ニ依リテ能ク其壯舉ヲ企タノデアアル或人ガ當時北地ノ探險若クハ侵略ノ如キ之ヲ毛皮類ニ對スル慾望ヲ背景トセスシテハ此關係ヲ解釋スルコトガ出來ヌトマデ唱フルハ亦興味アル問題デアアルマイカ。

何レノ國ニ於テモ文化ノ程度極メテ低カリシ時代ニ在リテハ專ラ天然產物ニ依頼シテ生ヲ享樂シ毛皮類ノ如キ自己ノ必要ニ供スルノ外過剩品ハ之ヲ他ノ必要品ト現物交換シタルモノデアアル去レハ近世ニ至ルモ毛皮類ノ賣買交買ナルモノハ地方産業上甚タ重キヲ成シツツアルモノデアアル米國東部地方加奈陀東部竝ニ西部地方「アラスカ」西北利亞及北大平洋沿岸諸島ノ如キ今ニ於テモ盛ナルノミナラズ產出ノ減退ヲ防止セントシテ此等毛皮動物ノ保護繁殖ノ爲ニ有ユル人カヲ

加ヘテ居ル有様デアル。然カモ窮極ナキ文明ノ進撃ト、人口増殖ニ依ル閑遠境裡ノ破壊トハ、彼等ノ棲息ニ安全ナルヲ得ス、一般ニ棲息數ヲ少クシ、産額ヲ減退スルノ餘儀ナキニ至リ、需要ト價格トハ互ニ糶リ合ヒテ、著シク高價ヲ唱へ、少シク珍ラシキ品ニ逢ヘハ、殆ント價ヲ論スルノ違ナカラントス。茲ニ於テカ、染色加工ニ依リテ擬似品ヲ摸造シ種々ナル名稱ヲ附シテ、商店ニ羅列スルモノ、比々トシテ是レ在リ。斯ノ如ク需要増加スルモ、供給之ニ伴フ能ハサルニ至リテハ、毛皮類ノ産出ハ依然トシテ之ヲ天然産出ノ状態ニ放任スルコト能ハス。或ハ禁獵區域ヲ設定シテ、自然的繁殖ヲ企テ、或ハ特ニ飼養場ヲ設ケテ、人工繁殖ヲ試ムルニ至ツタ。露領亞細亞ノ「コマンドルススキー」北米「アフスカ」、ノ「プリビロフ」島及我カ樺太ノ海豹島ニ於ケル、臘肉獸ノ保護繁殖ハ、既ニ一般世人ノ詳知スル所デアアルガ、此他狐、貂、鼬、鼠、河狸、兔ノ如キ、毛皮獲得ノ目的ヲ以テ、北方互寒ノ地ニ於テ此レカ飼養繁殖ヲ謀リツ、アリ。殊ニ露國バイカル州ニ於ケル黑貂飼育、加奈陀「クエベツク」、「オンタリオ」、「クインスランド」、「プリンス、エトワード」島ニ於ケル黑狐飼養、「アラスカ」ニ於ケル綠狐飼養ノ如キハ、其ノ顯著ナルモノデアアル。就中加奈陀ニ於ケル黑狐飼養ハ、最モ盛況ヲ呈シ、或ハ個人經營ニ成リ、或ハ株式組織ニ依ルモノアリ、一九一四年夏期ノ調査ニ依レ

ハ、加奈陀ニ於ケル黑狐飼養經營者ノ數ハ、三百有餘ニ達シ、此レカ投資總額八千八百萬圓ヲ積算セリ。獨リ「プリンス、エドワード」島ニ於ケルモノヲ見ルモ、尙二百有餘ノ經營者ト五千餘萬圓ノ投資額ヲ示シ、此ガ利益配當ハ、五割乃至二十割ニ上リ、最高五十割ニ達セルモノサヘアルモ、平均四割デアアル。斯ル有様ヲ以テシテ、狐飼養ノ問題ハ、頗ル世人ノ耳目ヲ聳動シテ居ル。最近ニ北米並加奈陀諸國ヲ旅行セル羈客ノ談ニ依レハ、車ニ載リテモ、旅館ニ入りテモ、將タ「レストラント」ニ行キテモ、行ク所狐ノ談話ヲ聽カザルナシデ、恰カモ十年前ノ當時南洋護謨栽培ノ利益說ノ盛行ハレ、護謨ノ談ノ出來ヌ輩ハ紳士ニアラズ、事務ヲ知ルモノニアラズトシテ、輕侮セラレタルト、同様ノ觀アルコトヲ傳テ居ル。致富功利ノ觀念ノ強キ、就職ノ困難多キ今日ニ於テ、狐飼養ノ事ノ、頗ル人口ニ膾炙セラルルモノ、寔ニ人意ニ投シ易キモノアルカラデアアル。護謨栽培ガ當時ニ於テハ、或ハ之ヲ以テ投機的ナリト憂ヘタルモノアリ、成程護謨ノ價格ハ、當時ヨリモ著シク下落シ、利益ハ薄ラキシトハ云ヘ、尙ホ價格ノ下落ハ、反テ其需要區域ヲ擴大シ、各種工業原料トシテ、新ラタナル要途ヲ得ルコトトナリ、最早投機的ニアラズ、反テ堅實ニシテ有利ナル企業トシテ、解決ヲ告ケラレテ居ル。狐飼育ノ事畢竟亦此經路ヲ踏マントスルモノトシテ、愆ナキニ庶

幾カラシカ。

我樺太ニ於ケル動物飼養ノ事ハ其天然の氣候ト及四圍ノ境遇狀態トヨリ見テ必然起ラサルヘカラサルモノデアアル。而シテ其飼養動物ノ種類ニ至リテハ、多少ノ考慮ヲ費サナケレハナラヌガ、狐、貂、狸、河獺、兔ノ如キハ先ツ見込アルモノデアアル。勿論此等ノ飼養繁殖ニ就キテハ、第一ニ彼等ノ生活狀態ヨリ、一般ノ習性ヲ審ニスル必要アリ。而シテ彼等ノ天性ヲ害セズ、彼等ノ安心シテ子孫ヲ繁殖スルヲ目的トシテ、適當ナル飼養法ヲ案出セナケレハナラヌ。以上各種ノ動物ニ就キテ之ヲ述フルコトハ、繁雜ニ互ルカラ之ヲ避ケ、本編ニハ狐ヲ主題トシテ、其飼養繁殖利用等ノ概要ヲ述ブルコトニスル。要スルニ狐ノ人工飼養ノ事タル、之ヲ一種ノ經營トシテ、經濟的取扱ヲナスニ至レルハ、頗ル近代のモノニシテ、此カ組織的研究モ未タ充分ナリトスルコトガ出來ヌ。殊ニ日本ニ於テハ曾テ之ヲ試ミタルモノサヘナイ今日デアルカラ、調査資料ヲ得ルコトモ亦不可能デアルケレドモ、現今最モ進歩シテ居ルト稱セラルル、加奈陀、ブリンス、エドワード島ニ於ケル、飼養法ヲ參酌シ、之ヲ我樺太ニ當嵌ムルヘク、島民諸君ト共ニ工夫シタイモノデアアル。

## 第二章 狐飼育ノ沿革

狐飼育ノ業ト云フモノハ極メテ沿革ニ乏シキモノデアアル。或ハ動物園ニ飼養セラレ、或ハ農夫杣夫カ、狐ノ巢窟ヨリ狐兒ヲ捕ヘ歸リ、半ハ玩賞的ニ飼養セシコトハ、之ヲ古キ時代ニ討ネテ事實アリトスルモ、之ヲ經營上ノ一職業トシテ試ムルニ至レルハ、極メテ近代ノコトニ屬シ、或ハ遠クテ三、四十年前ノ時日ニ發程セルモノナリトシテ差支ナシ。

青狐ノ飼養繁殖ヲ以テ名アル「アラスカ」ニテハ、今ヲ距ル約三十年前西部地方ニ於テ毛皮動物飼養ノ計劃ヲナセルモノガアツタ。則チ「プリビロフ」島(臘肭獸ノ多數棲息セル地ナリ)ニ棲息セル青狐カ、能ク馴養ニ堪ユヘキヲ認め、試ニ二十頭ヲ「ノース、セミデー」群島ニ移シタ。元來同島ハ無人ノ列島ナレハ、特ニ垣籬ヲ建設スルノ煩勞ナク、仕事ハ甚タ輕便ニ運ハレシト雖モ、狐ノ習性、食餌並繁殖ノ狀態ニ關シ、何等知識經驗ノ備ハレルモノナカリシカ爲ニ、將ニ失敗ニ終ラントセシカトモ、多大ノ苦心經營ニ依リテ、漸ク其ノ事業ノ價值アルコトヲ確メ、次第ニ飼養地域ヲ擴大シ、終ニ「アラスカ」沿岸諸島ニ普及スルニ至ツタ。是レ實ニ「プリビロフ」島ニ捕獲セル、二十

頭ノ狐群カ其ノ端緒ヲ啓ケルモノデアアル。アラスカ沿岸諸島中、狐ノ飼養上最モ注目スルニ價スルモノハ、カヂアツクノ東方數哩ノ距離ニアル「ロング島」及「バルデツ」ノ南方百二十五哩ヲ距ル「ミッドルトン」島等デアアル。一帯ノ草原ハ、椴松林ヲ以テ掩ハレタル島デアアルカ、海岸ニ接近シテ樹林ノ盡クル所、花卉青草ノ圍繞スル所、管視人宿舍ト納屋トヲ見ル。魚類ハ豐富ニシテ、野菜、馬鈴薯ノ産出モ充分ニアリ。理想的狐飼養地デアアル。アラスカニ於テハ、獨リ之ヲ島嶼ニ經營セララルノミナラス、内陸各地ニ於テモ、飼養場ノ設置ヲ見ルニ至リ、地方住民ノ生業トシテ、確カニ其ノ根柢ヲ据ユルニ至ツタ。

「アラスカ」ニ於ケル青狐ト相竝ヒテ、或ハ之ヲ凌駕シテ、米國及加奈陀ノ東部地方ニ、黒狐ノ飼養繁殖ヲ企ツルモノカ輩出シタ。即チ北米合衆國ノ領土内ニテハ、「メーン」州ニ盛ニシテ、「ニュー・ハンプシャイア」、「ミネソタ」ノ諸州之ニ次ク、加奈陀ニ於テハ、「ニュー・ブルンスウキツク」、「ノバスコチア」及「プリンス・エドワード」等ノ沿岸諸島ニ最モ盛ニ行ハレ、ラブラドル「クエベック」、「オンタリオ」諸州内ニモ、亦大ニ此カ飼養ヲ見ルノデアアル。毛皮商人ノ云フ所ニ依レハ、優良ナル銀黒狐毛皮ハ、「ニュー・ブルンスウキツク」ヨリ、「クエベック」、「ラブラドル」ニ互ル、一帯高地ヨリ産出セラル

ルモノデアアルトシテ居ル。

米國及加奈陀ノ東部地方ニ於ケル銀黒狐飼育ニ就キテハ、随分高價ナル經驗ヲ經テ、今日ノ發達ヲ遂ケタルモノデアアル。今日世界中最多クノ狐飼養場ヲ有スル「プリンス・エドワード」島ノ如キ、「チグイシユ」ト名クル所ニ於テ、今ヨリ三十五年以前ニ、「ベンジャミン・ヘーウツト」ト云フ者ガ、七偶ノ狐ヲ基本トシテ、飼養ヲ謀ツタカ、性惡ノ親狐ニ巢ヲ荒ラサレテ、遂ニ廢滅ニ歸シタ。其ノ後、「ロバート・オルトン」及「チャーレス・ダルトン」ノ兩人ガ、共力シテ、一八八七年ニ、更ニ同島ノ「サベルン」ニ之ヲ試ムルニ至ツタ。兩人ノ堅忍努力ハ、漸クニシテ成功ノ萌芽ヲ發シ茲ニ同島ニ於ケル狐飼養業ノ開祖トシテ知ラルルニ至ツタ。

加奈陀「オンタリオ」州テハ、「ジョージ・クラーク」ガ、一九〇五年ニ「セント・カザリン」ニ試ミタレドモ失敗ニ終ツタ。クエベック州ニ於テハ、同國ノ毛皮商「バツケー」兄弟商會ナルモノガ、「セント・ローレンス」灣ニ注グ「サケーネー」河口ノ三角洲ニ、飼養場ヲ建設シ、次ニ亦同灣頭ニ於テ、「リヒト」フ「レー」ガ、尋テ之ヲ試ムルニ至ツタ。然シ「クエベック」州ニ於ケル、最後ノ成功者ハ、同灣内「ベストール・ペー」ニ事業ヲ計劃シタル「ヨハン・ベルツ」デアアル。而シテ「チャーレス・ダルトン」ト云ヒ、「ヨハン・ベルツ」ト云ヒ、苦辛慘

擔ノ結果、彼等ハ今日見事ニ成功者タルノ榮冠ヲ戴ケルモノデアアル。失敗ハ成功ノ礎ヲ造ルト云フコトガアルガ、幾多失敗者ノ犠牲ニ依リテ、漸次研究ノ歩ヲ進メタル今日ニ至リテハ、確ニ一事業トシテ成立スヘキモノナルコトヲ、認知セララルルニ至ツタ。試ニ狐飼養ノ最盛地タル、プリンス、エドワード島ニ於ケル概況ヲ見ルニ、同島ハ地圖ヲ繙キテ見レハ、能ク解カルコトデアアルガ、加奈陀ノ東南部タル、クエベック、ラブラドル、ニユー、ブルンスウキツク諸島ニ包圍セラレ、一方大西洋面ニ、ニユー、ホンドランド島ヲ控ユル、内海中ニ蟠起セル叢爾タル小島ニ過ギスシテ、面積僅ニ二千百三十三平方哩、人口拾貳參萬之ニ住ス。土質ハ赤色眞土ニシテ、砂礫ヲ混ジ、樹木ノ生長ハ良好デアアル。狐ノ外、貂、鼬鼠ノ類ヲモ、飼養場ヲ設ケテ、養殖ヲ計リツ、アル。其ノ飼養地トシテハ、同島ノ首都、シャローツトタウンヲ初メ、「アルバートン」、「サンマーサイド」此ノ三都會ノ近郊二三哩ノ間ニ所在セルモノガ、其ノ最モ顯レタルモノデアリ、亦多數飼養場中、其ノ半ハ種狐ヲ繁殖スルヲ以テ目的トシテ居ル。一偶ノ種狐カ、能ク參萬圓、四萬圓ト評價セラルルモノデアルカラ、其ノ投資額ノ莫大ナルコトハ勿論ノコトデ、獨リ「シャローツトタウン」附近ニ於ケルモノノミヲ以テシテモ、狐ノ評價額五千萬圓ト稱セラレテ居ル。飼養場各自ノ間隔ハ

二三哩ヲ置キテアルガ、此間常ニ自働車ヲ驅テ所有者管理人等カ、往來シ、自然ニ道路ノ整理モ行ハレ、新緑ノ候蟲々タル榎松原ノ間ヲ驅クルコトハ、試ニ愉快ノ極デアルト見物シタ人ノ話デアアル。

加奈陀ニ於ケル狐飼養ノ中央地方トシテハ、前述「プリンス、エドワード」島ノ三市街附近ノ外、「ニユー、ブルンスウキツク」州ノ「ポート、エルジン」、「クエベック」州ノ「セントローレンス」灣頭、北岸ノ「ベストール、ベイ」及「クエベック」市、「オンタリオ」州ノ「ワイオミング」附近デアアル。一九一三年(大正二年)十月現在、加奈陀内飼養中心地帯ニ於ケル、銀黒狐飼養數ハ、概要左ノ頭數ヲ算スルコトガ出來ル。但シ其翌一九一四年ニハ、此レガ確カニ倍加シテ居ルコトハ、政府報告ノ明示スル所デアアル。

地名	頭數	地名	頭數
アルバートン	五〇〇	サンマーサイド	三〇〇
シャローツトタウン	三〇〇	モンタテグ	五〇
ムレイハーポアー	四〇	ポート、エルジン	六〇
クエベック市	三〇	ベイスターベイ	二〇
ワイオミング	二〇		



勿論此等ハ、黒狐ノ中デモ優良ナルモノデ所謂種畜トモ稱スヘキモノヲ舉ゲタノ  
デアルカラ、等外種ノ數ニ至リテハ、此外ニ尙多數アルコトハ、云フマデモナイコト  
デアル。

加奈陀ニ於ケル、狐飼養事業ハ、箇人經營ノモノアリ、株式會社經營ノモノモアルト、  
前ニ述ヘテ置イタガ、サテ國內ニ於テ如何程位此レカ爲ニ經營資本ヲ投シ居ルカ  
ヲ、州別ニ舉クレハ左ノ如クデアアル。但シ此調査ハ、一九一四年(大正三年)現在ノモノ  
ニ就テデアアル。

州名	經營數	投資額
プリンスエドワード	二〇一	二六、一一四、四〇〇 <sup>弗</sup>
ノバスコチア	四六	八、六八〇、〇〇〇
ニュー、ブルンスウキツク	四二	三、四七五、〇〇〇
アルバーク	九	八七五、〇〇〇
ブリチシユ、コロンビア	二	五〇〇、〇〇〇
計	三〇〇	三九、六四四、四〇〇

加奈陀ニ於ケル黒狐若クハ銀黒狐飼育ノ盛ナルコトハ、之ニ依リテ略推知スルコ

トガ出來ル。

次ニ毛皮類ノ世界的産地タルベキ、露國ニ於ケル黒狐飼養ノ事ヲ討スルニ、此亦最  
近加奈陀ニ於ケル事業ノ成績ニ衝動セラレテ、ウラヂミール、ジエネロソツフ「カイ  
ルクツク」地方ニ、飼養場ヲ建設シタルヲ以テ、本業ノ紀元ヲ劃スベク、此以前ニ於テ  
ハ、別ニ注目スヘキモノナカリシカ、以來大ニ増加ノ傾向ヲ呈シテ來タ。要スルニ科  
學ノ進歩ハ、或ル程度マデハ人力ヲ以テ自然ニ打勝チ、自然ヲ左右スルコトガ出來  
ル。吾人ハ殊ニ近代ニ至リテ、此傾向ノ甚シクナツタコトヲ見テ、現代文明境域ノ展  
開ヲ喜フモノデアアル。今日吾人カ家畜トシテ世益ヲナシツツアル動物ト雖モ其ノ  
根元ヲ尋ヌレハ、等シク野獸テアツタノデアアル。此ヲ顧ルトキハ野狐ノ人間ニ馴致  
セラレ、人意ヲ以テ改良竝ニ繁殖ノ方便ヲ盡サルルニ至リ、從來ノ家畜ナル品彙中  
ニ、新ニ如入セシムルヲ餘儀ナクセシメタルコトハ、確ニ近代學術上竝ニ事業上ニ  
於ケル進歩トシテ、慶フベキコトデアルト思フ。

加奈陀ニ於ケル狐飼育業者ハ、斯業ノ發達ヲ計リ利益ヲ確實ニセンカ爲ニ、近來組  
合ヲ設ケ、狐ノ畜籍ヲ作りテ、改良種畜ノ血統ヲ明カニシ、所有者ヲ明記シテ盜難ニ  
備ヘ、亦廣ク市場ノ狀況ヲ詳カニシテ、販路ノ擴張ヲ企テテ居ル。加奈陀州法ハ又彼

等ノ爲ニ、飼育場ニ闖入シ、若クハ故ナクシテ附近ニ徘徊セルモノニハ、警察上此レカ制裁ヲ加フルノ制度ヲ定メ、此レカ保護竝ニ盜難防止ニ努メテ居ル。

斯クシテ各州組合ハ、又系統的ニ加奈陀聯合會ヲ組織シタ、聯合會ノ主ナル業務ハ種狐ノ檢定ヲ行ヒ、野獸ノ保護ニ努メ、疾患ノ發生ヲ防止スルニアル。而シテ聯合會ハ斯業者ノ參考、竝ニ通信ニ資スル目的ヲ以テ、月報ヲ發行シ、又毎年總會ヲ開キ、毛皮商狐飼養場主、飼養場管理者、指導教師、政府吏員等ヲ招集シテ、斯業ノ發達進歩ヲ作爲シテ居ル。茲ニ於テカ狐飼養業ハ、裁然トシテ畜産界ノ一分科トナリ終レリト云フベキデアアル。

### 第三章 飼育場用地ノ撰定

狐ノ飼育論ニ入ルニ先テ、豫メ一言ノ辨ヲ費シテ置カナケレバナラヌコトガアル。夫レハ第一ニ飼育ニ對スル經營上、規模ノ大小如何、即チ農家、袖夫ノ副業トシテ、家庭の副産物タラシメンカ爲ニ、僅ニ數頭若クハ十數頭ヲ飼養スルモノト。又前述加奈陀ニ於ケルモノノ如ク、合資若クハ株式組織ニ依ル、會社經營ノ下ニ行フトノ、區別ヲナス必要ガアル。第二ニ狐飼育ノ目的如何、即チ言葉ヲ換ユレハ、優良種族ノ繁

殖普及ヲ計ルニ就テ、其ノ基礎タルヘキ種狐ヲ育成スルコトヲ以テ主眼トスベキヤ、若クハ只單ニ毛皮ヲ得ルコトヲ目的トシテ、種狐ノ產出育成ヲ、目的トセサルカヲ決定シテ、事業上ニ發足セナケレハナラヌト云フコトデアアル。

狐ノ飼育業經營ニ關シテハ、上述四ツノ手段カアルガ、併シ之ヲ實際ニ施ス場合ニ於テハ、種狐ノ飼育繁殖ノ如キ、資本ト技術トヲ要スルコトノ大ナルモノハ、宜シク之ヲ専門的經營者ニ委シテ然ルヘキモノデアアル。之ニ反シテ各種毛色ノ異ナレル若クハ多數優良ナラサル狐ノ、雜然トシテ棲息スル儘、天然地勢ニ從ヒテ、或ハ半島或ハ島嶼ヲ劃シテ、飼養場トナシ此内ニ棲息セル狐群中、好マシカラザル毛色ノモノヲ屠殺シ、好マシキモノヲ殘コシテ、自由交配ニ依リ繁殖ヲ謀ラシムル、所謂淘汰法ニ依リテ、志スヘキ彼岸ニ達セントスルモノガアル。近來野獸動物牧場ナドト稱スル一般ノ說ノ多クハ、此後者ノ類ニ屬スルモノデアアル。併シナガラ、此レハ甚ダ粗放ナル經營テアツテ、其ノ彼岸ハ中々ニ遠ク、何レノ日ニ到達シ得ベキカ聊カ望洋ノ歎ナキ能ハズデアアル。

狐ノ飼育ヲナスニ當リ、此レガ經營上規模ノ大小竝其ノ目的如何ニ依リテ、飼養場設置ノ上ニ、甚シキ逕庭ヲ齎シ來ルヘキハ自然デアアル。願ミテ我樺太ニ於テハ、今日

ノ状態ヨリシテ、農家柚夫ノ副業トシテ之ヲ兼業セシムルコトガ、最モ策ノ得タルモノトナスヘキカ故ニ、勢ヒ彼等ノ資力ニ相當スヘキ計劃ノ下ニ、之ヲ實行セシムヘキデアアル。凡ソ事業ニハ階梯ト云フモノガアル、最初ヨリ純粹ノ黑狐ヲ種畜トシテ求ルカ如キハ、甚タ高價ニシテ、此レカ爲ニ多額ノ資本ヲ固定セシムルコトハ、能ク彼等ノ耐ヘ得ル所デナイ。是ニ於テカ飼養場ノ建設モ比較的簡單ナルモノニシ小規模ナガラ、數頭ヲ飼養シ之ヲ根基トシテ飼養法ヲ體得スルト同時ニ、人工的ニ交配繁殖ヲ行ヒ、以テ次第ニ優良ナル種畜ヲ得、從テ良好ナル毛皮ヲ産出スルコトヲ念トセナケレバナラス。要スルニ飼養場建設設計ニ就キテハ、簡易ナルモノト、比較的完全ナルモノトノ二種ヲ舉ケテ、此レガ説明ヲ加ヘテ見タイ。其ノ簡單ナルモノハ、米國ニ於テ、農家ニ副業的ニ經營セシムルモノノ式ヲ採リ、其ノ完全ナルモノトシテハ、加奈陀ニ於テ、資本的ニ經營セラレテ居ルモノノ、例ヲ舉ケタイノデアアル。若シ夫レ山野ノ一部若クハ島嶼ヲ劃シテ、此ニ放牧シ、自然ニ繁殖ヲナサシムルガ如キ方法ニ至リテハ、別ニ飼養場ノ建設ナドアルモノデハナク、僅ニ監視人宿舍ガアルニ過キナイカラ、飼養場設計ノ問題等ハ起テ來ナイ。アラスカニ於ケル青狐ノ飼養ハ、即チ此方式デアアル。然シ米國、加奈陀ニ於ケル、黑狐ノ飼養ニ至リテハ、飼養管

理ノ上ニ於テ周密ナルヲ要スルモノアリ、爲ニ人家ニ接近シテ居ルカ、若シ亦多少遠方ニアレハ、交通上便宜ナル機關ヲ用ユルニ足ルヘキ地點ニ於テ、一定ノ地區ヲ限定シ、此ニ飼育場ノ設備ヲ施スノデアアル。而シテ飼育場ノ設備ヲナスニ當リ用地撰定ノ事先ツ起ル。

山川秀靈ノ氣ハ自ラ人物ヲ化育スルト云フガ、豈ニ獨リ化育ハ人物ニノミ限ランヤ。本題ノ狐飼育ニ當リテモ、風土氣候ハ其ノ品質ニ關係ヲ及ボシ、其ノ毛色ニ甚大ナル影響ヲ來スベキモノデアアルカラ、狐飼養場ヲ建設セントスルニ當リテハ、須ラク先ツ、此レカ用地ヲ何レノ方面ニ求ムヘキヤヲ研究セナケレハナラス。此地域ノ撰擇如何ハ事業ノ成否ヲ決定スルニ、與リテ大ニ力アルモノデアアル。一例ヲ舉クルニ、暖地ノモノハ、寒地ノモノノ毛ノ深クシテ、且ツ細美ナルノ點ニ於テ、到底比較シ得ヘキモノデナイ。又濕氣ノ多キ地方ニ産セルモノハ、濕氣ノ少キ乾燥地帯ニ産セルモノニ比シテ、常ニ良好ナル毛皮ヲ有シテ居ル。則チ湖沼カアルトカ、又ハ入江アル地ニ於テハ、自然ニ濕氣ニ抵抗スルノ必要上、其毛皮ハ毛カ極メテ密生シ、殊ニ樹木多キ森林ニ棲息セルモノハ、其毛カ極メテ細美デアアル。之ニ反シテ海岸デアルトカ、又ハ高原デアルトカデ、風雨ノ直接襲來スルコトノ、劇烈ナル所ニ産セル毛皮ハ、

其毛ハ甚タ粗造ニシテ剛ク、色澤モ亦劣悪デアル。狼ノ如キデサヘ樹林地ニ棲息セルモノト、海濱ニ棲息セルモノトハ、其毛皮ノ品質ニ著シキ階級差異ノアルノヲ見テモ、氣候風土ト毛皮トノ關係ノ如何ニ密接ナルモノナルヤヲ、知ルニ足ルノデア

ル。飼育場ヲ設置スヘキ地勢、竝ニ地方ノ研究ト同時ニ、地質ノ如何モ亦考慮スルコトヲ忘レテハナラヌ。砂土、砂礫土ヲ最モ好適セルモノトシ、粘壤土ハ之ニ次ク、然シ石灰質ノ土地ニハ、飼育場ヲ設クルコトハ、絶對ニ忌避スヘキデアアル。石灰質土壤デアアルト、之レカ爲ニ差毛ト謂フテ、綿毛ノ間カラ飛出テ居ル長イ毛ガアル。此長イ毛ノ色合ヤ、光澤ニ依リテ、毛皮ニ種々特別ナル名稱ヲ附シ、隨テ其品質ニ、良否ノ差別カ生スルノデアアルガ、此大切ナル差毛ヲ損傷シ、磨リ切ラシテ、甚シク品質ヲ害スルモノデアアル。是レハ恐ラク石灰ガ毛皮ノ指油分ヲ石鹼化シテ、毛質ヲ脆弱ナラシメ、此ニ依リテ大切ナル差毛ヲ損傷スルノデアアルマイカ、何レニシテモ斯ル土地ハ、之ヲ忌避スルコトガ肝要デアアル。砂土若クハ砂礫土ハ、自然ニ排水ノ便宜アリテ、地中ニ停滞水ナドナク、狐ノ健康上ニモ適スルノミナラス、乾燥シテ居ルカラ、毛皮ノ汚泥ニ染ムナドノコトハ、常ニナク、場内ヲ清潔ニ保ツコトガ出來ル。然シナカラ此種ノ土

壤ハ、狐カ穴ヲ穿ツノ段ニナルト甚タ便利ニ失シ、輒モスレハ豫期セサル、遁穴ヲ作ルコトガアルカラ、飼養場建設ニ當リテハ、嚴重ニ之レガ固メヲ施スコトガ必要デアアル。若シ夫レ下層土ノ岩盤ガ硬クシテ、容易ニ穴ヲ掘リ得ナイヤウナ土質デアアルナラバ、飼育場建設地トシテハ、恰カモ理想的デアアル。加奈陀ニ於ケル狐飼養ノ最盛地タル、プリンスエドワード島デハ、土地ハ一般ニ粘壤土ヨリ成ツテ居ル。

狐飼育場ノ四圍ノ狀勢ハ、野生狐ノ好ンテ棲息スルモノト、等シカラントコソ好マシケレ、サレバ、森林地内ニ、飼育場ヲ設クルコトガ上策デアアル。樹木ハ勿論、北部互寒地帯ノコトデアアルカラ、蝦夷松、假松、落葉松及樺ノ如キモノガ、自然ニ茂生シテ居ル所ヲ撰フベキデアアル。此等ノ樹木ハ、夏時ハ陰翳ヲ投シテ、狐ノ身體ヲ赤裸々ニ外ニ露出スルコトナカラシメ、冬ニハ地ニ向テ垂下セル樹枝ニ、雪之ニ積リテ自然ニ隱匿所ヲ作爲スルコトトナル。樹木存置ノ程度カラ論スレハ、前述樹種ノ高サ三四間ノモノヲ、枝ノ能ク展開セル、殊ニ下ノ方ノ枝ノ能ク展開セルモノガ、一二間隔リニ點在シ、其下草トシテ小灌木ガ密生セルアラバ、之ヲ理想的ト稱スヘキデアアル。餘リ高大ナル樹木ノ存在ハ、必スシモ必要デハナイ、若シ密林中ニ撰擇スルノ餘儀ナキ事情アラバ、一部伐採シテ、地上ニ躊躇スル狐兒ニ、日光ヲ給與セシムル方便ヲ

探ルカ宜シイ。又全クノ裸地デアラナラバ、則チ「ボブラ」「イタヤ」赤楊柳ノ如キ、生長速カナル樹木ヲ植栽シテ、之レガ缺陷ヲ補足スヘキデアアル。加奈陀「オンタリオ州」デハ、飼養場ノ周圍ニ葡萄ヲ植栽シテ、目隠シヲ作ツテ居ルモノガアル。狐カ葡萄ヲ食フコトハ、西洋ノ御伽噺ニアルヤウナコトデアアルガ、然シ此レハ、狐ノ胃腸ヲ害スルコトヲ免レヌ。又或ハ果樹園内ニ、飼育場ヲ建設シテ居ルモノモアル、是レ亦一考案タルコトノ價值ハアル。但シ此等量後二者ハ、樺太デハ、眞似ノ出來ヌコトデアアルケレドモ、參考ノ爲ニ附記シテ置クノデアアル。要スルニ飼育場地ヲ、樹林地ニ撰擇スルノ利益トシテハ、

- 一 樹木ノ陰翳ニ依リテ、狐ノ出入動靜ヲ秘密ナラシメ、四圍ノ透視ヨリ遠サカラシムルノ結果、狐ヲ盜難若クハ、殺害ヨリ免レシメ、狐群ヲシテ安靜ナル生活ヲ享受セシメ、隨テ繁殖力ヲ増大スル。
- 二 樹林地ハ、高原地ニ比スレバ、夏冬共ニ氣候比較的均一ナルカ故ニ、幼獸ノ發育ニ好適シテ居ル。
- 三 樹林地ニ在リテハ、吹雪ノ襲來強カラス、雪ノ集積ハ一樣均一デアアルカラ、飼育場建設ニ際シテモ、墻垣ノ高サヲ整頓シ得ルノミナラス、墻垣其他營造物ノ、破損ヲ

少クスルコトカ出來ル。

飼育場用地撰定ノ最後ノ要點トシテハ、部落若クハ市街地トノ距離ハ、幾許位ノ所ニスヘキカノ問題デアアル。部落ノ農民、柚夫ノ經營ナラバ、何レ副業的デアアルカラ、人家ヲ距ル遠カラサル、地點ヲ撰フヘキデアアル。殊ニ部落テアル以上ハ、附近ニ樹林地カ自然ニ在ル筈テアリ、通常人家トノ間隔ヲ五十間内外トスルノカ適當デアアル。狐ハ一種ノ異臭ヲ放ツモノデアアルカラ、餘リ人家ニ接近シテ飼育スルトキハ、不愉快ノモノデアアル。サレバトテ遠隔ニ失スルカ如キアラバ、別ニ管理人宿舍ノ建設モ必要トナリ、自ラ經費ノ増大ヲ來スコトニナルカラ、注意スヘキデアアル。又専門的ニ狐飼養ヲナサントスルモノハ、夫々相當ナル設備ヲ施スノデアアルカラ、更ニ遠方ニアルコトガ別ニ差支ハナイ。殊ニ斯ルモノニ至リテハ、飼料ヲ調進スルノ關係上、部落附近ヨリモ寧ロ市街地ヲ中心トシテ、此市街地ヨリ獸肉、骨類及料理店ノ殘肴ヲ得ルコトヲ謀リ、或ハ漁村ヨリスル生魚、乾魚若クハ魚類加工品ノ殘滓ヲ索メ、更ニ附近農村ヨリシテ、蔬菜、穀粉類ヲ取集メテ、飼料ヲ調達スルコトヲ努メナケレハナラヌ。須ラク此等ノ點ヲ考慮シテ、市街ヲ距ル遠カラザル地點ニ於テ、用地ヲ撰定スヘキデアアル。但シ市街地附近ハ、自然ニ行人モ多ク、見物人モ多クナルモノデアアルガ、此

等ノ接獨ヲ避クル爲ニハ、殊更ニ樹林地ヲ撰ヒテ、高ク墻壁ヲ造リ、場域内ヲシテ、極メテ靜謐ニ保ツコトニ留意セナケレバナラス。

最後ニ飼育場用地ノ面積テアルガ、此レハ經營上規模ノ大小如何ニ依リテ、大ニ異ナルコトハ勿論テアル。加奈陀ニ於ケル大規模ヲ以テスルモ五町歩ヲ超過スルコトナク、平均貳町歩内外デアアル。米國テハ農家住宅ノ附屬地ニ設クルノデアアルカラ、貳町歩ヲ越ユルコトナク、其小ナルモノニ至リテハ、二反歩平均八反歩位デアアル。二反歩ノ土地ハ恰カモ親狐六偶ヲ養フニ足ルノデアアル、而シテ此牝牡六偶ノ飼養ヲ以テ通常副業的ニハ、之ヲ經營上ノ一單位ト稱スル。

狐飼育ヲ合理的ニ經營シ、且ツ周密ナリ管理ヲ施サントスルニハ、餘リ多數ノ頭數ヲ飼育スルコトハ困難デアアル。依テ亦廣大ナル土地ヲ必要トハシナイ。併シナカラ「アラスカ」流ノ野外ニ放置スル方式ニ依ルトキハ、其用地ハ徒ラニ廣キ面積ヲ要スルコトハ言フマデモナイ。

#### 第四章 飼育場ノ建設

飼育場用地ノ撰定ガ訖レバ、飼育場建設ニ着手セナケレバナラス。サテ是レガ建設

竝設備ハ、經營上規模ノ大小如何ニ依リテ、相異スル所アリ、加除スル所アルケレドモ、概要スレハ一、外柵、二、内柵即チ鐵網墻垣、三、畜舎、四、監視宿舍、五、飼養雜器具是レデアアル。而シテ内柵及畜舎ノ構造方法ニ至リテハ、各種ノ方式アリテ、米國ノモノト、加奈陀ノモノト異ナリ、又同國內ニ於テモ、多少ノ相異カアルケレトモ、茲ニ述ヘントスルモノハ、加奈陀ニ行ハルルモノノ中、「シヨンス」氏カ目シテ、模範的ナリトスルモノヲ標的トシテ、多少ノ斟酌ヲ加フルコトニシタ。

##### 一 外柵

飼育場ヲ圍繞スル外柵ノ構造トシテハ、末口四寸長九尺ノ丸太杭ヲ用地ノ周邊三尺ノ深サニ植テ、此ニ鐵條ヲ纏付シタルモノト、木板ヲ釘付ケシタルモノトガアル。何レモ場内ノ警固ニ備ユルモノデアアルカ、單ニ鐵條ヲ纏付シタルモノハ、場内ノ透視自ラ明カニシテ、猛獸ノ來襲盜賊ノ侵害ヲ誘發シ、少クトモ傍觀者ノ接近スルヲ防ギ得スト雖モ、木板ヲ以テ六尺有餘ノ高サニ、密ニ本柵ヲ造成セルモノニアリテハ、場内ノ狀況ハ得テ之ヲ窺フニ由ナク、猛獸盜賊ノ侵害ヲ少クシ、傍觀者ニ依リテ騷擾ヲ來スコトモナク、場内自ラ靜謐ニシテ、只管陷リ易キ狐ノ猜疑心ト不安心トヲ少クシ、繁殖育兒其他、一般管理上有益ナル點ガ多々存ス。

外柵ノ一部ニハ門戸ニ依リテ、管理人ノ出入、飼料其他ノ搬出入ニ便宜ヲ與フヘキハ勿論ナルカ、平常ハ堅ク閉鎖シテ、傍觀者ノ來ルコトナカラシメ、又萬一内柵ヲ逸出シタル狐モ、此外柵内ニテ取擒セラルル様ニ、決シテ開放シ置クコトハナラヌ。斯ク注意ト監督トヲ緊密ナラシムルノ上ニ於テ、木柵ヲ以テ場内ヲ包繞スルコトカ利便ナリトスル。尤モ廣キ面積ニ、放牧式ヲ採ルカ如キ方法ニ在リテハ、外柵ノ必要ハ大ニ殺減セラルルノミナラス、經費ノ増嵩スルヲ防クノ必要上、單ニ鐵條ヲ纏付スルコトヲ以テモ足レリトスル。

## 二 内柵 即チ鐵網墻垣

内柵ハ狐ヲ收容スヘキ籠蓋ニシテ、狐ノ生育シ、運動スル範圍ヲ局限スルモノデア。此柵内カ、即チ狐等ノ有スル個中ノ天地テアル。故ヲ以テ狹キニ失スレハ、狐ノ運動ヲ妨ケ、亦廣キニ失スレハ、建設費用ノ増大スルノミナラス、管理ニモ面倒テアル。從來實驗ノ結果ニ依レハ、柵内ノ面積ヲ、周圍百五十尺ニテ圍マレタルモノトシテ居ル。是レハ後ニ述フル所ノ鐵網ノ廣サカラ來ル關係ニシテ、一柵ノ鐵網ヲ以テ周圍ヲ張ルノニ、恰度百五十尺ノ長サニ達スルカラデア。故ヲ以テ柵ノ間口與行共ニ、各三十七尺ニスルモノアリ、又三十尺ニ四十二尺ニスルモノアリ、又飛ンテ二十

五尺ニ五十尺タルコトモ差支ナイ。要スルニ内柵、即チ鐵網墻垣ヲ建設スヘキ地勢ト、其間取ノ工合並畜舎即チ飼養箱ノ配置所如何ト云フ、此三點ヨリシテ、内柵ノ構造及形狀ヲ決定スヘキデア。

今一例トシテ「シヨンス」氏ノ推奨スル所ニ從ヒ、種狐ノ分娩期前後ニ、牝牡ヲ別房ニ分置スル目的ヲ以テ、墻垣ヲ大小二房ニ區切スルモノヲ採リ、其ノ構造ヲ述ヘテ置カウ。此ニハ前述ノ間口ヲ、二十五尺ニシ與行五十尺ノモノカ、適當シテ居ル。但シ墻垣ヲ建設スヘキ位置ハ、用地中一般高クシテ、水濕ノ浸蝕スルナク、冬期間吹雪ノ飛去ル所ヲ撰フヘキハ勿論デア。少シク窪地ナレハ、吹雪ノ集積頻リニシテ、墻垣ハ忽チ堆雪中ニ埋メ込ラルルノ恐アルカラデア。尙ホ樹木ノ餘リ大ナルモノ、及密ナルモノハ、間伐ヲ行ヒ、適當ノ陰翳ヲ、地上ニ投スル程度ニ止メ、又狐ノ攀緣逃去スルヲ豫防スルコトガ必要デア。

墻垣ノ建設地點ノ周縁ニ、深四尺幅四尺ノ幅堀ヲナシ、此ニ支柱トシテ、末口五寸長サ十四尺積雪深キ地方ニテハ、更ニ三尺乃至五尺ヨリ長キ材ヲ用ヒテ墻垣ノ高サヲ増加スルノ必要ガアル。凡太ヲ掘穴ノ外壁ニ接シテ植テ、各支柱間ノ距離ヲ十尺内外トシ、第七圖墻垣ノ平面圖ニ示ス如クニ、支柱ハ間口及此ニ平行セル中隔ニ各

四本、奥行ニハ各七本、合計二十二本ヲ要ス。サテ、此支柱ニハ、其上端竝ニ地表面ニ接スル位置ニ於テ、桁ヲ結付ケ、更ニ支柱ノ一本置位ニハ、根柢ヲ施シ置クコト、同上正面圖竝ニ断面圖ノ如クスレハ、最モ安全デアアル。由來寒國ハ吹雪ノ爲ニ、營造物ヲ吹キ倒サルルノ恐レガアルカラ、比較的堅牢ナル下地ヲ作ルコトカ必要デアアル。墻垣ノ間口ノ方面ニ當テ、出入口及中隔網間ニ、通行口ヲ設ケテ置ク必要ガアル。出入口ハ地上二尺ノ高サニ於テ、横幅四尺、縦三尺ノ大サニシ、堅固ナル兩開戸ヲ付ケ、門ヲ以テ壓ヘテ置ク、而シテ兩房間ノ通行口ハ、略出入口ト同様ノモノデ、横幅ヲ三尺トシ、片開戸トスル。中隔網間ノ二尺ノ通路ニハ、亦金網ヲ以テ、短キ墜道式ニ張付クルノデアアル。平面圖竝ニ正面圖ニ示ス如シ、通行口ニハ、兩方共傾斜セル足臺ヲ架シテ、通行ニ便利ナラシムルヲ要ス。

鐵網ハ、亞鉛鍍十四番鐵線ヲ以テ、網目二吋ノ菱形編ニセルモノヲ用ユルノデアアル。勿論網ノ用ヒラルル部面ニ依リテ、鐵線ノ太サヲ變ヘテモ宜シイガ、大正四年二月中、東京市芝區田町川崎鐵網工場ニ就キテ調査スルニ、十四番線ニテ製セル網ハ、一坪ニ付代價壹圓八拾錢デアアル。爾來戰爭ノ影響ヲ受ケテ此種材料ニ於テモ騰貴スルヲ免レナイ、而シテ今少シク細キ十六番線ナラハ、一坪ニ付貳拾錢内外ノ廉價デア

アル。併シナカラ、保存期間ト經費トノ權衡ヲ採リテ見レハ、廣大ナル飼育場ナラサル限りハ、經費節約ノ關係上特ニ網ヲ變ユルマデモナイ。

樺太廳飼育場ニテ現ニ建設セル飼育場ノ鐵網墻垣ハ、前述ノ形式ニ依リ、周圍百五十尺トシタルモノデアアルガ、此ニ要スル金網ノ坪數百三十坪、此レカ代價約貳百五十圓ヲ要シタ。勿論支柱其他ノ設備費ハ此ノ外デアアル。

前述鐵線ノ番號ト云フノハ、鐵線ノ太サヲ表示スルモノデアツテ、鐵線測定器ニ依リテ、之ヲ測定スルノデアアル。測定器ハ直徑三寸七分位ノ鋼鐵製ノ平圓盤デ、周緣ニ刻度セルモノデアアル。又矩形盤ノモノモアル、普通測定器ニハ、英國「ハーミングアム、ワイヤー、ゲーシ」ト、米國「スタンダード、ワイヤー、ゲーシ」トノ二様アル。兩者ハ竝ビ行ハレテ居ルガ、前者ノ方ハ幾分度ガ粗デアアル。而シテ今測定セントスル鐵線ヲ以テ此測定器ノ刻隙ニ宛テ嵌メテ、其恰當シタル刻隙ノ記號ニ依リテ、其線ノ大小ヲ定ムルノデアアル。

サテ墻垣ニ用ユヘキ鐵網ハ、緊密ニ支柱ニ纏結スヘク、其纏結スヘキ部面ニ依リテ、之ニ四ツノ異ナレル名稱ヲ付スルコトガ出來ル。第一ハ側壁網ト稱シテ、四周竝ニ中隔ニ張付クルモノ、此網ノ高サ十尺ヲ要シ、最大ノ面積ヲ有スル、尤モ積雪深キ所



デハ、前述支柱ノ項ニ記入セル如ク、側壁網ノ高サヲ十三尺乃至十五尺ニスルノ、臨機ナル設計ヲ要スルハ勿論デアアル。第二、地中網ト稱シ、四周ニアル側壁網ト同部面ニ在リテ、然カモ地中ニ埋没セラレルモノデ、埋没セル深サ四尺、第三ハ地中網ノ最下端ヨリ、直角ニ内ニ曲ツテ、水平ニ地底ニ敷カレルモノデ、之ヲ地底網ト稱シ、其幅三尺、此等第二第三種ノ網ハ、何レモ狐ノ土中ヲ掘穿スルコトヲ防クモノデ、第一種側壁網ト各別ニセズ、連續スルモ宜シイノデアアルガ、斯ク縱幅ノ廣キ網ノ製造ハ寧ロ不可能デアルカラ、分離セル網ヲ以テ接合スル方法ヲ採ツタノデアアル。又地中網及地底網ヲ埋ムル代リニ、其部分ニ、コンクリートヲ以テ壘壁ヲ作り、其上ニ土砂ヲ填充セルモノアルモ、此ハ水濕ノ浸透ヲ妨ケ、反テ狐ノ健康上好マシカラヌ結果ヲ來タス。第四種ノ鐵網ハ、折返網ト稱シ、狐カ網ノ上カラ飛ヒ越ユルノヲ防カンカ爲ニ、側壁網ノ頂邊ヨリ、内ニ向ヒ直角ニ、二尺ノ返シ網ヲ取付クルノデアアル。此網ノ取付ケ方ニ就キテハ、恰カモ墻垣内ニ積雪堆クナツタ場合ニ、此折返網ヲ堅ニ向ケテ、側壁ノ用ヲナサシムヘク、態々蝶番ヲ以テ、側壁網トノ接合ヲナセルモノアルモ、是レハ強風ノ來襲ニ依ツテ、反テ破損ヲ速クスルコトニナル。

### 三 畜舎即チ飼育箱

畜舎ニハ、甲乙ノ兩種アリ。甲種ハ、墻垣内ノ廣キ房室中ニ置クモノデ、其構造ハ多少複雑デアアルガ、乙種ハ、狭キ房室内ニ置キ、牝牡隔離シタル際ニ、牡畜ノ隠レ家トナスモノデアアル。其構造タルヤ、古樽カ若クハ古箱ニ、曲レル出入口ヲ附シテ、房室中ニ横伏セニシ置ケハ、夫レデ充分デアアル。サテ然ラハ甲種畜舎ノ構造ニ就キテ以下述ヘヤウ。

狐飼育箱ハ圖ニ示ス如ク、一見狗小屋ニ類似シテ居ル、四圍ヲ木板ニテ重ネ張リトシ、屋根ハ二重板葺ニシテ、兩庇トスル。全體ノ大サヲ四尺幅ニ六尺ノ横トシ、高サヲ四尺トスル。舍内ハ之ヲ二房ニ區切り、其一ヲ寢室トシテ、他ヲ産褥トス。寢室ハ三尺ニ四尺ノ廣サヲ有シ、一方ニハ木樋ニ依リテ、畜舎ノ外部ニ通ズル出入口トナス。木樋ハ内法ニテ横六寸高サ八寸トシ、其先端ハ斜ニ地上ニ接スル様ニ、自ラ傾斜セシメテ置ケハ、取リ別ケ狐兒ノ出入昇降ニモ差支ガナイ。寢室ノ他ノ通路ハ、則チ産褥ニ達スルモノデ、木樋ト畧同様ノ太サノ、然カモ曲屈シタル通路ヲ仕付クルノデアアル。

第二ノ室タル産褥ハ、幼キ狐兒ニ取リテハ、大切ナル安宅ナルガ故ニ、此レカ構造ニハ最モ考慮ヲ要スベク、狭キニ失スレバ産兒ヲ收容スルニ足ラズ、廣キニ失スレバ

彼等ノ相互ニ抱擁團集シテ、暖ヲ採ルニ充分ナラザルノ憾ガアル。通常横一尺六寸縦一尺八寸高サ一尺七寸天井ヲ屋根形トセル、小ナル室ヲ拵ヘ、其四周上下ニハ、防寒ト防濕ノ目的ヲ以テ鋸屑其他保温物ヲ填充スルコト、圖ニ示ス如クスルコトガ必要デアアル。要スルニ、此畜舎内ハ、狐ノ常ニ出入起臥スル所デアアルカラ、自然此レニ接觸スルコト多ク、室内ハ極メテ平滑ニシ、尙其上ニ、ライスベーパーナドヲ用ヒテ狐ノ接觸スル部面ヲ擦リ置クコトガ必要デアアル。此レ狐ノ毛擦レヲ防カン爲メニシテ、又寢室ノ四隅ニ三角板ヲ嵌メ置クモノハ、亦此旨意ニ出デタル技巧デアアル。又時々狐ノ生育状態ヲ檢閲スル必要ガアルカラ、畜舎ノ大屋根ヲ、一面繰リ開クルコトノ出來ル様ニ、構造スルト共ニ、産褥室ノ天井部ヲ、取り開クコトノ設備ヲ、施スコトヲ忘レテハナラヌ。

畜舎ハ狐飼育上、重要機關デアアルカラ、之レガ構造ニ、大ニ注意ヲ拂ハナケレバナラヌコトハ、前來述ヘタル通りデアアルガ、防濕ト保温トノ爲ニ、畜舎ノ外壁ハ、二重張ニシ、其木板ノ間隙ニハ、防水布ヲ填メ、更ニ注意シタルモノニアリテハ、コークス屑ノ如キモノヲ、寢室ノ外圍ニ填充スルモノモアル。

畜舎ハ木杭ノ上ニ据ヘ付ケ、緊着セシムルモノナレトモ、高價ナル種狐ヲ飼養セル

モノニアリテハ、往々盜賊ノ爲ニ、畜舎ヲ破壊セララルアルヲ以テ、最近ニ、コンタリトヲ以テ、畜舎ヲ製作セルモノサヘアルニ至ツタ。

飼育場内、垣竝畜舎ノ配置ニ關シテハ、前來記述シタル所ニ依リ、略理解スル所アルヘシト雖モ、此ニ取り出テテ説明センニ、垣建設地ハ、飼育場内ノ中央高地部ヲ撰ヒ、中ニ三間幅ノ通路ヲ取り、此ヲ夾ミテ、左右ニ各三個ノ垣ヲ配列シ、又各列垣間ノ距離ヲ、六尺乃至八尺トス、而シテ此中央通路ノ一端竝ニ間隔路ノ先端ハ、何レモ、垣壁ヲ延長セル網ヲ以テ封鎖スルトキハ、若シ狐ノ逸出スルコトアルモ、此間隔通路内ニテ、容易ニ生擒スルコトガ出來ル。垣各房室内ニハ、其大ナルモノニ甲種畜舎ヲ据ヘ、其小ナルモノニ乙種畜舎即チ牡ヲノミヲ容ルルニ足ルベキ箱又ハ樽ヲ据置クノデアアル。飼育場配置圖其一(第四圖)ノ通りデアアル。

又別ニ正四角形ノ一角ヲ切り落シタル、五角形ノ垣ヲ、米字形ニ四個集團シ、其中間空地部ニ、産褥付キノ甲種畜舎ヲ四個聯立シ、其對角ニ當ル外方ニハ、乙種畜舎ヲ一個宛附設シ置クモノガアル。飼育場配置圖其二(第五圖)ノ通りデアアル。然シ此レハ、牝牡ノ接觸ヲ調節スルノ上ニ於テ、前項ニ述ヘタルモノノ如クニ、便利ナルコトハ出來ヌ。

#### 四 監視宿舍

狐ノ飼養管理ニ携ハルモノハ、常ニ狐ニ接近シテ、能ク馴ルルコトガ必要ナルノミナラズ、盜賊、猛獸ノ侵害ヲ防禦スルノ必要ヨリシテ、飼養場内ノ一隅ニ、宿舍ヲ建設シ、此ニ宿泊シ、飼料ノ調理カラ萬端ノ世話ヲ、親切ニシテヤラネバナラス、又飼料ノ貯藏庫入等モ、併セテ行フベク、此所ニ必要ヲ生シテ來ルノデアアル。併シ飼育場ヲ自家居宅ノ附近ニ設クルニ於テハ、特ニ此レカ設備ヲナスマデモアルマイ。

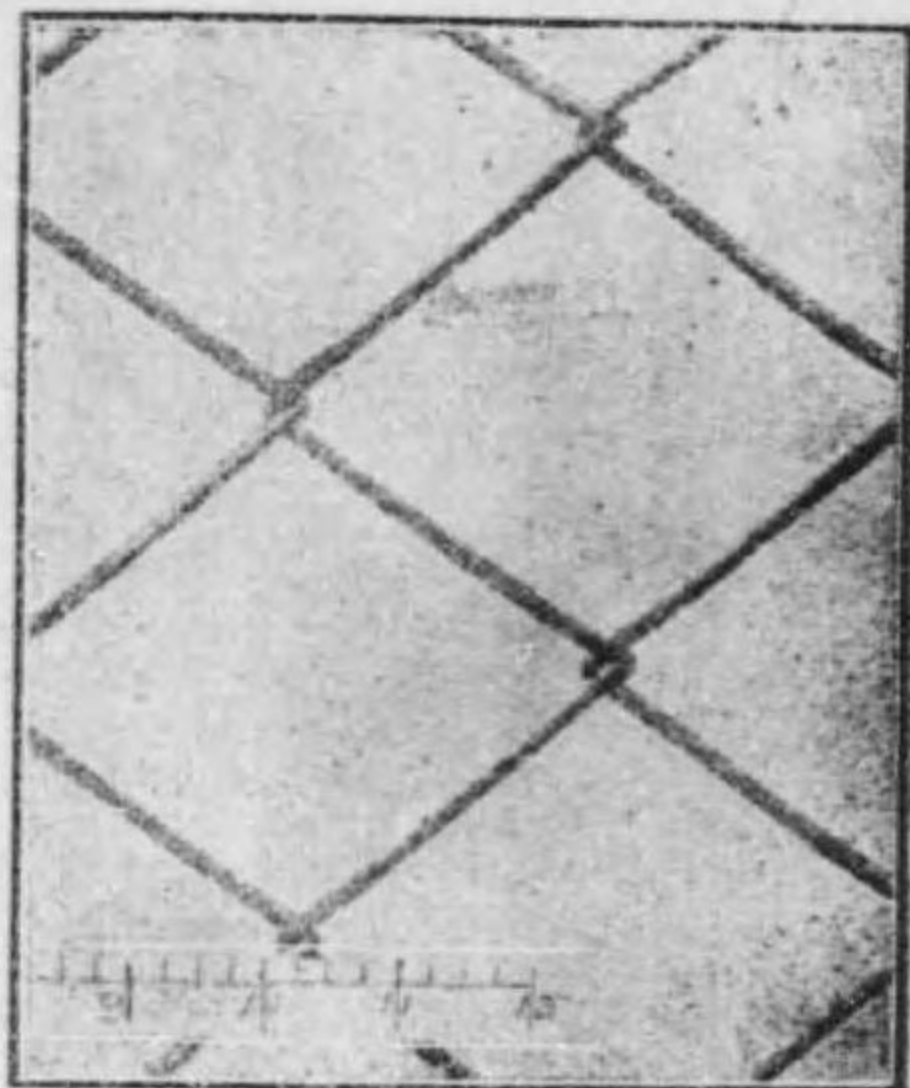
#### 五 飼養雜器具

飼料ヲ調理シ、給興スルニ用フル器具、屠殺並剝皮用器具等大小雜多ノ器具ヲ要スルノデアアルガ、此等ハ大概一般家畜ニ對スルモノト、略同様デアアルカラ、細述スルコトヲ省略スル。

以上飼養場ノ建設方法ニ就キテハ、シヨンス氏ノ所謂模範的ナルモノデ、種狐ノ繁殖飼育ヲ目的トスルモノニ恰適シ、建設費用モ自然ニ増嵩スルヲ免レナイガ、一般農民ノ副業的ニ、勸誘スベキモノトシテハ、尙一層略式ノモノタルベキヲ要スベク、各人宜シク其取捨ヲナスベキデアアル。

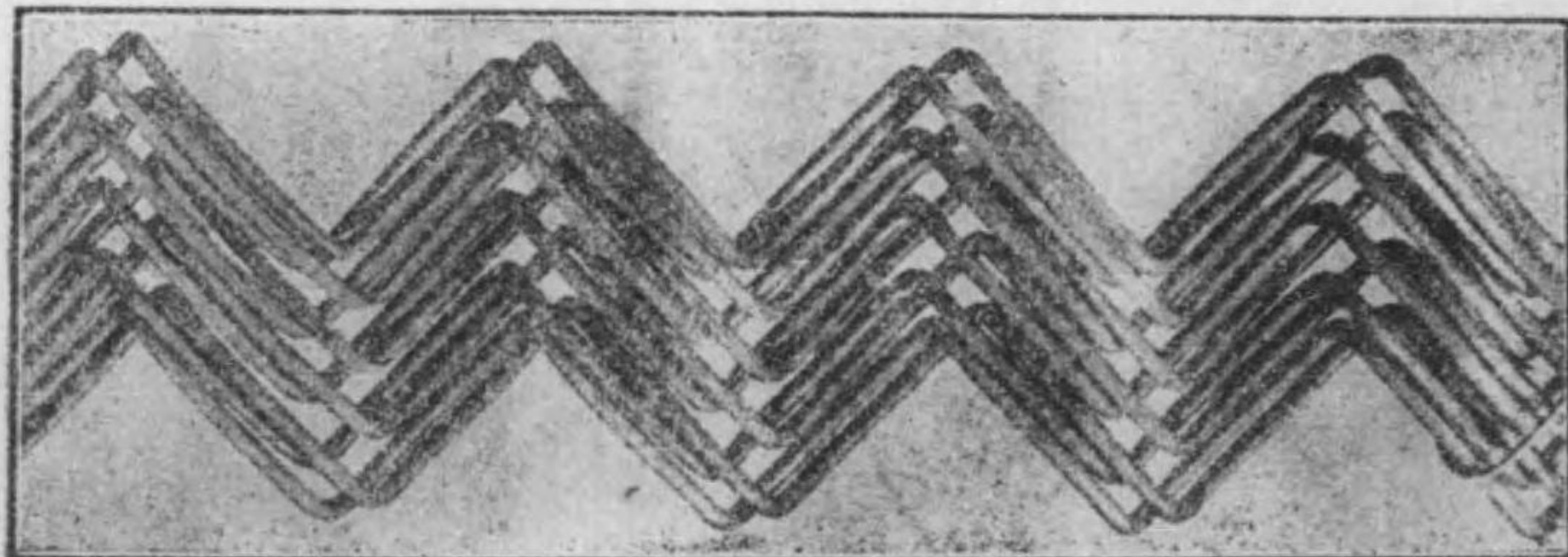
米國ニテ行ハル、飼育場ノ設計ハ、加奈陀ノモノノ如ク、墻垣ヲ周回百五十尺ノ小

網金形菱式線單



第一圖

況實之疊縮網金形菱



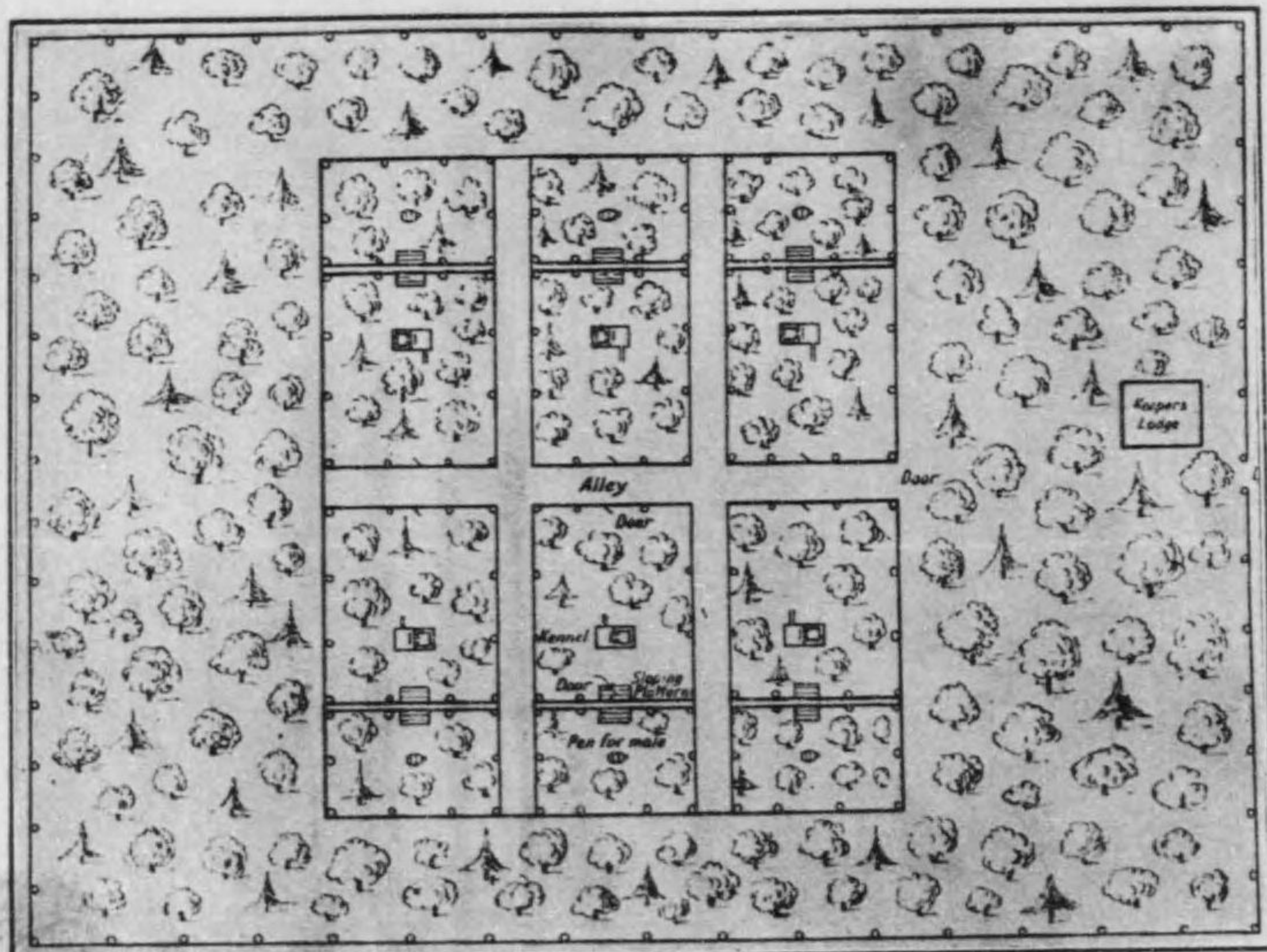
第二圖

#### 單線式菱形金網 標準代價表

製品番	應用針金號 S.W.G	菱形網目	六尺平方 壹坪代價
1	8	吋6	1,080
2	10	〃	900
3	8	3	2,520
4	10	〃	2,160
5	12	〃	1,800
6	14	〃	1,440
7	10	2	2,520
8	12	〃	2,160
9	14	〃	1,800
10	14	1	2,520
11	16	〃	2,160
12	14	3/4	2,880
13	16	〃	2,520
14	8	4	1,800
15	10	〃	1,620
16	12	〃	1,440

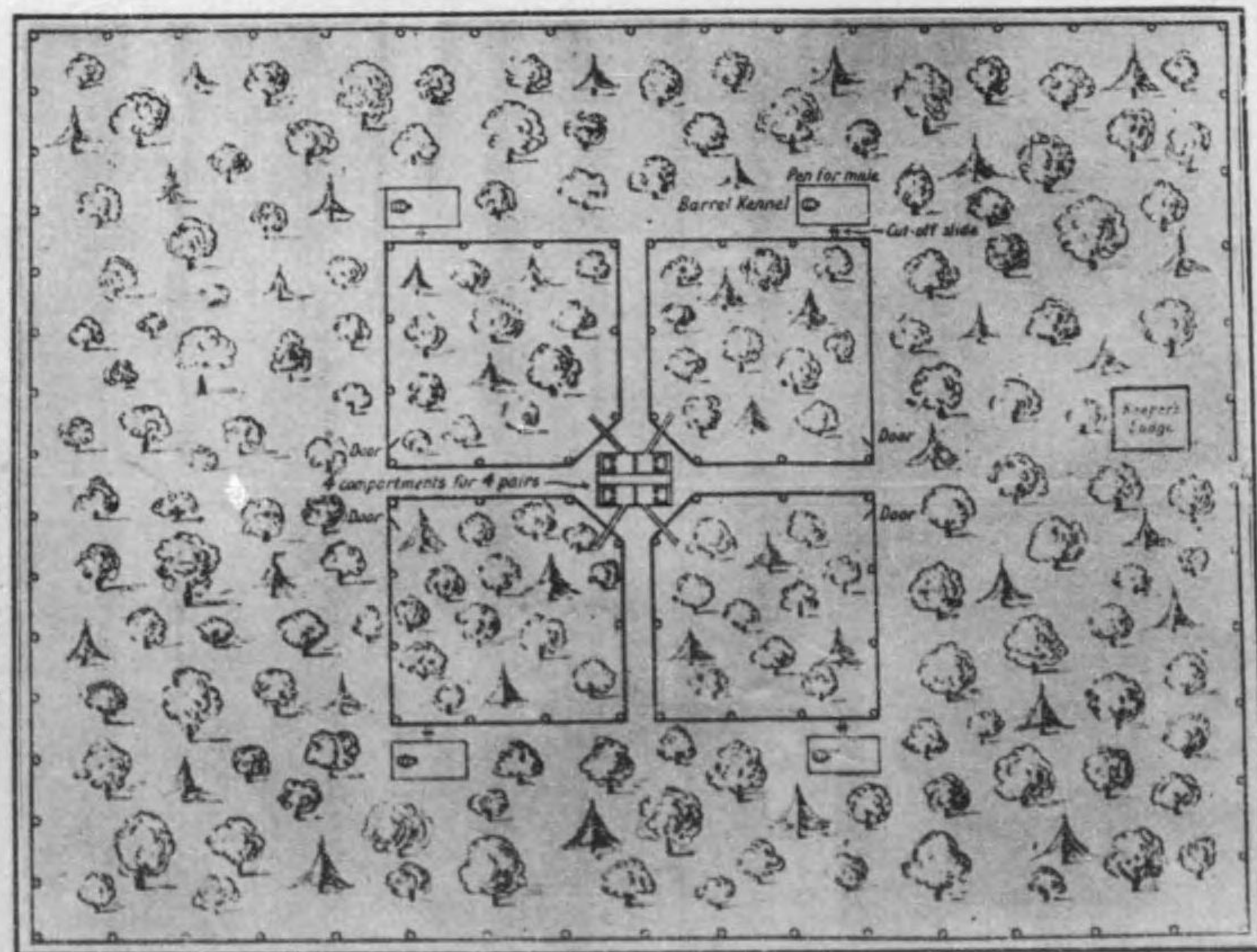
備考 代價ハ時ニ依リ變動アルモノト知ルベシ

圖 四 第



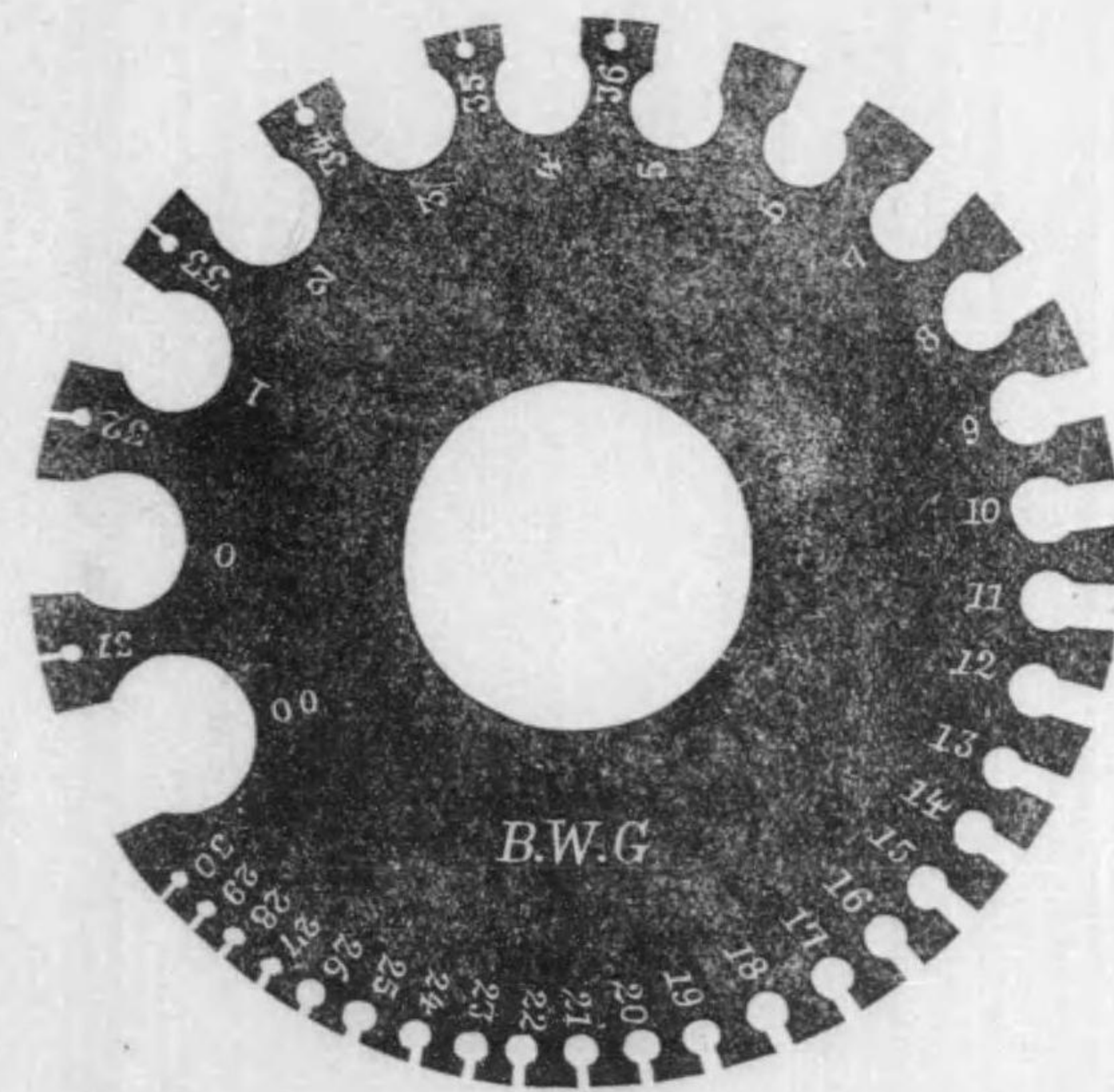
飼育場配置圖其一(シヨンス氏模範設計)

圖 五 第



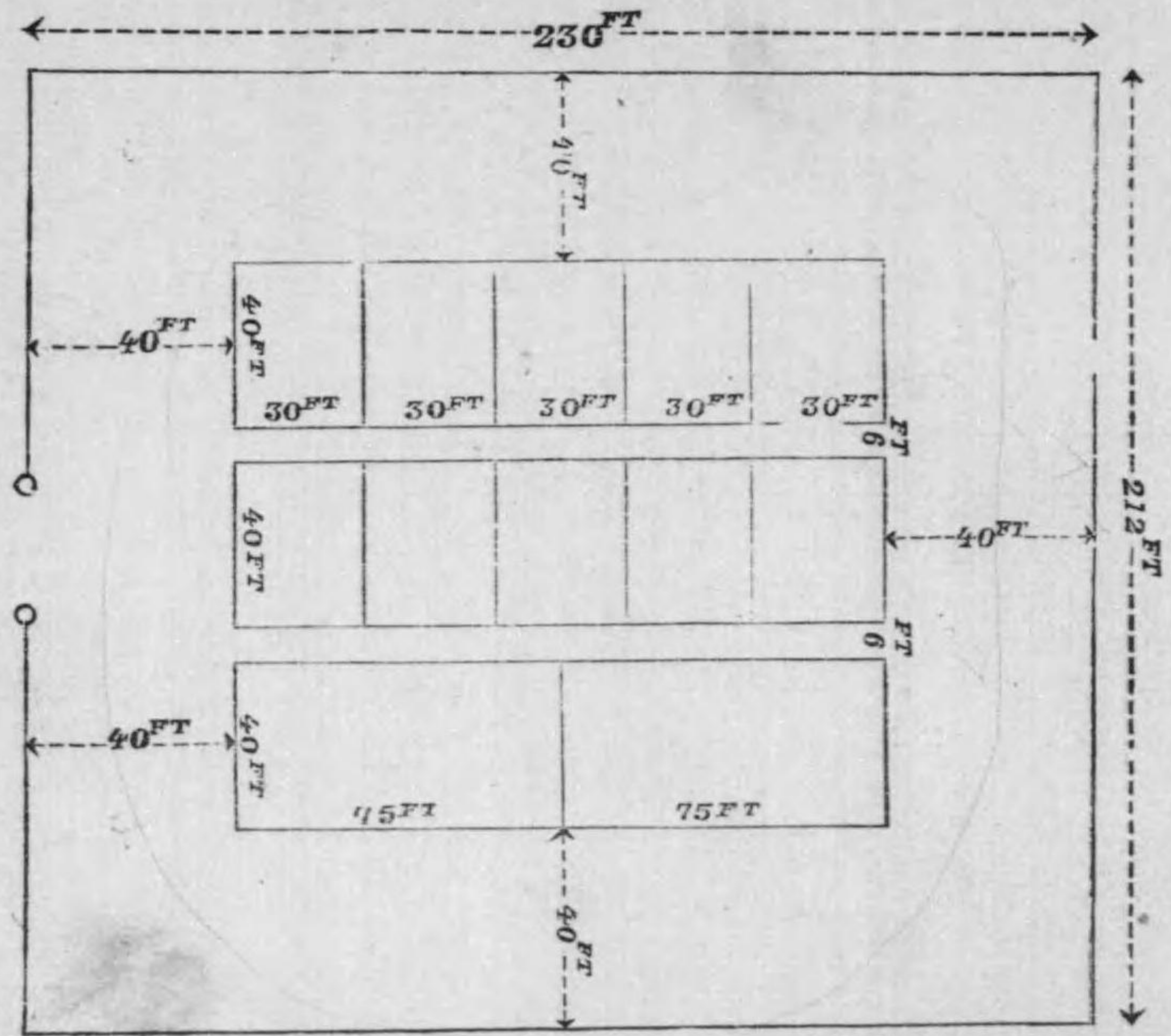
飼育場配置圖其二

器 定 測 線 盤



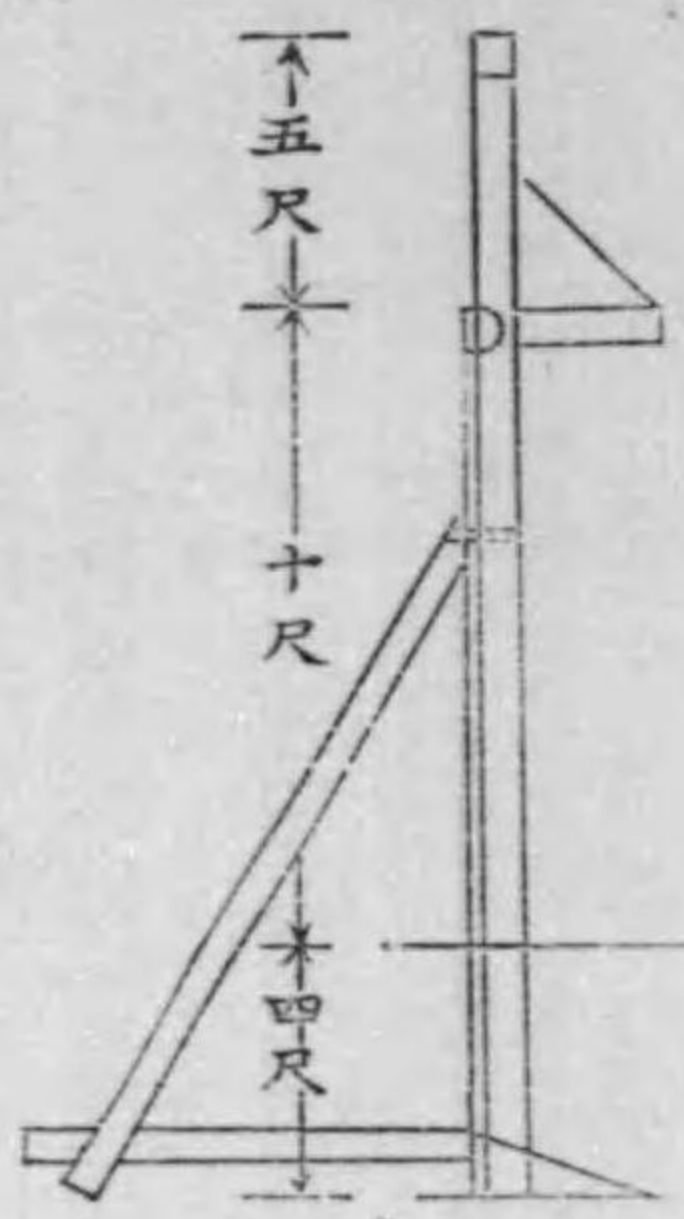
第 三 圖

圖 六 第



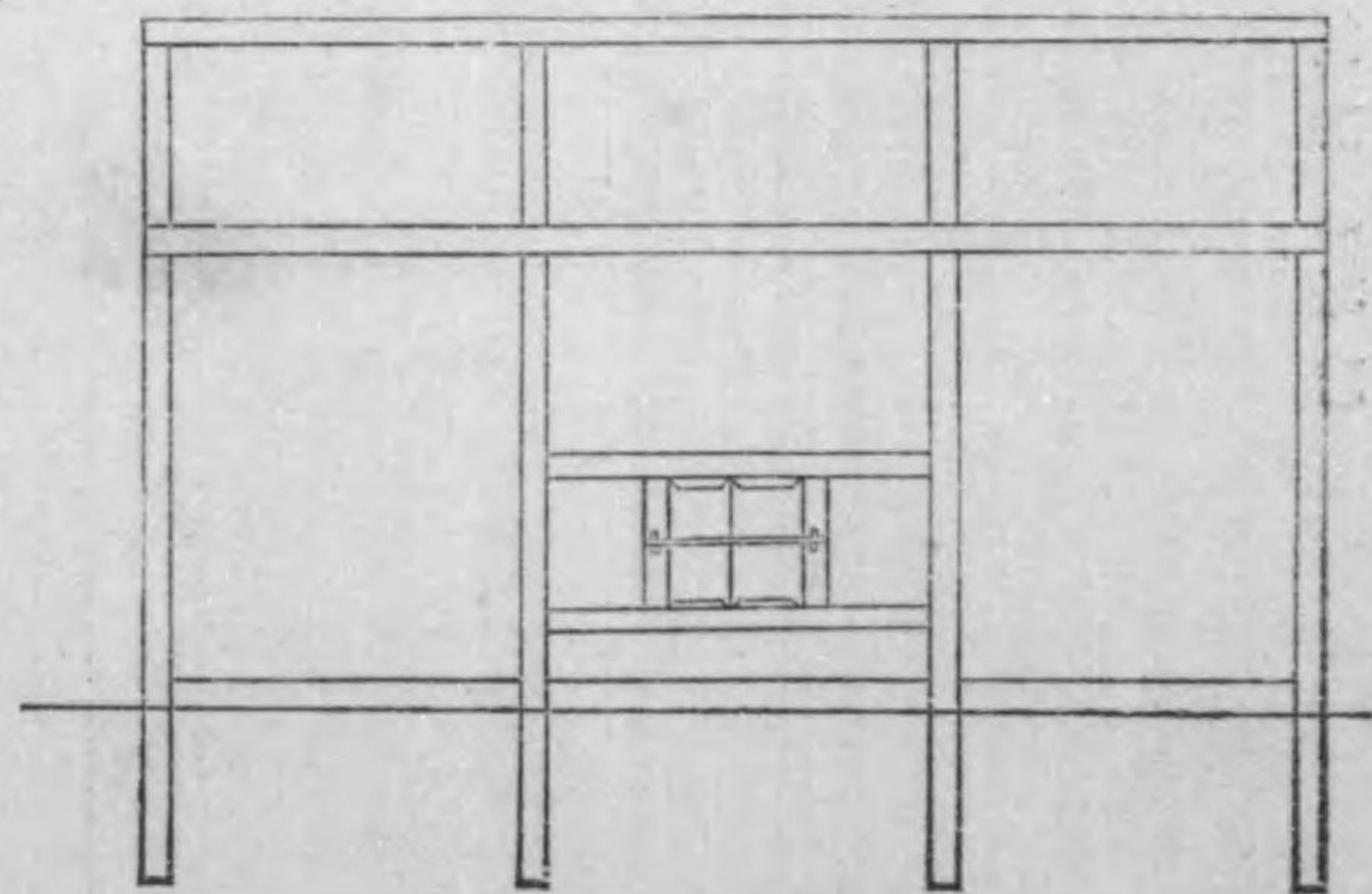
三 其 圖 置 配 場 育 飼

飼育場内柵構造設計圖  
(断面) 其二

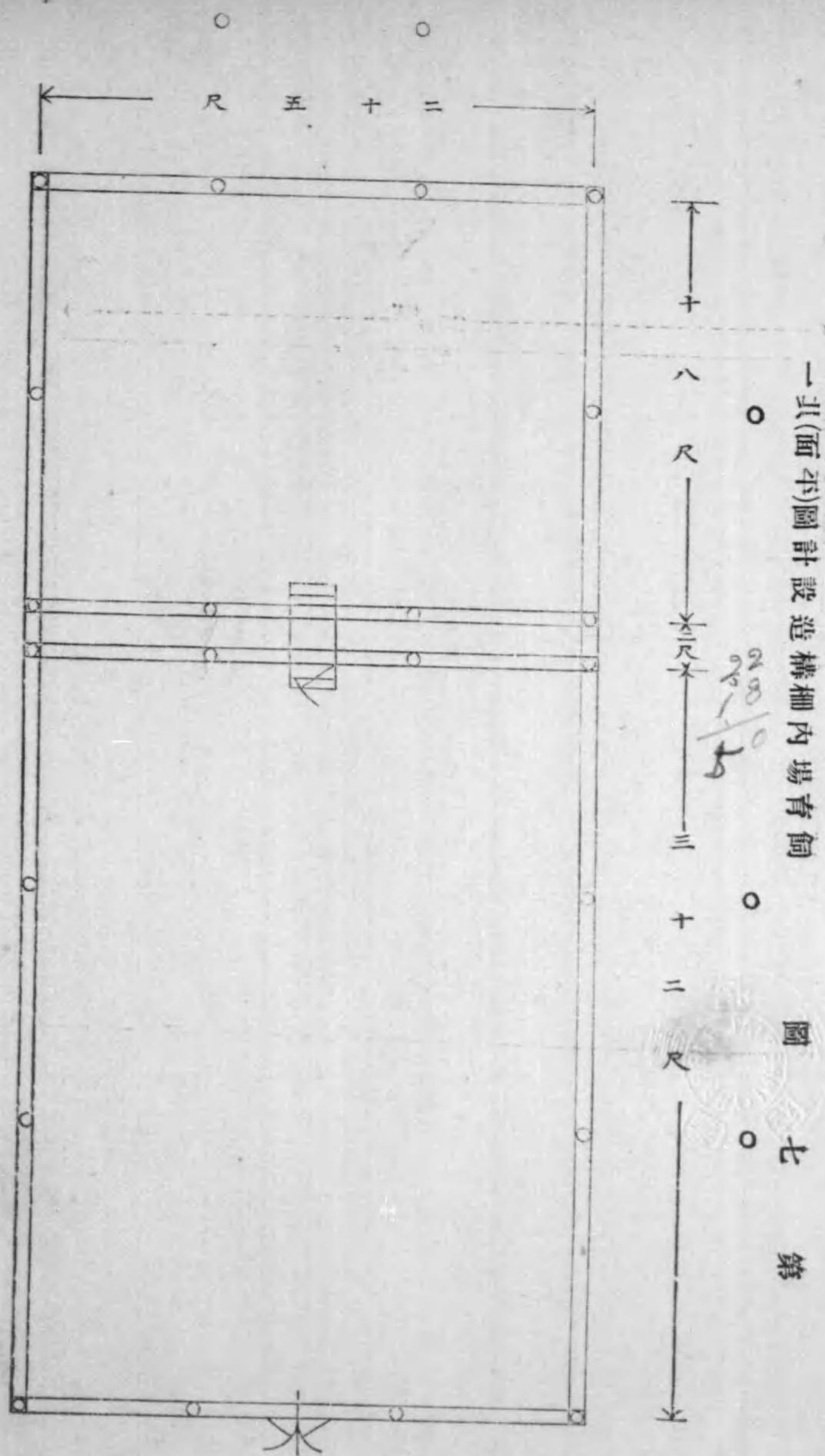


第八圖

第九圖

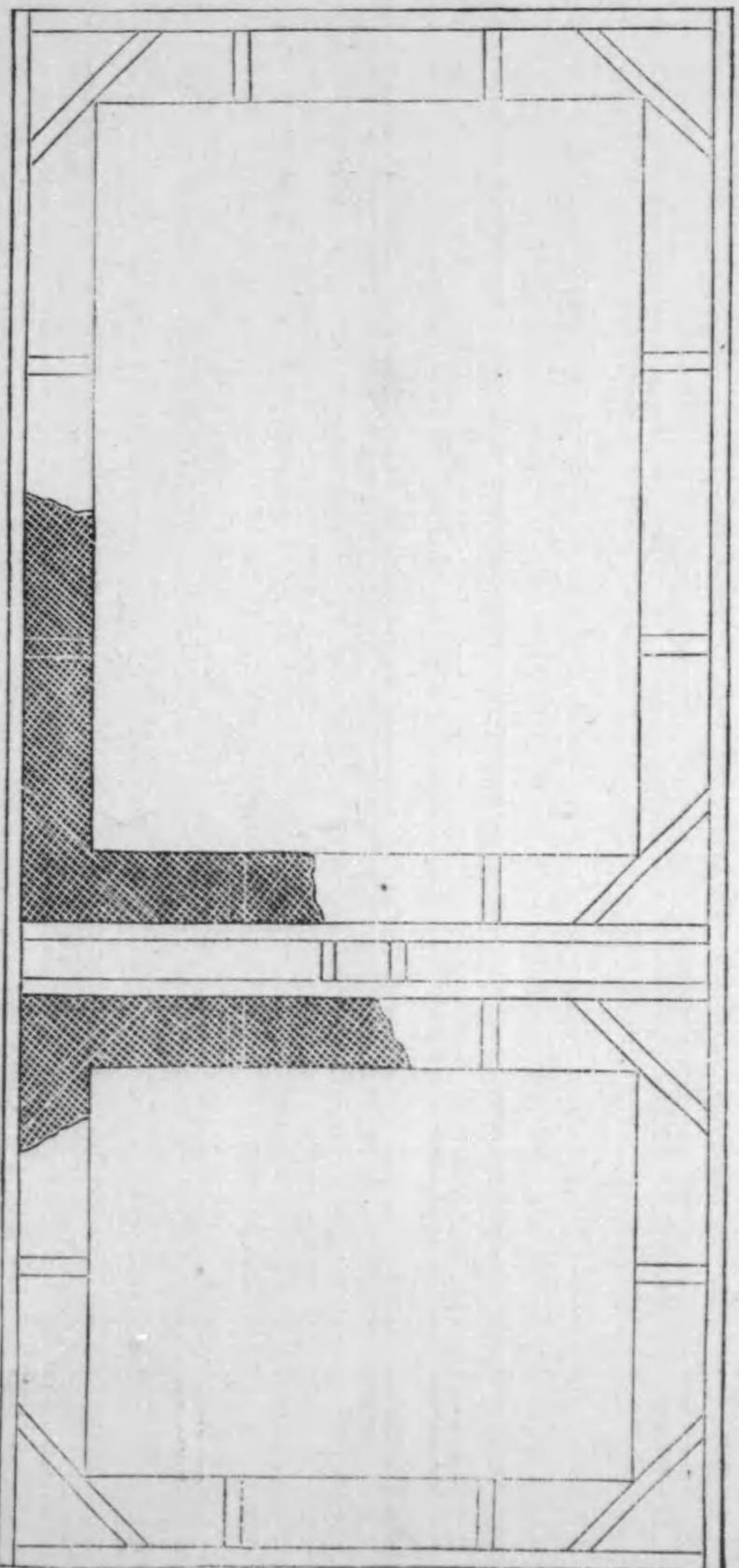


三其(面正)上同



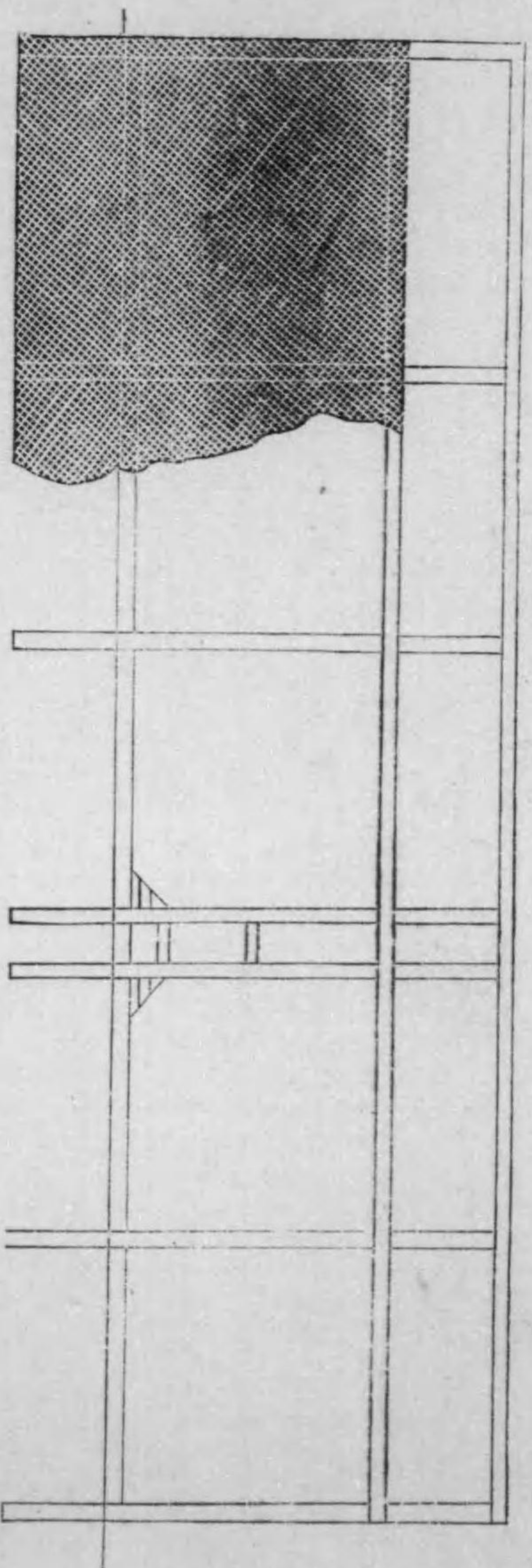
一其(面平)圖計設造構柵内場育飼  
第七圖

第十圖



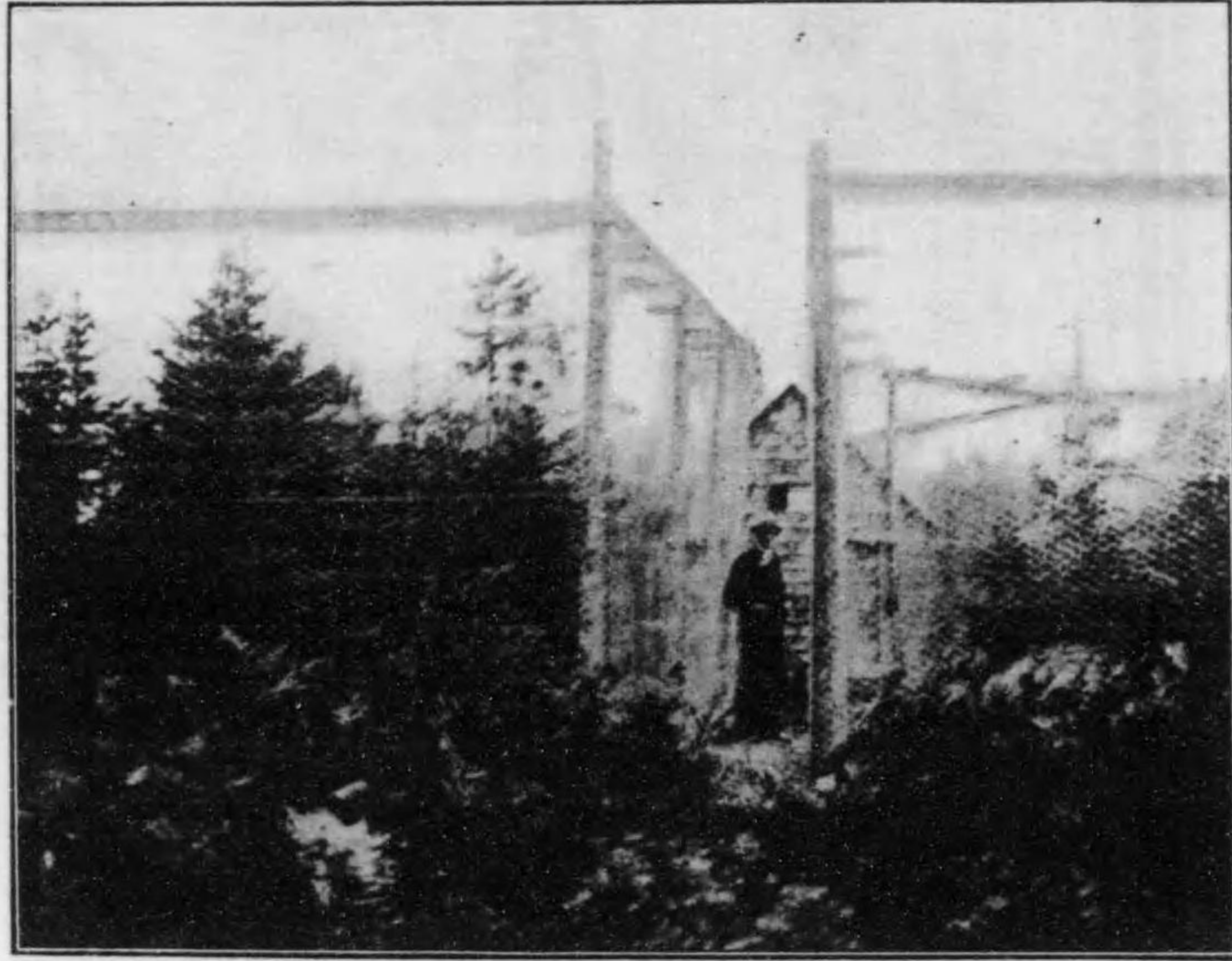
四其 (面伏)圖計設造構柵內場育飼

第十圖



五其 (面側)圖計設造構柵內場育飼

圖 二 十 第



飼育場内棚建設圖

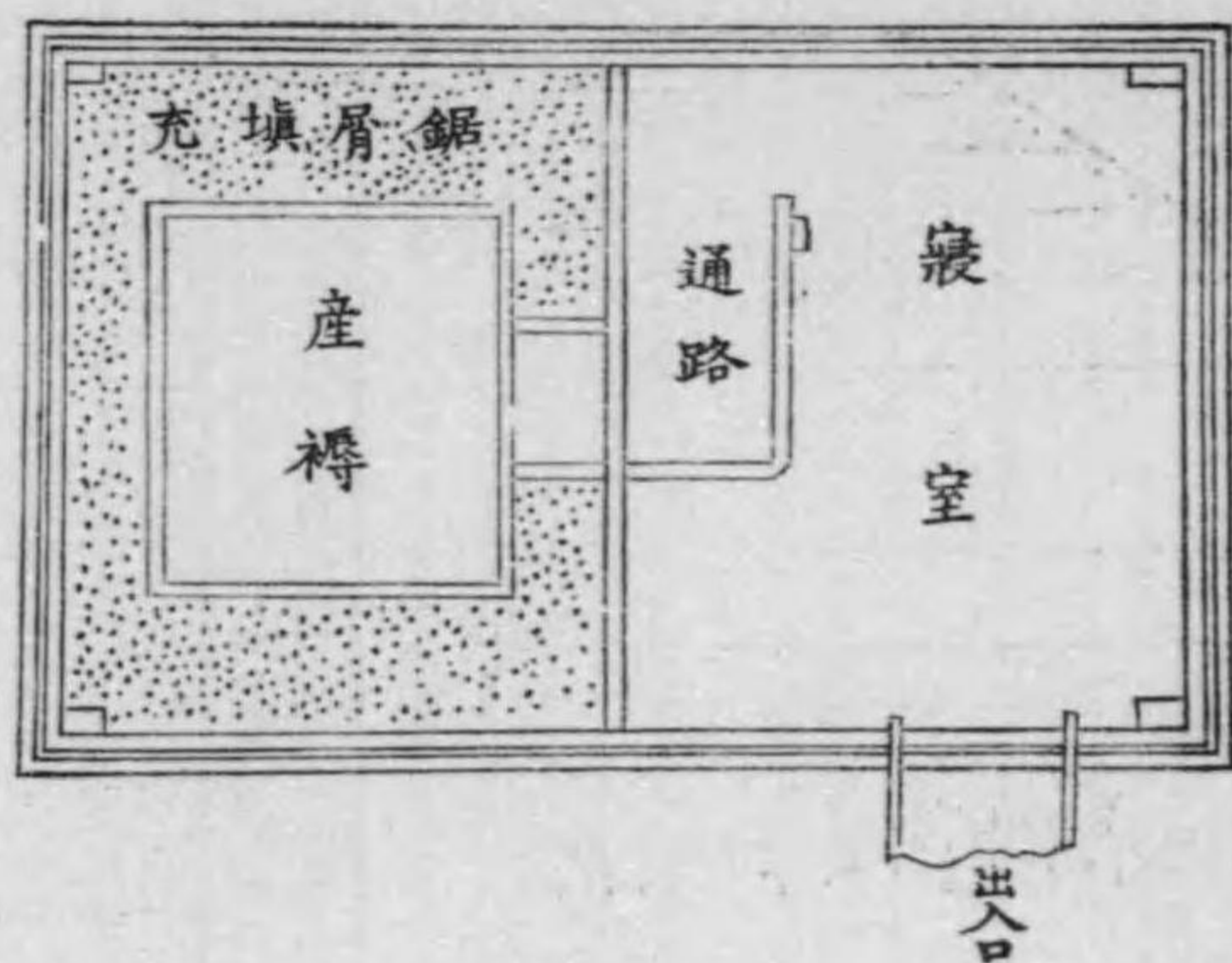
圖 三 十 第



飼育場内舎舎圖

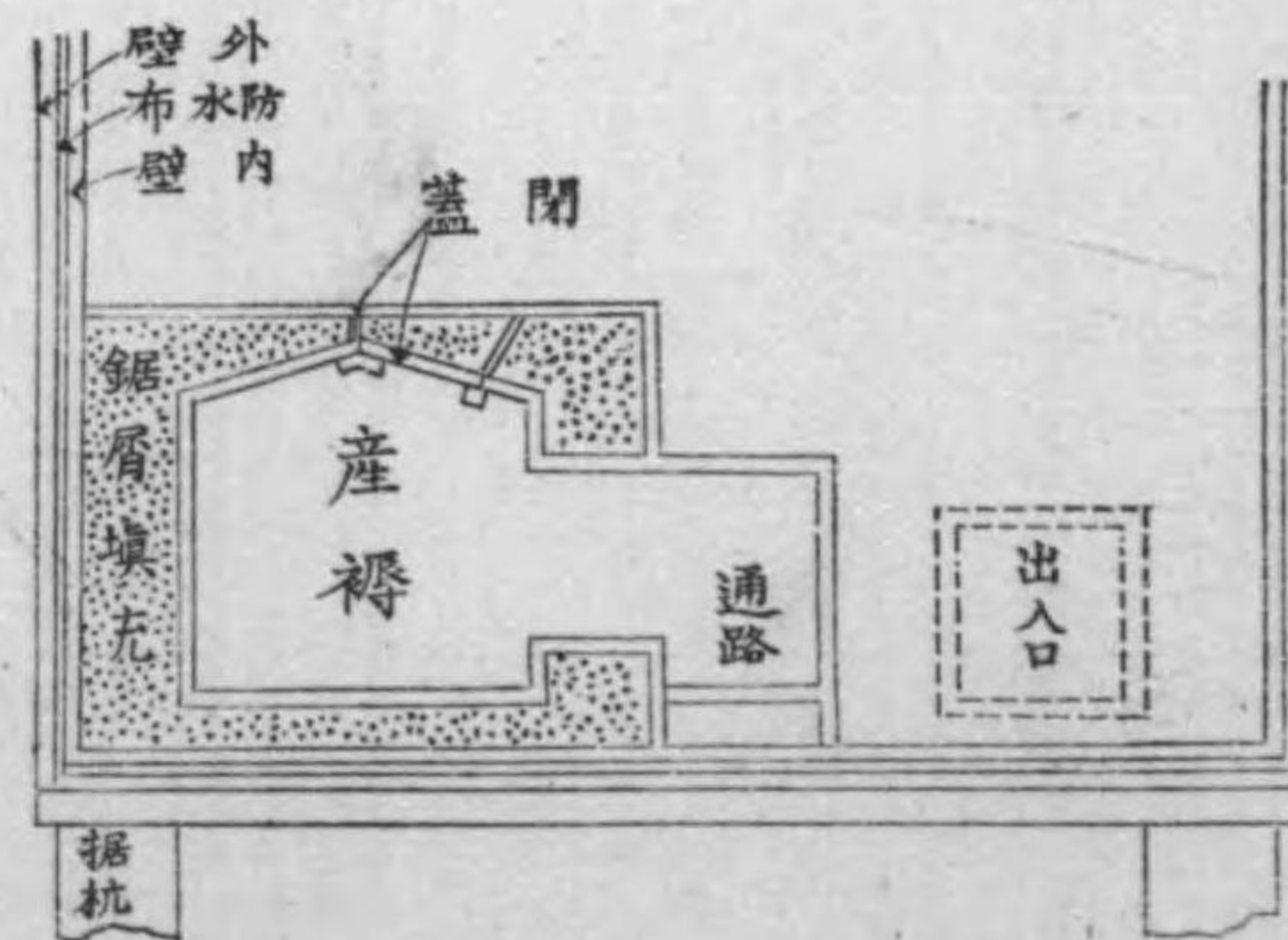


(伏圖)

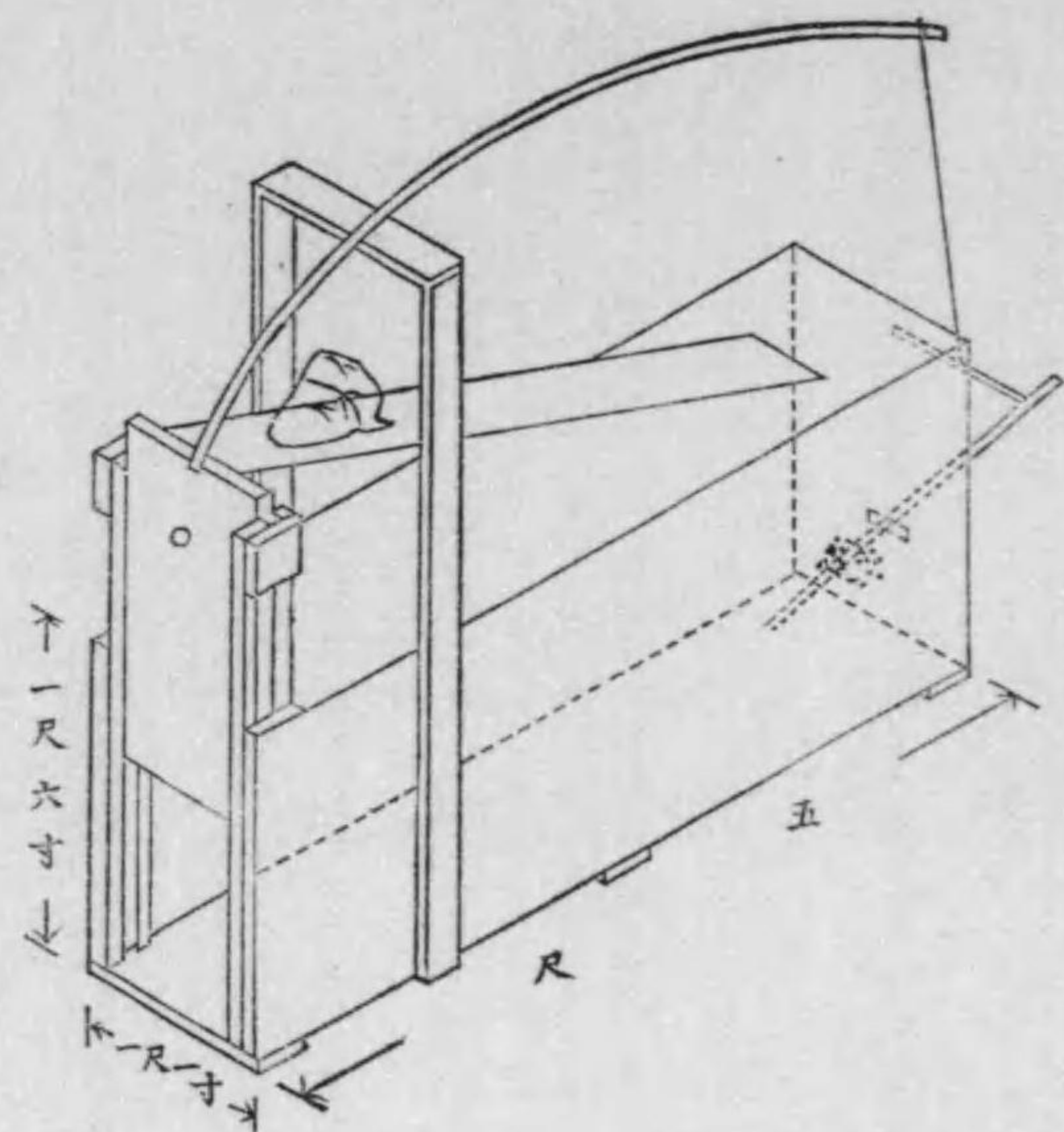


第十四圖

(側面)

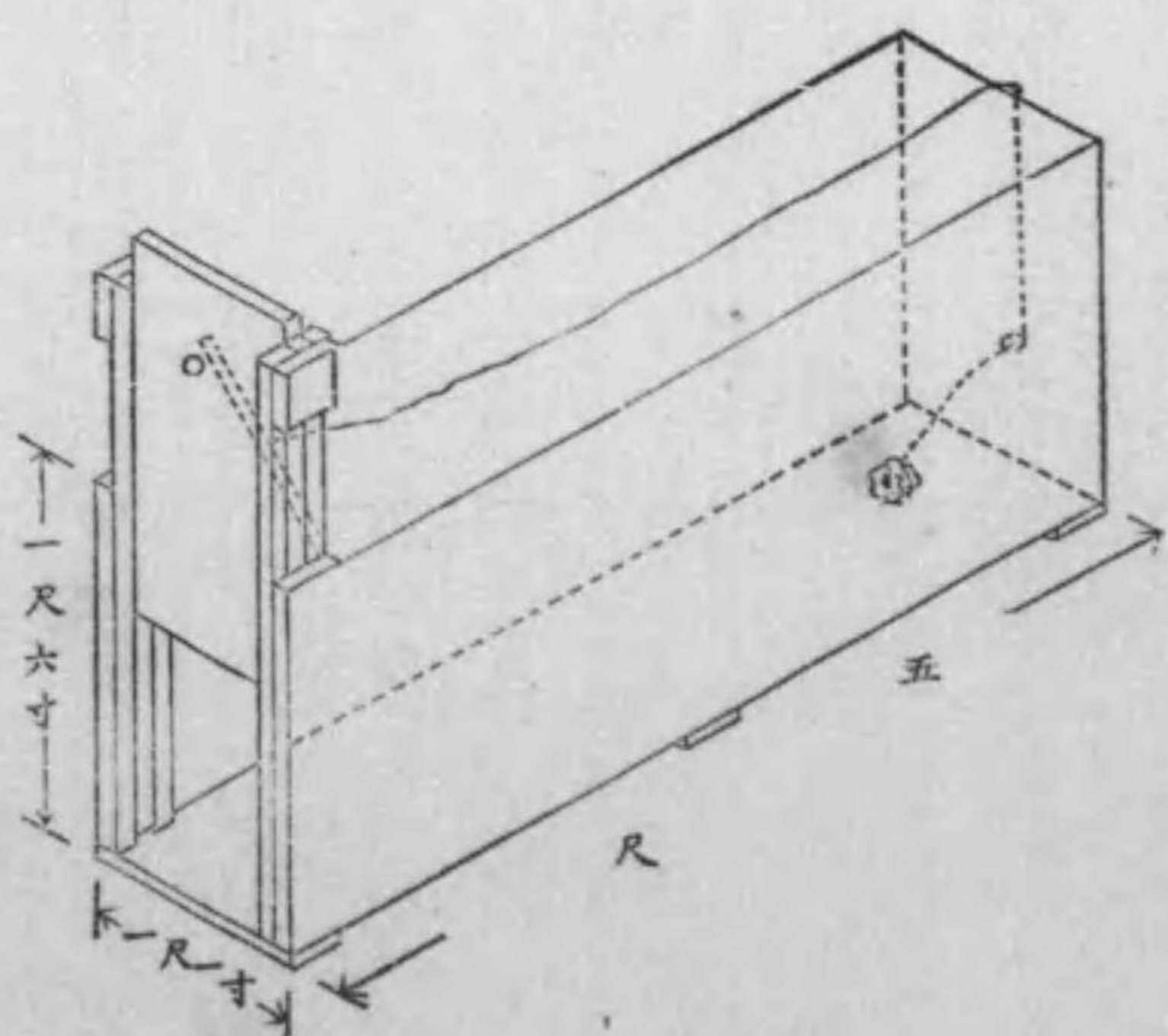


畜舍構造圖



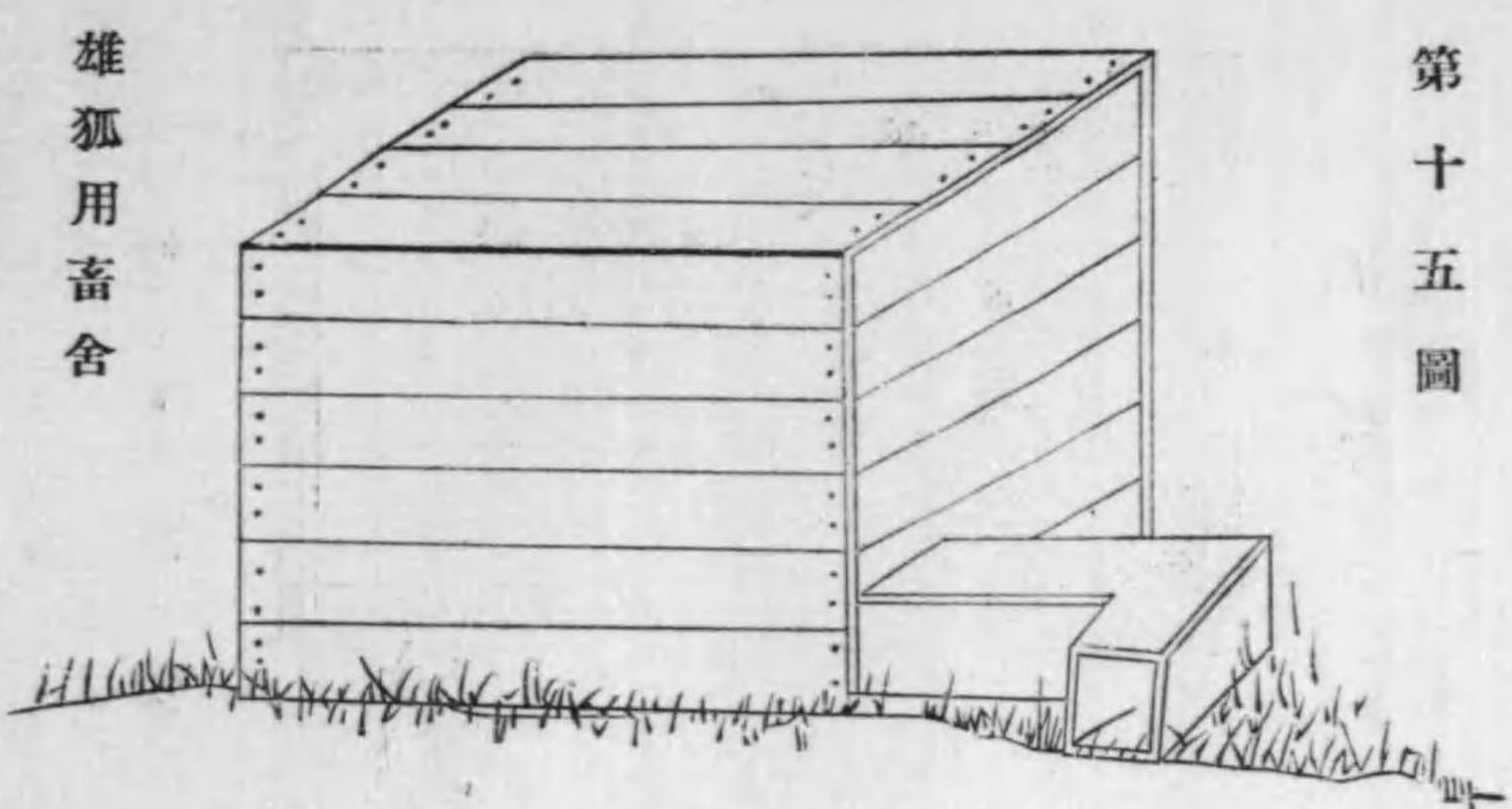
第十七圖

箱毘其一

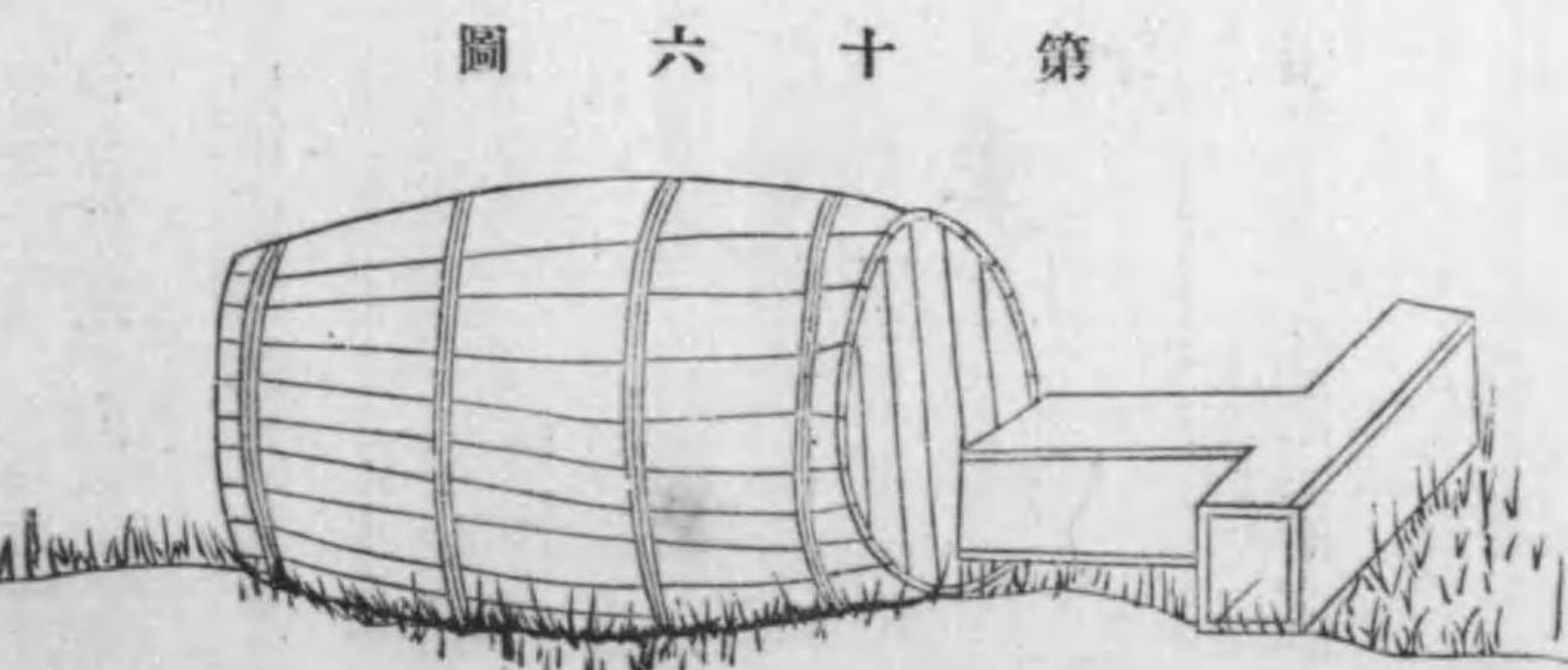


第十八圖

箱毘其二



第十五圖



第十六圖

雄狐用畜舍

區域ニ隔離分置セス、廣大ナル鐵網墻垣ヲ作り、而シテ此廣大ナル墻垣内ヲ、更ニ三十尺ニ四十尺ノ廣サニ分室シ、各分室ニハ、牝牡一偶ヲ收容スルコトトシ、門扉ヲ以テ分室内ニ自由ニ出入セシムルコトヲ得セシム、而シテ此等分室ノ外ニ、此ニ二三倍ノ廣ヲ有スル室ヲ作り、此所ニ繁殖用ナラサル、多數ノ牝牡ヲ區別シ、其性ニ從ヒテ分置收容シ、生長ヲ遂ケシムルモノカアル。第六圖ハ即チ此デアアル。

分室内ニハ一個ノ飼育箱ヲ備付ケテ、之ヲ隱匿所トナシ、且ツ產褥トモナスノデアアル。但シ牝畜ノ分娩スルニ至レハ、牝畜ヲ分離シ、之ヲ牝畜ノミニ充テタル他ノ廣キ室内ニ收容シ、幼兒ノ相當生育シ、喰ヒ殺サルル恐レナキニ至リテ、再ヒ牝畜ヲ故ニ還元スルノデアアル。此設計ニ就キテハ、鐵網墻垣ノ建テ方竝鐵網ノ種類ノ如キハ、加奈陀ノモノト異ナルコトハナイガ、其略式タルダケ、建設經費ヲ節約シ得、亦比較多數ノ飼養ヲ行フコトガ出來ル。

## 第五章 飼養並管理

### 飼 養

野生状態ニアル狐ノ飼料ハ、一般ニ想像セラルルガ如ク、肉類ニ限ラレテ居ルモノ

デハナク、食餌ノ範圍ハ極メテ廣汎ナルモノデアアル。其棲息スル土地ノ狀況如何ニ依リテ、甚シク種類ヲ異ニシ、殆ンド此レガ統一ヲ期スルコトガ出來ナイ。アラスカノ「カツバー」河岸ニ在ル飼育場デハ、脂肪分ニ富メル鮭ヲ給與スルカ爲ニ、其ノ毛皮ハ頗ル光澤ヲ發揮シタリト稱シ、オンタリオ州ニ於テハ、狐ノ天然の飼料タル兔、若クハ山鼠ヲ與ヘ、クエベツク州ニテハ、生魚並蟹ヲ與ヘテ居ル。此等ハ其地方ニ於ケル、主ナル天然の飼料デアアルカラデアアル。狐ノ天然の飼料トシテハ、鼠、栗鼠、兔鳥類ヨリシテ、蟋蟀、蝗蟲、甲蟲等ノ昆蟲類並雜草類ヲ嗜食シ、又季節ニ依リテハ、果實類ヲモ食フ。要スルニ犬ト同ジク、雜食動物デアアルカラ、肉食ノミデハイカス。植物性飼料ノ攝收モ、自ラ必要デアアル。之ヲ心付カズシテ、肉類ヲノミ與ヘタル結果トシテハ、或ハ消化作用ヲ減ジテ、胃腸病ヲ發シ反テ其結果ノ面白カラザルコトガアルカラ、人工飼育ヲナスニ當リテハ、如何ナル食餌ヲ給與スベキカハ、大ニ考慮ヲ要スベキ問題デアアル。以下述ベントスル食餌ニ就テ、其ノ性質ニ依リ便宜上、肉類ト非肉類トノ二ツニ分ツ、

### 一、肉類食餌

狐ノ食餌トシテ給與スヘキ肉類ハ、馬肉、豚肉、犢肉、屠畜場ノ廢物タルベキ臟腑類、生

魚、乾魚、家兔、山鼠、地鼠、家鼠、鳥類、蟹及老廢シタル牛及羊ノ肉等是ニシテ普通ハ生肉ノ儘與フルモノナルモ、間々少量ノ食鹽ヲ加ヘテ煮半熟トナスコトモアル。肉類ハ之ヲ貯藏スルニハ、鹽漬トスルヲ最モ簡便ナリトシ、之ヲ狐ニ給與スルニ當リテハ、豫メ必ズ清水ニ浸漬シ、若クハ煮沸シテ、鹽出ヲシタルモノヲ以テスヘキデアアル。生肉ヲ與フルトキハ、時々寄生蟲類ノ害ヲ蒙ルコトアルモ、鹽藏肉ヲ用ヒ、若クハ煮沸セル肉類ヲ用ヒテ、飼養セル狐ハ、此被害ヲ免レテ、一般ニ健康狀態ノ可良ナルヲ見ル。加奈陀ニ於ケル狐飼養場ニハ、冷藏室ノ設備サヘアツテ、肉類ヲ此ニ貯藏スルモノガアル、又老ヒタル牛馬ハ之ヲ廐舎ニ繋留シ、必要ニ應ジテ屠殺スルノデアアル。但シ狐ハ肺結核病ニ犯サレ易キモノナレバ、飼料用トシテ屠殺スル牛馬ハ、豫メ嚴密ナル結核試験ヲ行ヒ置クコトガ必要デアアル。又「アラスカ」ノ「プリビロフ」群島ニ於ケル狐飼養者ハ、臘肉獸ノ剥皮シタル殘骸ヲ集メ、其肉ヲ鹽藏ニシ、又其島ニ棲息セル鷓ニ似タル鳥類ヲ獵獲シ、此等ヲ飼料ニ供シテ居ル。

### 二、非肉類食餌

肉類以外ノ食餌トシテハ、「ビスケット」麩麵、重燒麩麵、馬鈴薯其他ノ蔬菜、雜草、草實、木實、牛乳、鷄卵等デアアル。又米麥等穀物ノ煮沸シタルモノモ宜シイ。牛乳、鷄卵「ビスケット」

トノ如キハ、狐ノ懷胎並分娩ノ期節ニ於テハ、特ニ營養分ヲ攝收セシムルコトヲ必要トスルカラ、此等ノ食餌ヲ給與スベク、又幼兒ニハ之ヲ給與スルコトガ發育ヲ助成スル所以ノ途デアル。

「ドックビスケット」ト稱シ、畜大ニ與フルモノガアル。横濱五十九番館、レーン、クロウフオールド「商會」ノ製造販賣セルモノニ就キ調査セルニ、原料トシテ小麦粉百斤ニ對シ、麩十六斤ヲ混ジテ、重燒麵麩ノ如ク四角形厚板ニ燒キタルモノデ、十個ヲ以テ一英斤ニ當ル、此代價拾錢、又此ト同様ナル製造方法ニ依リテ、前ノ配合割合ノ外ニ牛馬肉二十斤ヲ混ゼルモノガアル。此ヲ肉入「ビスケット」トシテ、一斤ノ代價拾四錢通常獵犬ニ、一日三四片ヲ與ヘテ足ル。京濱地方人ノ遊獵ニ出掛クルモノハ、多ク之ヲ携帯スルガ、現今其ノ需要モ増加シ、獨リ日本内地ニノミ止ラズ、臺灣、朝鮮ニモ販路ヲ有シテ居ル。目下製造年額ハ、約貳萬斤ニ達シテ居ルト云フ。樺太ノ如ク魚類ノ豊富ナル地ニ於テハ、牛馬肉ノ代リニ魚肉ヲ用ヒテ、此レガ製造ヲ試ルガ如キモ、狐飼養上ノ必要ヨリスルノミナラズ、或ハ一特産物タルニ價スルナキヤヲ思フ。飲料水供給ノ事ハ、動物飼養上緊要ナルコト勿論デ、別ニ述ブマデモナイ。

## 管理

### 一、飼養上ノ管理

狐ニ給與スベキ食餌トシテハ肉類ハ一日一頭ニ對シ、一英斤ノ四分ノ一ヲ以テ足レリトス、又「アラスカ」ノ島嶼ニ養ヘル、青狐飼養者ハ、生魚一匹宛ヲ與ヘテ居ル。尙此外ニ、馬鈴薯及穀物ヲ煮沸シタルモノヲ用ユルノデアアル。代價ニ見積リテ、一日一頭ノ飼料費貳錢ガ普通デアアル。加奈陀地方ニテハ平均一頭一年間ノ飼料費拾圓ヲ超ヘストシテ居ル。併シナガラ同地方ト雖モ、優良種狐ノ飼養ニ至リテハ、勢ヒ上等ノ食料ヲ與フルカラ、一日五六拾錢モ要スルノデアアル。又狐ハ平時ナルト交尾期、懷胎期、分娩期ナルトニ依リテ、其給與量ハ勿論、食餌ノ種類ヲ變ヘナケレバナラヌコトハ言フマデモナイ。

樺太ニテハ比目魚、鯉、鱈其他難魚ノ漁獲豊富ナルアリ、又鱈、鮭、鱒ノ産出モ莫大デアアルカラ、之ヲ生魚ノ儘ニテ與ヘ、又乾魚トシテ鹽藏トシテ、不斷ニ與フルコトガ容易デアアルノミナラズ、又極メテ廉價ナル飼料費ヲ以テ支辨スルコトガ出來ル。樺太廳種畜場ニテハ以上魚肉ノ外牛馬ノ屠肉及其臟腑類ヲ與ヘ、又海豹島所産臘腸獸屠

肉ノ鹽藏セルモノヲ水ニ浸シテ與ヘテ居ルガ甚シク嗜食スルヲ見ル。殊ニ冬期ニ至リテ生魚ノ缺乏セルトキニ於テハ、鯨ノ乾魚、馬鈴薯又ハ牛馬肉等煮沸シテ與フルニ、著シク營養ヲ増進スル様子デアアル。以上ノ飼料ヲ以テシテ一日一頭當リ一錢五厘乃至二錢二三厘デアアル計算デアアル。要スルニ廉價ナル飼料ヲ得ルヤ否ヤ本業成功ノ第一着步デアアル。

狐ノ食餌トシテ、必要ナル營養率如何ト云フ問題ガ、未知デアアル。今日ニ於テハ、未ダ學術的ニ、食餌給與量ヲ決定スルコトガ出來ヌケレドモ、狐ハ飽クコトヲ知ルモノデ、飽ケバ則チ食餌ノ殘物ヲ土中ニ埋藏スルノ習慣ヲ有シテ居ル。故ヲ以テ斯ルコトヲナスニ至レバ、之ヲ程度トシテ、埋藏セルモノハ過量ト見做シ、爾後其ノ相當量ヲ減ジテ與フレバ宜シイ。

狐ノ營養上食餌ノ良否ガ其發育、毛色、活動、懷胎ニ大ナル影響ヲ及スコトハ明白デアアル。可成的營養分ノ給與ヲ要シ、殊ニ良種族ノ繁殖ニ於テ然リトスル。併シナガラ牝牡共ニ餘リニ肥臚ニ過ギタルモノハ、繁殖用トシテ、其ノ目的ヲ達スルニ充分ナラザルノ憾アリ、此レガ爲ニハ、狐ノ年齢ニ依リ若クハ、期節ニ依リ、食餌給與ノ量ヲ斟酌スルノ必要ガアル。即チ第一ニハ、其未ダ滿一歳ニ達セザルニ先チ、充分ニ飽食

セシメ、此期間ニ於ケル體格ノ構成ニ、遺憾ナカラシムルヲ要シ、而シテ此後ニ至リ多少減食スルノデアアル。第二ニハ、既ニ成獸ニ達セルモノニハ、十二月ヨリ二月ニ至ル三ヶ月間ハ、特ニ減食スル。斯クシテ年齢ニ依リ、又期節ニ依リ、幾分肥臚ノ度ヲ減退セシメタル後、繁殖ノ目的ニ供スルモノガアル。併シ此等ハ、愛着ノ極、遂ニ過度ノ肥臚ニ陥ラザランコトヲ警戒セルニ出ヅルモノデアアツテ、普通飼養者ニアリテハ年中一樣ナル狀態ノ下ニ、此レガ營養ヲ計ルコトガ宜シイ。狐ニ限ツタモノデハナイガ、一般動物ハ、交尾期ニ於テハ、殊更ニ活氣ヲ呈シ、非常ニ勢力ヲ消耗スルモノデアアルカラ、寧ロ平常ヨリ多量ノ營養分ヲ必要トスル關係上、一定セル營養量ノ給與ニヨリテ、自然ニ調節セララルモノナリトシテ、差支ナイ。

動物ノ營養上、磷酸石灰類ハ、骨格構成上必要ナル一成分デアアルカラ、肉類、蔬菜、穀物類ノ外ニ、時々獸骨ヲ給與スルノ必要ガアル。併シナガラ幼狐ニシテ、未ダ充分ニ咀嚼シ能ハザルモノニアリテハ、往々骨片ヲ其儘嚙下シ、爲ニ胃腸ヲ害スルコトガアル。又鯨ノ如キ小骨ノ多キ魚類ハ、喉ヲ刺スコトガアルカラ、此等ヲ與フル時ハ注意スベキデアアル。生長旺盛期ニアル狐ニハ、前述獸骨ヲ用フル外、特ニ石灰水ヲ作り、茶匙ニ一杯位ヲ一日量トシテ、之ヲ牛乳ニ混ジテ飲用セシムルモノガアル。懷胎期中

ニアル牝狐ニハ、亦此理由ニ依リテ、骨粉若クハ石灰分ニ富メル、食餌ヲ與フルノ必要ガアル。

牝狐ノ分娩前數週間ハ、牛乳、鶏卵、骨汁等滋養分ニ富メル食餌ヲ給與シテ、其體力ヲ充實セシムルコトガ必要デアル。既ニ分娩スルヤ、消化シ易キ食餌ト、新鮮ナル飲料水トヲ給與スベク、亦新鮮ナル兔、若クハ生キタル鶏ヲ與フルガ宜シイ。此等ヲ與ヘテ置ケバ、夫レニ心ヲ轉向シテ、自ラ分娩シタル幼兒ヲ喰殺スル様ナコトハナクシテ、濟ムコトガ出來ル。

飲料水ノ給與ニ就キテハ、中で大切ナルモノデアル。氣候ノ暖キ頃ニ在リテハ、新鮮ナル水ガ、反テ適當シテ居ルケレドモ、寒キ季節ニ入リテハ、一般食餌ハ温メテ與フルコトガ理想的デアル。

一群ノ狐兒中ニハ、體質ノ一樣ナル能ハズシテ、其間必ず強弱優劣ガアル。而シテ弱者劣者ハ、強者優者ノ爲メニ常ニ壓倒セラレ、食餌ヲ充分ニ攝收スルコトガ不可能デアリ、遂ニ同一ノ生長ヲナスコトガ出來ヌヤウニナルモノデアル。斯ル故ヲ以テ弱者ニハ、特ニ夜中他ノモノガ休眠シテ居ル期間ニ、食餌ヲ追給シ、彼等ニ飽食セシムルノ手段ヲ採ラナケレバナラヌ。

食餌ノ給與ハ、彼等ニ對スル最良ノ誘導方便デアル。故ニ之ヲ利用シテ、彼等ヲ馴致スルコトヲ怠ツテハナラヌ。給與人ハ常ニ同一人タルベク、給與スベキ窓口ヲ同一場所ニ撰ブガ如キ、此一手段デアル。或者ハ食餌ヲ鐵網墻垣ノ上ヲ越ヘテ、投ゲ込ムモノアリ、亦鐵網ノ目ヲ通シテ、手ヅカラ之ヲ與フルモノガアルガ、狐ヲ馴致スルノ必要上、極メテ靜肅ニ且ツ整頓シタル體度ト方法トヲ以テ、然カモ定期ニ定所ニ於テ、給與スルコトヲ、馴致上良策ナリトスル。從來加奈陀並米國等ニ於テ、狐飼養上良好ナル結果ヲ奏シ得ザリシモノハ、其原因二三ニシテ止マラザルベシト雖モ、食餌給與ノ方法其宜シキヲ得ズ、飼養ノ任ニ當ルベキ經驗アル人ヲ得ルニ困難ナリシコトモ、亦失敗ノ主ナル一原因ナルコトヲ、否ムコトガ出來ヌ。

要スルニ未ダ牛馬等、家畜ノ飼養ニサヘ、何等ノ智識ト經驗トヲ有セザル未熟者ニシテ、狐ノ飼養ヲ試ムル如キアラバ、寧ロ之ヲ冒險ナリト稱スルニ差支アルマイ。

## 二、繁殖期ノ管理

狐ハ一年一度ノ妊娠ニシテ、二三月頃ガ交尾期間ニ當リ、懷胎期間ハ交尾後早キモノニシテ五十日、其晚キモノト雖五十四日ヲ出ヅルコトナク、通常五十一日間デアルカラ、四五月頃ニハ分娩スル。樺太デハ、一ヶ月位繰リ延ト見テ差支ナイ。初産ニハ

懐胎期長ク、爾後漸次短縮スル。産兒數ハ初産ニハ二頭ナレドモ、成獸ニ達スレバ、一産ニ五六頭ヲ生ミ、多キハ九頭ヲ生ムモノアレドモ、斯ク多數ヲ分娩スルモノハ、其中ニ死産若クハ羸弱者ヲ出シテ、爲ニ生育ヲ遂クベキモノハ、平均四五頭デアアル。狐ハ滿一歳ニシテ交尾シ得ベク、爾後引續キ十歳乃至十一歳マデ懐胎力ヲ持續シ得ルモノデアアル。若シ七八歳ヲ經過シテ、尙ホ且ツ懐胎セザルモノハ、不妊性デアアルカラ、屠殺シ、毛皮ヲ獲得スルガ上策デアアル。又牝牝配偶年齢ハ、牡ガ牝ニ比シテ、一年ノ年長ナルベキコトガ成績良好ナリトセラレテ居ル。

從來動物學者ノ研究スル所ニ依ルニ、野生狐ノ配偶關係ハ一夫一婦ノ制ヲ嚴守スルモノデアアルカラ、飼養セル狐ニ就テモ、一牡ヲ以テ他ノ牝ニ交配セシムルコトハ極メテ困難デアアル。此レハ一般家畜ノ繁殖ニ未ダ例ヲ見ザル所デアアル。此制度ハ吾人人類社界ニハ、尊重スベキモノデアアルケレドモ、吾人ノ利用スベキ家畜ノ改良繁殖ノ上ヨリ見テハ、此制度ヲ嚴守セシムルコトハ非常ナル損失ニシテ、是非此制度ヲ更改セシメ、吾人ノ期待スル子孫ノ繁殖ト、改良トヲ達成セナケレバナラヌ。曾テ飼養業ヲ試ミタルモノガ此習性ヲ知ラズ、多クノ牝ヲ配シテ居ツタガ爲ニ、互ニ咬殺ナドガ初マリ、事業ノ失敗ヲ來シタコトガアル。

一牡ヲシテ數頭ノ牝ニ交配セシムルニハ二ノ方法ガアルガ、何レモ狐ヲ收容スル墻垣ノ配置ニ依リテ手加減スルノデアアル。其一ハ牝畜ヲ收容スベキ墻垣ヲ駢列セシメ、其間口ニ當リテ、牝畜ヲ收容スベキ一個ノ細長キ、墻垣ニ枕ヲセシムル様ノ構ヲ造取リ、牝畜墻垣ト此枕トナツテ居ル牝畜墻垣トハ互ニ出入口ニ依リテ、通行セシムルコトニスル。而シテ交尾ヲ終了シタル後ハ、出入口ヲ封鎖シ、只單ニ牝畜ト各牝畜トハ、相見ルコトヲ得セシムルダケニ止メテ置クノデアアル。第二ハ三個ノ駢列セル墻垣中、兩側ニハ牝畜ヲ收容シ、中央ノモノニハ牡畜ヲ容レ、交尾期ヲ終レバ出入口ヲ封鎖シ、兩側ノ牝畜ハ、中間ノ牡畜ト相見ルノミニ止メテ置ク、或ハ牡畜ヲシテ隔日ニ牝畜ノ墻垣ニ入りテ、安座セシムルコトモ差支ナイ。



狐ハ牝牝相愛ノ情甚ダ強烈ナルモノデ、兩者決シテ別居シテ安ズルコトノ出來ナイモノデアアル。其故ニ縦令前述ノ如ク、人意ヲ以テ隔離シタリトハ云へ、尙且ツ朝夕



日且相見ルコトヲ妨ゲテハナラヌ。狐ハ猜疑ト恐怖トハ全ク其天性デアツテ、若シ牝牡ヲ全然隔離スルニ於テハ、著シク神經ヲ亢奮シ、飼養ニ困難ナルノミナラズ、甚ダ結果ガ面白クナイ。

概シテ繁殖時期ニ於テハ、神經過敏トナリ、外界ノ刺戟ニ衝動セラレ易ク、些細ナル音響ヤ臭氣ニモ、感觸スルコト徒ラニ激シク、平常馴レテ居ル管理者以外ニハ、容易ニ接近セシムルコトヲ肯ンジナイ、加奈陀ノ「ニューブルンスウキツク州」プリンスエドワード島及クエベツク州ニ於テハ、喧騒ヲ避クルノ目的ヲ以テ、特ニ法律ヲ制定シ、狐飼育場ニ接近シテ牛馬ヲ放牧シ、若クハ雜闢ヲ催スコトヲ禁止シ、犯スモノハ重キ科料ニ處スルコトノ制裁サヘアル位デアアル。分娩期ニ當リテハ一層神經亢奮シ、往々狂暴ノ態度ヲ呈スルモノデアアルカラ、猶更靜肅ヲ保ツベク、注意セナケレバナラヌ。飼養者ト狐トハ、充分相識ノ間柄トナリ、能ク馴レ親シマシメ、場ノ内外ハ常ニ靜穩ニシテ、彼等ニ少シモ恐怖心猜疑心ヲ起サシメナイコトヲ期スベシ、然ラサレバ彼等ハ疑心暗鬼ヲ生シ、爲ニ懐胎シ分娩スルコト能ハス、或ハ遂ニ不妊性ニ化成スルコトガアル。幸ニ懐胎スルモ流産、死産ナドヲ行フモノアリテ、繁殖上一大障害ヲ來スモノデアアル。

狐兒ハ生後十四日乃至十八日間ハ未ダ目ヲ開クヲ得ズ、從テ産褥ヲ出ヅルコトガ不可能ナレドモ、四週間ヲ經過セルモノハ、自由ニ産褥ニ出入シ、又飼養者ノ呼出ニ應ズルコトモ、自然ニ覺エ來ルモノデ、牛乳ヲ飲ミ食餌ヲ食フコトモ、亦此頃ヨリ初マリ、漸々母狐ト離レテ、獨リ起臥スルコトガ出來ルヤウニナル。此時マデ我慢ヲスレハ母狐ノ神經亢奮モ、自ラ鎮靜シ來ルモノデアアルケレドモ、此所ニ至ルマデノ徑路カ中々ニ危険ナルモノデ、牝狐カ我ヲ忘レテ狂亂シ、幼兒ヲ此所ニ移シ、彼所ニ轉シテ、墻垣内ヲ啗ヘ廻シ、或ハ突然産褥内ニ闖入シテハ、幼兒ヲ啗ヘ來リ、或ハ之ヲ雪中ニ或ハ之ヲ土中ニ埋瘞スル等ノ動作ヲナスコトガアル。一朝幼兒ニ危険ナリト見レバ、寧ロ幼兒ヲ他ニ移シ取ルコトガ安全デアアル。然シナカラ、牝畜ノ大ニ狂亂セルトキニ於テハ、彼ノ注意ヲ他ニ轉向セシムルコトカ必要ニシテ、此レヲナスニハ牝畜ノ狂亂シ、騷動セル前ニ、鶏若クハ兔ヲ生キタル儘放ツカ、或ハ其骨骸ヲ投入スルトキハ、直チニ此ニ飛ビ掛リテ、幼兒ノ方ヲ忘レテ仕舞ハシメルコトガ出來ル、又或者ハ鶏卵ヲ投與シテ、幼兒ヲ助ケタル例モアル。

幼兒ヲ喰ヒ殺スコトハ、牝畜ノミナラス、牡畜モ亦之ヲ行フコトアルモノナレバ、斯ル習慣アルモノハ、鐵網或ハ板塀ヲ以テ、若クハ全ク別ナル墻垣内ニ收容シ置クカ

シテ、牡畜ヲ幼兒ノ所在ヨリ隔離シ置ク必要ガアル。又分娩後間モナク、牝牡同棲セシムレハ、牝畜ニハ何等ノ異狀ナクモ、牡畜カ牝畜ヲ促シテ、幼兒ヲ害セシムルコトモアル。要スルニ幼兒ノ漸ク生長シテ、運動ニ不足ナキニ至ルマデハ、牝牡畜ハ別居セシムルコトガ雙方ノ利益デアアル。牝畜ハ時ニ全ク幼兒ヲ哺育シ能ハサルモノガアル。斯ルモノニハ幼兒ヲ猫ノ巢ニ移シ、四五週間猫ヲシテ養育セシムル例モアル。幼兒ハ寒氣ニ襲ハルルコトヲ、甚シク忌ムモノナレバ、母ノ腋下ノ包擁ヲ缺クコトガ出來ヌ、勿論綿花、毛布等ヲ以テ、保温ノ設ケヲ與フルコトカ必要デアアル。其ノ他數多手當ノ細ニシテ、且ツ密ナルモノニ至リテハ、其ノ期時ト場合ニ應ジテ、之ヲ施スコトヲ怠テハナラナイガ、茲ニハ到底之ヲ説述スルノ繁ニ堪ヘナイカラ省略スル。而シテ其之ヲ施シテ遺憾ナカラシムルコトハ、一ニ之ヲ經驗アル飼育者ノ手腕ニ待ツベキ所デアツテ、理論ノ外デアアル。

### 第六章 繁殖及純粹育成

狐ハ世界ニ於テ其生存分布ノ最モ廣大ナル動物ノ一デアアル。狐ノ種類ニ就キテハ、學者各見解ヲ異ニシ、赤狐 *Vulpes Fulvus* 十字狐 *V. Decussatus* 黒狐又ハ銀黒狐 *V. Argen-*

*stus* ナドト、分類シテ居ルカト見レバ、他ノ學者ハ此等ハ總テガ赤狐ニ屬スルモノニシテ、十字、黒若クハ銀黒狐ハ、何レモ赤狐ノ毛色ノ變調デアアル。又他ノ學者ハ曰ハク、黒狐コソ其原色デアアル、他ハ此ヨリ生レ出タモノデアアル變調シタルモノデアアルトノ説ヲ唱導シテ居ル。併シナカラ近來狐ノ飼育實驗ヨリ來ル結論トシテ、現在ノ狐ハ、久シキ時代ノ間雜交ノ結果、總テガ各種ノ色調ヲ包藏シテ居ル。而シテ此レカ世代ノ交替ニ際シ、其各色ノ出現狀態如何ニ依リテ、或ハ十字トナリ、或ハ黒若クハ銀黒色トナリ、或ハ赤色トナルノテアルト云フコトヲ、明瞭ニ吾人ニ示スニ至ツタ。毛皮動物トシテノ見地ヨリシテ、吾人ノ賞用スル狐ノ名稱及其特色ヲ列舉スレバ左ノ如クデアアル。但其毛皮トシテノ價值ハ、後ノモノ程次第ニ高値ナルモノデアアル

#### 一 赤色狐

イ 赤 狐 背部赤色ニシテ、腹部白ク、尾亦赤色ナレトモ先端ニ白毫ヲ有スルモノアリ又白毫ヲ缺クモノアリ。

ロ 雜種狐 背部赤色ニシテ、腹、頸竝ニ尾端暗色ヲ呈ス。

#### 二 十字狐

ハ 普通種 多クハ赤色若クハ暗黒色ニシテ、前述赤色雜種狐ニ相似タリト

雖モ、銀黒狐ニ交配シテ生レタル十字狐ハ前後肢ノ末端耳、背肩尻ノ各部ニ於テ、特ニ黒色ヲ帶ベルニ依リテ知ラル。

ニ 優良種 胸、頸及耳部ニ淡キ赤色ヲ呈シ、腹部暗黒色ニシテ、背肩並腰部ニハ銀黒色ヲ帶ブ。

三 銀黒狐

ホ 淡色種 頸部ヲ除キテ全表面銀黒色ヲ呈シ、腹部暗黒色ニシテ、僅ニ尾端ニ白色ヲ止ム。

ヘ 濃色種 全身黒色ニシテ、尾端ニ僅ニ白毛ヲ點ス、前額部並尻部ニ銀、黒色ヲ帶ブ。

ト 黒色種 尾端僅ニ白毛ヲ有スルノ外、全身淡黒色ニシテ、表面銀光ヲ發スルモノナリ。

廉價ナル赤狐ヲ改良シテ、之ヲ以テ高價ナル黒狐ヲ得ントスル努力ハ、則チ吾人カ狐ノ繁殖上ノ遺傳ノ法則ヲ應用シテ、自己ノ慾望スル所ニ副フヘク、之ヲ利用スルコトノ一大事實デアアル。從來試ミラレタル實驗ノ結果ニ依レハ、概要左ノ如ク論舉スルコトガ出來ル。

一 銀黒狐ノ牝牡ハ、常ニ銀黒狐ヲ生ジ、決シテ赤若クハ十字狐ヲ生ズルコトナシ。

二 赤狐ノ牝牡ハ、多クハ赤狐ヲ生ズ、然レドモ時トシテハ、十字狐又ハ中間種狐ヲ生ジ、稀ニ銀黒狐ヲ生ズルコトアリ。

三 十字狐ニ牝牡ハ、多クノ場合ニ於テ十字狐ヲ生ジ、稀ニ赤狐若クハ銀黒狐ヲ生ズルコトアリ。

四 銀黒狐及赤狐ノ交配ニ依リテ生ズル狐兒ハ、赤狐ニ比シ腹頸及尾端ニ於テ、著シク黒斑ヲ現ハス之ヲ十字狐又ハ中間種狐ト稱ス。

五 十字狐ト銀黒狐ト交配スルトキハ、同産仔中ノ五割ハ銀黒狐ニシテ、他ノ五割ハ赤狐ナリ。

六 赤色ヲ帶ベル中間種狐ノ牝牡ハ、多クノ場合ニ於テ同産仔中ニ、黒狐若クハ銀黒狐ヲ混生シ、其割合ハ常ニ産仔總數ノ四分ノ一ナリ。

七 例外ノ場合トシテ中間種ニ於テ、若シ毛色斑紋ヲ呈セズ、各色能ク融合スルトキハ、以上ノ法則ニ準據セザルコトアリ、恰カモ馬匹ニ於テ、赤色及白色ノ融合シテ栗毛色ヲ呈スルガ如ク、赤狐及銀黒狐ノ交配ニ依リ、十字狐ヲ生ゼズシテ、反テ中間色ヲ呈スルモノヲ生ズルコトアリ。

以上各種ノ狐ガ、交配ニ依リテ生ズル産仔ハ、其階級如何ニ依リテ、色彩ノ程度ヲ異ニスルモノニシテ、器械的ニ其色彩ヲ一定スルコトハ不可能デアツテ、三頭竝テサヘ嚴密ニ檢視スルトキハ、同一色彩ノモノヲ得ルコトガ困難デアアル。

以上狐ノ毛色遺傳ニ關シ、先ヅ之ヲ實驗上ヨリ證明スル資料ヲ供給シテ置イタノデアアルガ、之ヲ科學的ニ説明スルニハ、所謂「メンデル」氏遺傳法則ヲ假ラナケレバナラス。

「メンデル」ト云フ人ハ、一八二二年奥太利ノ片田舎ニ生レ、寺院住職トシテ一生ヲ送ツタ人デアアルガ、偶然ノ事カラ豌豆ノ研究ヲ試ミ、其花ヤ實ニ、色々ノ變リ物ノアルコトニ興味ヲ感ジ、遂ニ遺傳上、確固タル學說ヲ樹立スルニ至ツタノデアアル。メンデル氏ノ稱ヘル所ニ依ルト、遺傳物質ハ化學上ニ謂フ所ノ原素ノ如キモノニシテ、種種ナル場合ニ於テ離合聚散スルケレドモ、其本質ニ於テハ常ニ變化スルモノデハナイ。而シテ此離合聚散ノ狀態如何ニ依リテ、各種ノ遺傳現象ヲ呈スルモノデアアル。而シテ「メンデル」氏ハ此遺傳物質ニ、特ニ單位性質ト云フ名ヲ付シテ居ル。此單位性質ハ必ズシモ同一程度ノモノニアラズシテ、或ル者ニ於テハ強ク、或ル者ニ於テ弱ク、相互ニ強弱優劣ノ差ガアル。故ヲ以テ今同一體內ニ於テ、相匹敵セル單位性質ガ、

一緒ニ寄合フトキハ一ツハ他ノ一ツノ爲ニ一時蔽ハレテ、其性質ガ現出シナイ事ガアル。此場合ニ於テ現ハレテ來ナイモノハ、劣性デアルト稱シ之ニ反シテ他ヲ蔽ヒテ自ラノ性質ヲ現出スルモノヲ優性ト稱スルノデアアル。併シナガラ劣性トテモ決テ其本性ヲ消失シタリ、若シクハ變化シテハ居ラヌカラ、或ル機會ニ於テ優性カラ分離スルトキハ、蔽ハレタル劣性ガ再ビ現出スル、之ヲ分離法則トモ稱ヘル。則チ之ヲ狐ノ場合ニ見ルニ、赤色ハ優性テ、黒色ハ劣性ニ相當スルノデアアル。黒色ニセヨ赤色ニセヨ、同ジ純粹血統ノモノ同士カ、交配スルニ當リ、何等外界ヨリ手加減ヲ施スコトナシトセバ、黒狐ノ牝牡ヨリ生ジタル産仔ハ、何レモ黒色ニシテ、赤狐ノ牝牡ヨリ生ジタルモノモ、亦同一理由ニ依リテ赤色ヲ呈シ、此間雜色若クハ中間色ノ現出スルガ如キコトガナイ。茲ニ黒狐ノ遺傳的單位性質ヲBトシ、赤狐ノソレヲRヲ以テ示セバ、前述同一血統同士ノ交配ハ次ノ如ク書キ現ハスコトガ出來ル。

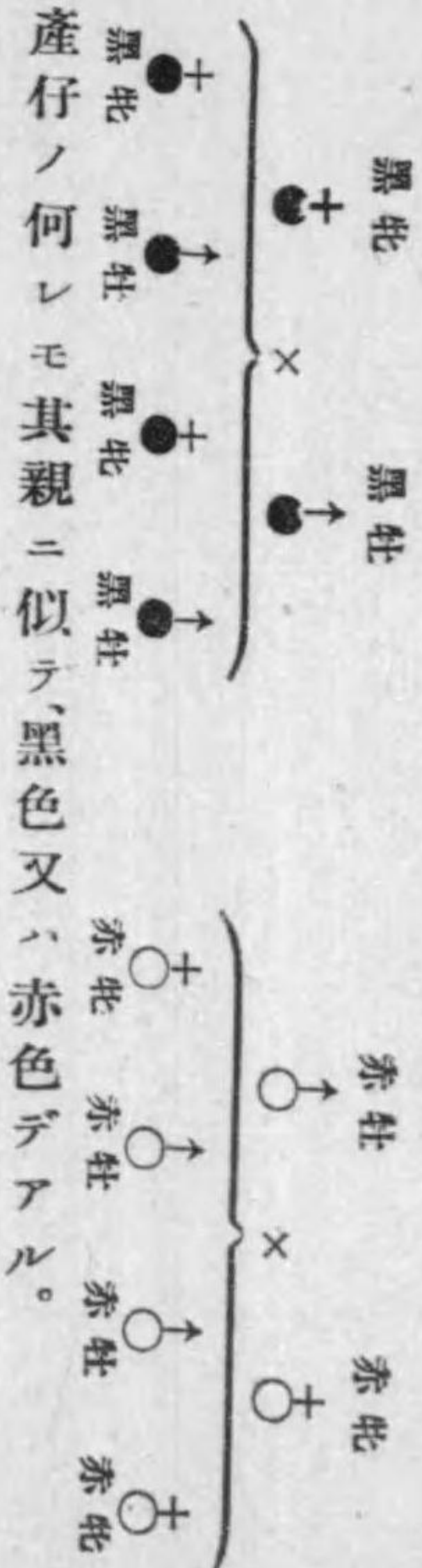
黒狐ノ場合

$$B \times B = B^2$$

赤狐ノ場合

$$R \times R = R^2$$

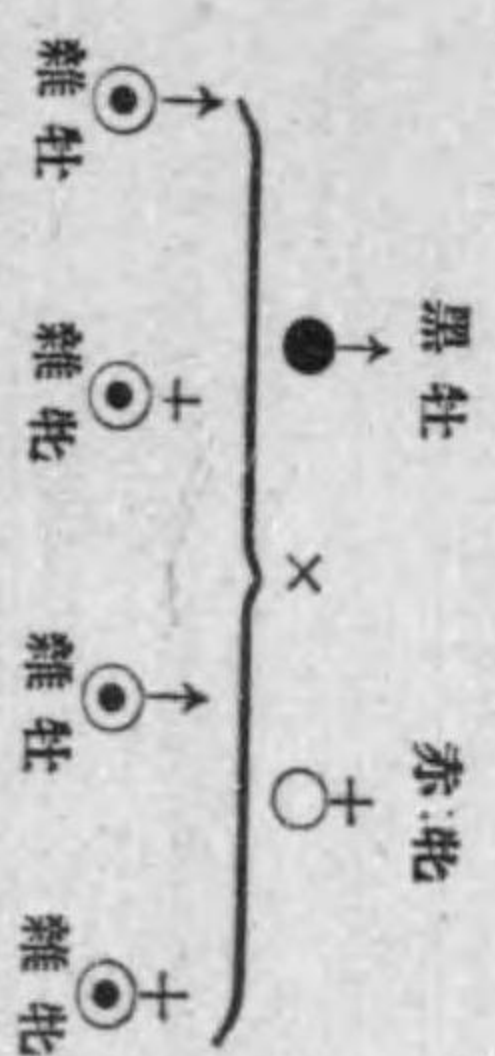
更ニ之ヲ圖ニテ表示スルトキハ左ノ如クデアアル、但シ一偶ノ牝牡ニ依リテ生ズル産仔ヲ假リニ四頭トスル。



生レタル産仔ノ何レモ其親ニ似テ、黑色又ハ赤色デアアル。  
然ルニ茲ニ優性タル赤狐ト劣性タル黒狐ト交配スルニ當リテハ、其兩者ガ純粹血  
統ニ屬スルダケニ其間ニ於ケル産仔ハ、何レモ赤色若クハ中間雜種ノ十字斑紋ヲ  
呈シテ、決シテ黑色ヲ呈スルモノデナイ。

$$B \times R = BR$$

則チ之ヲ圖示スレハ

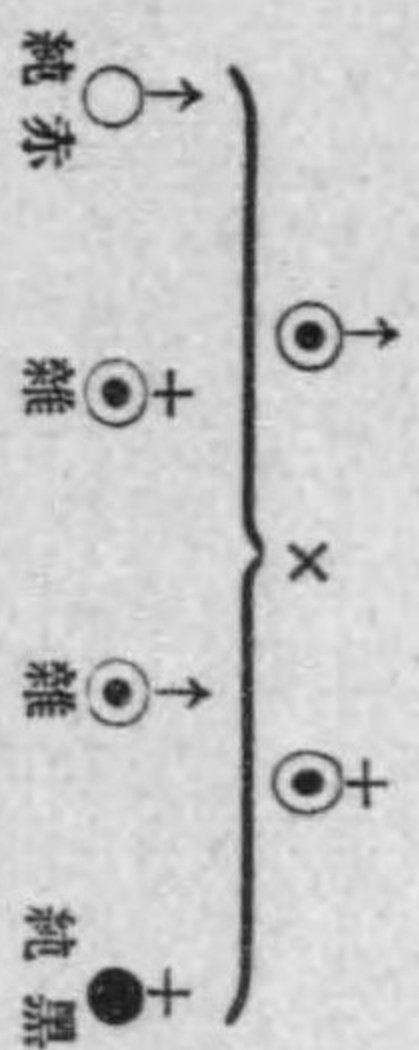


此等産仔ハ何レモ雜種ニシテ、既ニ黑色ヲ呈シテ居ルコトガ出来ズシテ、赤色若ク  
ハ中間雜種タル十字斑紋ノ形ヲ採ツテ居ル。中間雜種タル十字狐ニアリテハ、其雜  
種タルコトハ既ニ明白デアアルケレドモ、他ノ赤色狐ニ至リテハ、眞ニ赤狐ニアラズ

シテ、其箇體內ニハ既ニ劣性タル黑色遺傳物質ガ、遺傳シテ居ル。只其色ガ外部ニ現  
ハレナイマデノコトデアアル。故ヲ以テ赤色雜種ヲ基礎トシテモ、尙能ク黒狐若クハ  
赤狐ヲ育成スルコトガ出来ルノデ證明セラルル。此中間雜種タル赤狐、若クハ十字  
狐ヲ以テ、相互間ニ交配セシメタナラバ、如何ナル結果ヲ奏スルカヲ見ルニ、

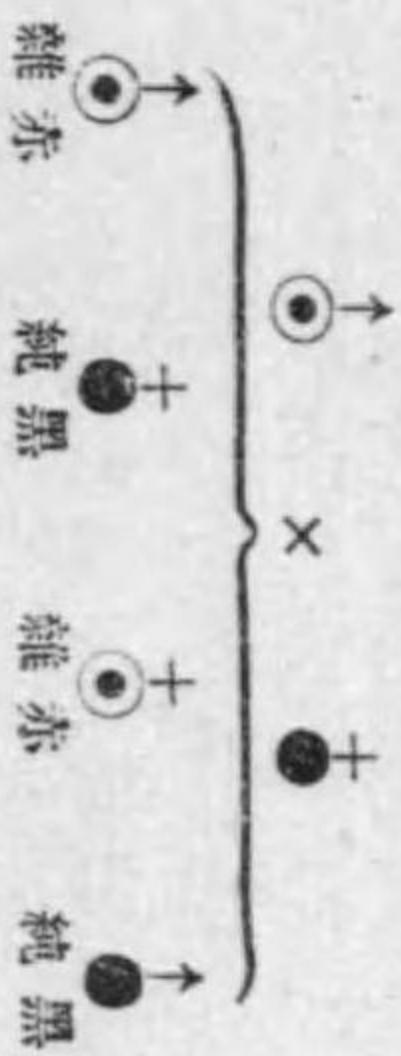
$$BR \times BR = B^2 + 2BR + R^2$$

デ、之ヲ圖式ニ示セバ



此場合ニ於テ産仔四頭中純粹赤色及黑色ガ各一頭、雜種ガ二頭アル。則チ純粹黑色  
種ハ、僅カニ總數ノ四分ノ一ニ過ギスシテ、他ハ純粹赤色、若クハ十字雜種ニ屬シテ  
居ル。而シテ此純粹黑色種若クハ赤色種ハ、既ニ固定シタルモノデ、永久不變性デア  
ルケレドモ、雜種ニ至リテハ、更ニ此ヨリ分離シテ諸種ノ變化ヲ來スモノデアアル。  
更ニ進ンデ前述方法ヨリ得タル純粹黒狐ニ、十字雜種若クハ赤色雜種ヲ交配シタ  
ル結果ハ

$$B^2 \times BR = 2B^2 + 2BR$$



此場合ニ於ケル産仔ノ半數ハ、十字若クハ赤色雜種ニシテ、半數ハ純粹種黒狐デア  
ル。以下此交配方法ニ依ルトキハ、常ニ半數ノ純粹種黒狐ヲ得ベキコトハ疑ヒナイ。  
以上述ブル所ヲ要約スレバ、

- (一) 二種ノ相異ナレル純粹種ヲ相互ニ交配スレバ産仔ノ總テハ中間雜種ナリ。
- (二) 中間雜種ヲ相互ニ交配スルトキハ、産仔總數ノ半數ハ又中間雜種ニシテ、總數  
ノ四分ノ一宛ハ、其祖先ノ純粹種ニ復歸ス。
- (三) 中間雜種ト純粹種ト交配スルトキハ、産仔總數ノ二分ノ一ハ、亦中間雜種ニシ  
テ、他二分ノ一ハ純粹種ヲ得。
- (四) 同一ノ純粹種同士ノ交配ニ依リテ生ズル産仔ハ、又常ニ純粹種ナリ。  
樺太廳種畜場ニ飼育セル貳歳狐を以テシテ、大正五年五月ニ十字狐ノ壹偶ヨリ、牝  
三頭牡貳頭計五頭ノ仔狐ヲ分娩セシカ、長スルニ及ヒテ其中ニ貳頭ノ牝牡壹偶ノ  
黒狐ヲ有スルヲ發見シタ、此等ハ飼育ノ當初ニ於ケル、第一吉報デアル。

### 第七章 衛生並疾患

加奈陀、プリンス、エドワード、島、シヤロツトタウンニ住居シ、斯業ニ經驗アルアレキ  
サンダー、ロツス博士カ、狐ノ疾患ニ關シ報告セルモノニ云フニハ、人工飼養ニ係ル  
狐ハ、天然野生ノモノニ比シ、疾患ニ罹ル歩合カ多イ。此レハ野生狐ノ如クニ、各種ノ  
食餌ヲ攝收スルコト能ハズ、勢ヒ食餌ノ種類ト範圍トヲ局限セララルヲ免レズシ  
テ、殊ニ骨格ノ構成ニ必要ナル要素ヲ索ムルコト少キガ爲ニ、人工飼養ノ狐ニハ、所  
謂畸形體ヲ見ルコトガ多シトノコトデアアル。是ニ依リテ見レバ、狐ノ飼育上食餌ニ  
對スル注意ハ、特ニ緊切ナルモノデアアル。獨リ營養上ヨリ見テ、緊切事タルノミナラ  
ズ、疾患ハ食餌ヨリ來ルモノガ、其ノ主ナルデアアリ。寄生蟲ヨリ來ルモノガ、其ノ二  
デアアル。寄生蟲ハ亦皮膚ニ寄生スルモノ、即チ外寄生蟲ト、内部器官ニ寄生スルモノ  
即チ内寄生蟲トニ分ツコトガ出來ル。以下疾患ノ徵候及此レガ簡易ナル治療法ヲ  
述ベヤウ、而シテ其ノ重患ニ至リテハ、此レガ治療ハ固ヨリ専門獸醫ノ力ニ俟タナ  
ケレバナラス。

#### 一 佝僂病

飼養中ニアル狐ハ、其ノ食餌トスベキモノノ中ニ、筋骨ヲ構成スベキ成分ノ缺乏セ  
 ルトキハ、骨格軟弱ニシテ自ラ畸形ヲ呈シ、完全ナル發育ヲ遂グルコト能ザサルニ  
 至ルモノガアル。此病患ニ對シテハ、骨粉、石灰水、肝油、磷酸石灰、曹達ノ如キモノヲ、食  
 餌調理ノ際、適宜添加スルヲ要スベク、空氣、日光ノ供給ヲ充分ナラシムベシ、斯クシ  
 テ罹病ノ初期ニ在リテハ、之レガ救治ヲ謀リ得ルコトガ出來ル。

二 消化器病

飼養場ニ收容セル狐ガ、消化器官ニ障害ヲ生シ易キコトハ、既ニ前述シタル所デア  
 ル、消化器病トシテハ、次ノ諸病ガアル。

イ 便秘 稀ニ便秘ニ苦ムモノアレドモ、是レハ食餌ノ給與方法ニ依リ、容易ニ

治療シ得ルモノデアアルカラ、心配スル程ノモノデナイ。之ニ用ユル投薬トシテ  
 ハ、カスカラ劑ヲ用フルカ、若クハ石鹼灌腸ヲ施セハ、効果アリ。

ロ 下痢 便秘ノ後ニカ、又ハ久シク菜食セザル時ニ於テ、下痢ヲ發スルコトガ  
 アル。此レガ治療法ハ、蓖麻子油ニ、數滴ノ松精油ヲ添加シタルモノヲ服用セシ  
 メ、且ツ二時間置キテ、十乃至二十「ダレイン」ノ蒼鉛丸ヲ服藥セシム、斯クシテ下  
 痢ノ止ムヲ見ル、然ル上ハ、食餌ヲ給スルニ當リテモ、肉類ヲ避ケ、牛乳、ビスケツ

ト、鶏卵等消化シ易キモノヲ給與スベキデアアル。若シ容體衰弱シ、疲勞ヲ覺ユル  
 ガ如キコトアラバ、些少ノ「ブランドー」ヲ滴加スベシ。其ノ奏效顯著デアアル。幼狐  
 ニ在リテハ、下痢ノ爲ニ體溫低下スルコトアルヲ以テ、斯ル時ハ、湯温袍、其他人  
 工採暖法ヲ施スヲ要スベシ。産褥内ニ棲息セル時期ニ在リテハ、畜舎ノ屋根ヲ  
 開キ、産褥内ニ日照ヲ容ルコトヲ謀ルベク、亦食器ハ、疾患ノ傳染媒介ヲナスコ  
 トアレバ、常ニ清潔ニスベキハ勿論、患畜ニ用ヒタル食器ハ、充分消毒清潔法ヲ  
 施スコトヲ要スベシ。

ハ 腸炎 狐ノ疾患中、最も普通ナルモノノ一ニシテ、此レガ病原ハ、不消化質  
 ノ食餌、不潔ナル棲息場、刺戟性毒物等是レナリ、病徴ハ、食慾減退シ、下痢及肛門  
 出血ヲ催シ、發熱高ク、眼球充血シ、脈膊急ニシテ、毛色惡ク、光澤ヲ失シ、全身疲勞  
 ヲ覺ユルガ如キモノデアアル。投薬ハ、下痢ニ於ケルモノト同様デアアル。併シ一朝  
 此等ノ徴候ヲ呈セルモノハ、餘程ノ重患デアアルカラ、直チニ獸醫ノ治療ヲ求ム  
 ベキモノデ、素人ノ試ムベキモノデナイ、少時ノ猶豫ハ、病畜ヲシテ亦起タザル  
 ニ至ラシムルモノデアアル。

三 眼病

生後六週間乃至八週間ヲ經タルモノニ、眼炎ヲ發病スルコトガアル。此レガ爲ニ、或ハ眞ノ盲目ト爲ルコトサヘアル。救治法ハ、硼酸水ノ微温湯ヲ以テ洗滌シ、一日數回硫酸亞鉛水ヲ點眼シ、且ツ朝夕二回、黄色酸化汞ヲ、小豆大ノ丸粒ニシタルモノヲ、眼瞼ニ挿入スベキデアアル。

四 内寄生蟲

内寄生蟲類ニハ、圓蟲類ニ屬スルモノト、扁蟲類ニ屬スルモノトアル。肉類、蔬菜、草葉等ノ食餌攝收ノ際ニ於テ、幼蟲ノ形ヲ以テ若クハ成蟲ノ儘デ食餌ト共ニ口腔ニ入リ、腸内ニ寄生シテ、疾患ヲ惹起サスルモノデアアル。

イ 蛔蟲 *Ascaris marginata* 猫犬ニ發生シ、亦稀ニ人ノ小腸ニモ寄生スル。微細ナル

蚯蚓狀ノ圓蟲デアアル。此幼蟲ガ狐ノ腸中ニ大ニ發生スルトキハ、著シク營養ヲ害シ、貧血ヲ來シ、羸弱シテ斃ルルニ至ル。此レガ驅蟲藥トシテハ、「サントニネ」ヲ頓服セシムルカ、或ハ檳榔子末ヲ舐劑トシテ與フル。

ロ 包蟲 *Taenia Coenurus* 絛蟲屬ニシテ成蟲ハ二百二十個乃至二百五十個ノ片節ヨリ成リ、小腸ニ寄生ス、其ノ包蟲ハ反芻獸、殊ニ羊ノ腦ニ寄居シ、蠶豆大ノ膜囊ニ包マル、其ノ腦ニ寄居スルヤ患畜ハ旋回病若クハ包蟲性腦水腫ヲ惹起

シ、腦ヲ刺戟シテ躁狂性トナル。既ニ斯ノ如クナルトキハ、患畜ハ治療ノ効果ナキモノニシテ、屠殺シテ毛皮ヲ獲ルニ止メザルベカラザルモ、其ノ未ダ絛蟲狀態ニアル頃ニ於テハ、驅蟲劑トシテ、加麻刺ヲ牛乳ニ混ジテ頓服セシムベシ。又苦蘇ヲ甘草末ト共ニ、丸劑トナシテ與フルモ宜シイ。又「シャベルト」氏「絛蟲油」スピノラ「氏驅蟲藥」ナドモアル。

ハ 瓜實狀絛蟲 *Taenia Cucumerina* 前種ヨリモ小ニシテ、八十個乃至百二十個ノ片節ヨリ成ル。成蟲ハ犬ノ小腸ニ寄生ス、稀ニ猫及人ニモ之ヲ發生スル。寄生セル局部ノ粘膜ヲ刺戟シ、炎症ヲ起シ、腫脹ス、刺戟ノ甚シキニ至レバ、往々患畜ハ狂奔シテ、狂犬病ノ如ク、屢々咬ミ付ク癖ヲ有スルニ至ル。此絛蟲ノ包蟲ハ出テテ、狐ノ體表ニ寄生スル。虱ノ腹腔中ニ寄居スルモノデアアルカラ、自身ノ毛若クハ他ノ狐ノ毛ヲ舐メタル際、此包蟲ヲ宿シタル虱ヲ嚙下スル時ハ、此所ニ絛蟲ヲ發生スルノデアアル。此ガ治療ニ就キテハ、腦包蟲ノ絛蟲ニ於ケルモノト同ジ

五 外寄生蟲

イ 虱及蚤 幼狐ノ生後、四六週間ヲ經過シ、産褥ヲ出入スルノ頃ニ至ルモ、著シク弱小ナルモノニハ、多クハ此等外寄生蟲ノ、侵害ヲ蒙レルモノデアアル。虱ノ驅



蟲方法トシテハ、一英斤ノ苦白木ヲ、水一升三合ノ割合ニテ煮沸シ、十二時間冷却シテ得タル、苦白木浸液ヲ以テ、狐ノ體表面ヲ一面ニ洗滌スルノデアアル。又蚤ノ發生シタルモノナルトキハ、二升六合ノ水ニ、「オンス」ノ「クレオリン」ヲ注加シタル、「クレオリン」溶液ヲ以テ、身體全部ヲ洗滌スルガ宜ロシイ。但シ此等ノ場合ニ於テハ、獨リ幼狐ノ身體ヲノミ洗滌スルヲ以テ足レリトセズ。母狐ヲ洗滌シ、尙畜舎即チ飼育箱ノ各部ニ互リテ、同様ノ藥劑ヲ注加シテ、根本的驅殺法ヲ施スベキモノデアアル。

ロ 疥癬蟲 疥癬蟲ノ爲ニ、皮膚ニ白黃色ノ斑紋ヲ呈シ、甚シキハ其ノ局部ニ於ケル毛根ヲ害シ、脱毛スルモノアリ、此レガ救治方法トシテハ、患狐ヲ隔離シ置キ、水銀軟膏ヲ塗布スルノデアアル。

ハ 腺病寄生蟲 微生動物ガ、皮膚ノ組織ヲ侵害シ、皮膚炎症竝ニ腺病ヲ發生スルコトアリ、皮膚炎症ヲ起ス微生動物ハ、四足ヲ備フル卵圓形體ニシテ、腺病寄生蟲ハ、蟹ニ似テ微小ナリ、何レモ蔓延性甚シキモノデアアルカラ、此レガ患畜ヲ發見シタルトキハ、直チニ之ヲ隔離舎ニ移シ、其ノ甚シキモノハ屠殺シ、石灰ヲ混ジテ深ク地中ニ埋ムルカ、若クハ火中ニ投ジテ燒棄スルヲ要ス。又患畜ヲ出

セル畜舎ハ、之ヲ燒棄スルカ、或ハ久シク使用セザルコトニスル、一九一三年加奈陀、プリンス、エドワード島ニ、本病ノ發生セル時ノ如キ、頗ル猖獗ヲ極メタルモノデ、政府ハ之ガ爲ニ種狐ヲ他ヨリ輸入スルモノハ、一切之レガ検査ヲ行ヒ三週間繫畜場ニ置キ、數次健康診察ヲ試ムルノ制度ヲ採用シ今日ニ至レリ。甚ダ恐ルベキ寄生蟲デアアル。

狐ノ病患及其ノ救治法ニ就キテハ、大略前述ノ通りデアアル。要スルニ狐ノ病患ハ、犬ノモノト大差ナク、共通點ノ多クヲ見出スコトガ出來ル。亦狐ハ野生動物ノ習癖ヲ有スルモノデアアルカラ、多數ヲ一所ニ飼育スルニ於テハ、勢ヒ鬭爭嚙啗ヲ行ヒ、此レガ爲ニ負傷スルモノ多ク、外科的手術ヲ要スルコトモ、亦多イノデアアルガ、併シ上等種類トシテ、牝牡ヲ同棲セシムルモノニハ、鬭爭ナク、此方ノ手當ハ餘リ必要デナイ。狐ノ衛生上常ニ注意スベキモノハ、給與スベキ食餌ノ營養價值、日光及空氣ノ透徹濕氣ノ排除ヲ可能的ナラシメ、適當ナル運動ト、休息トヲ與フルコトヲ怠リテハナラヌ。

## 第八章 狐ノ捕捉及運送

從來狐ノ捕捉方法トシテハ、爆藥毒藥ヲ以テシ、獵銃若クハ虎銃等ヲ以テセラレタルモノデ、爆藥毒藥ノ使用ニ至リテハ、既ニ法ノ禁止スル所デアルカラ、獵銃虎銃ノ如キガ使用セラレテ居ル。併シナガラ此等ノ器具ハ、狐ノ生命ヲ奪フカ、若クハ不具ノモノトナスガ故ニ、直ニ其ノ毛皮ヲ獲ンガ爲ニハ、此等ノ方法ニ依リテ差支ナキモ、繁殖用ニ供スベキ目的ヲ以テシテハ、成ルベク負傷ノ度ノ少キ方法ヲ採ラナケレバナラス。故ヲ以テ強イテ虎銃ヲ用フルニ於テハ、其ノ緊壓スベキ銃ニ、毛布若クハ布帛ヲ纏ヒテ、獲物ノ負傷ヲ防グコトガ必要デアアル。又毘ニ成テハ其ノ種類モ色々アルガ、最モ安全ナルモノハ箱毘デアアル。

箱毘ノ構造ハ、内法一尺長サ四五尺ノ角樋形ノ箱ヲ作り、之ヲ横倒ニ地上ニ据付ケ其ノ一方ヲ閉ヂ、他ノ一方ニハ開閉自由ナル落シ蓋ヲ備フルコトニスル。而シテ閉ヂ口ノ内方ニハ、狐ヲ捕フルニ用ユル餌ヲ絲ニテ吊シ、其ノ絲ノ端ハ閉口ニ穿テル小穴ヲ通ジテ、樋ノ上表面ニ沿ヒテ落シ蓋ニマデ達セシメ、其ノ端ニ落シ蓋ヲ撐ユベキ細キ支柱ヲ結付ク、落シ蓋ハ亦タ内ニ向ヘル面ニ於テ、支柱ヲ撐ユベキ切跡ヲ

付ケテアルノデ、愈々毘ノ裝置成リ、狐ヲ捕捉スベク狐ノ往來スベキ途道ニ、毘ヲ横伏ニシテ落シ蓋ヲ舉ゲ、支柱ヲ以テ之ヲ支ヘテ置ケバ、狐ハ食餌ヲ求メテ此ノ毘ノ中ニ入り、其ノ中ニアル餌ヲ啗ミテ動搖スルトキハ、此ニ結付ケタル絲ニ依リテ、支柱ヲ外ヅシ、落シ蓋ヲ閉ヅルニ至ルノデアアル。其ノ他支柱ノ代リニ彈力アル枝條ニヨリテ、落シ蓋ヲ閉ヅルモノアリ。又落シ蓋ノ左右兩方ニアルモノガアル、此等ハ製作者ガ適宜其ノ宜シキヲ撰ブベキモノデアアル。要スルニ箱毘ハ、狐ヲ生擒スルノ上ニ於テ、目下最良ノモノトセラレテ居ル。樋ノ側面ニ金網ヲ張り、内ニ入リシモノノ何物ナルカラ判別スルニ、便利ナル裝置ヲシテ居ルモノアルカ、金網ヲ張りシモノハ、餘リ内ガ明白デアアルカラ、金網ノ上ヲ毛布様ノモノヲ以テ被覆シ、内ヲ暗黒ニシテ置カナケレバ、狐ノ竄入スルコトガ少イ。

狐ハ嗅感ノ殊ニ鋭敏ナルモノデアアルカラ、箱毘ヲ伏セルニ方リテモ、人手ヲ以テ徒ニ之ヲ翻弄スルガ如キコトアラバ、其ノ臭氣ヲ知ツテ狐ガ近寄ラヌヤウニナルカラ、之ヲ使用セントスル人ハ、手套ヲ手ニ纏ヒテ直接用器ニ接觸セザルコトヲ尊ブノデアアル。

以上ハ野生狐ヲ捕捉スルニ當リテノ方法ト裝置トヲ述ベタノデアアルガ、墻垣内ニ

飼養セルモノニ在リテハ、年來馴致ノ結果飼養者ニ對シテハ極メテ柔順デアリ、從テ之ヲ捕捉スルコトハ、意ノ儘ニナシ得ル譯デアアル、併シナガラ必ずシモ性質ノ順良ナルモノノミデナイカラ、手捕ヘニスルニシテモ、手套ヲ用フルカ、若クハ鐵篋ノ先端ニ鐵齒ヲ有スルモノヲ用ヒテ、捕捉スルコトガ安全デアアル、併シナガラ最モ安全ナルハ、一旦狐ヲ畜舎ニ追ヒ入レ、其ノ出入口ニ箱罌ヲ一方ノ口ヲ開キテ伏セ置キ、狐ノ此ニ入りタルトキニ捕フルデアアル、又別ニ狐ノ畜舎ニ入りタルモノハ、其ノ出入口ヲ閉ヂ、畜舎ノ屋根ノ一方ヲ外ツシ、之ヨリ手ヲ入レ、狐ノ頸頭部ヲ握リテ手捕ニスルコトハ、反テ簡便ニシテ且ツ作業ガ容易デアアル。

狐ヲ遠方ニ運送スルニ當リテハ、之ヲ木箱ニ容レテ汽車若ハ汽船ニ托送スルノデアアル、其ノ容器タルベキ木箱ハ、牝牡二頭ヲ容ルルニ、三尺立方ノ廣サガアレバ充分デアアル、大體ガ畜犬ヲ汽車運送ニ托スルトキニ、用ユルモノト想像スレバ宜シイ、但シ可相成ナラバ、箱ハ板ヲ隙カシテ、此ニ鐵網ヲ張付ケタイモノデアアル。

狐ノ運送中僅ニ數日間ノ道程ナラバ、別ニ糧食及飲料水等ノ給與ヲ要セザルモ、其ノ久シキニ互ルモノニ至リテハ、ビスケツトノ水ニ浸シタルモノト、獸骨及水ヲ給與セナケレバナラヌ、然ルトキハ一ヶ月間位ノ運送ハ、汽車、汽船共ニ別條ガナイ、加

奈陀竝ニ米國內ニ於テハ、狐ノ運送ニ當リテ其ノ運送期間ニ要スル食餌ノ給與ハ運送店ノ支辨スルコトニ決ツテ居ル。

他ヨリ運搬シ來レル狐ヲ飼育場ニ移スニ當リテハ、直ニ墻垣内ニテ運送箱ヲ開カズ、先ヅ畜舎ノ出入口ニ宛テテ箱ノ戸ヲ開キ、彼等ヲシテ一先ヅ畜舎内ニ入り、舎内ノ模様ヲ熟知セシムルヲ要ス、暫クシテ彼等ハ畜舎ヲ出テテ墻垣内ヲ逍遙スルニ至ルノデアアル、但シ此期間ニ於テハ、墻垣附近ニ人ノ近ツクヲ避ケ、何人モ此行動ヲ窺フコトナカラシムルコトガ必要デアアル、然ルトキニ於テ彼等ハ、自ラ鎮靜ノ體度ヲ取り、墻壁ニ攀テ登ツタリ、飛ビ躍ル如キ燥狂ノ状態ヲ演出スルコトナク、自然ニ自己ガ安靜ノ居所タルコトヲ認知スルヤウニナル。

家畜ノ所有者ヲ明記スルノ方法トシテ、從來耳ニ刻ミヲ入レタリ、皮膚ニ烙印ヲ施シタリシテ居ルケレドモ、狐ハ其ノ毛皮ニ傷ヲ付クルコトハ禁物デアアルカラ、別ノ方法トシテハ金屬製ノ小札ヲ耳朵ニ纏付シタリ、又齒ニ點スルモノガアル、若シ皮膚ニ烙印セントセバ、評價上、比較的價值少キ足肢ニ行フガ宜シイ、又種狐ニ至リテハ尾端ノ毛ヲ剪ミテ、其ノ飼育ニ係ルモノナルコトヲ辨別セシムルモノガアル、斯クシテ其ノ所有者ヲ明カニシテ置ク以上ハ、若シ墻垣ヨリ逸失スルガ如キコトア

ルモ、此記印ニ依リテ其所有者ニ還付スルコトニセナケレバナラヌ。逸出セル狐ヲ捕獲シタルモノハ、之ヲ捕獲者ノ所有ニ歸スベキカ。若クハ之ヲ飼養者ニ還付スベキカハ、從來狐飼養ノ行ハルル地方ニ於テノ問題ナリシガ、既ニ飼育狐タルコトガ暗ニ知ラルル以上ハ、之ヲ還付スベキハ道德上ノ正當行爲デアアル。況ンヤ所有者ガ明記セラルルモノアルニ於テハ、之ヲ還付スベキヤ否ヤハ疑問ノ存スベキ餘地ナキ所ニシテ、近年加奈陀州法ハ、明カニ之ヲ還付スベキモノナリト宣言シテ居ルノハ至當デアアル。

## 第九章 狐ノ屠殺

毛皮ヲ得ンガ爲ニ狐ヲ屠殺スルニハ、冬期ニ入りテ十二月ニ至ルマデヲ適當ナル時期トナスモ、最モ優良ナル品質ノモノハ、十一月ニ屠殺シタルモノデアアル。狐ハ生後八ヶ月ヲ經タルモノハ、既ニ成獸ノ部類ニ屬シ、一年八ヶ月頃ヲ以テ屠殺スベキ適當年齢ナリトシテ居ル。併シナガラ總シテ若キモノハ、老齡ノモノニ比シテ、銀色ノ差毛ヲ生ズルコトガ少イカラ、最優良品タル銀毛黑色狐皮ヲ得ントスルニハ、一層長期間ノ飼養ヲ要スル次第デアアルケレドモ、現今市場ニ於ケル品拂底ト、只純黒

ナルモノヲ求ムルノ急ナル關係上、漸々比較的若キモノヲ處分スルコトニナリ、遂ニ前記ノ年齢ニ達セルモノヲ以テ、屠殺年齢トスルノデアアル。

屠殺ニ先チ數月間ハ、特ニ毛皮ノ毀損セザランガ爲ニ、飼養管理上最モ注意ヲ要スベク、蚤虱疥癬其他寄生蟲類ノ發生ヲ絶對的ニ防止シ、且ツ濕地ニ躊躇スルガ爲ニ濡ヘル水分凍結ノ結果、毛皮ノ損傷スルコトナキコトニ努ムベク、既ニ畜舎ノ構造部ニ於テ述べタル如ク、狐ノ通路タルベキ出入口、若クハ門扉ノ如キハ、豫メ充分ニ其ノ接觸面ヲ滑澤ナラシメテ、毛皮ノ損傷セザルコトヲ期スベキデアアル。殊ニ肩部及臀部ノ毛ヲ毀損セル毛皮ニ至リテハ、甚シク其ノ價值ヲ損スルモノデアアルカラ注意スベキ事共デアアル。

亦積極的ニ、毛皮ノ光澤ヲ發揮セシメンガ爲ニハ、豫メ屠殺ニ先チ糖蜜、ビスケット及煮沸セル大麥、燕麥、小麥等、營養分ニ富メル食餌ヲ多量ニ與ヘタリスルノデアアル。滋養食餌ニ飽食セシムレバ、自ラ狐體ガ脂肪ニ富ミ、其ノ毛皮モ亦重厚ニナル。或ル實驗家ノ示ス所ニ依レバ、能ク肥臘法ヲ加ヘタルモノハ、脂肪ノ量ヲ著シク増加シ、肋骨ノ周圍ニ、一時ノ脂肪層ヲ生ジタルモノサヘアルニ至ルト云フテ居ル。斯ルモノニアリテハ、其ノ價值ガ、大ニ増進スルノデアアル。人間ニ對シテハ、俗ニ苦髮樂爪ト

云フガ、狐飼育上ニ就キテモ、飢餓状態ノ下ニ在リテハ其ノ毛ヲ長クシ、毛皮トシテ良好ナルモノヲ得ルト稱ヘテ居ルモノガアルガ、此レハ一種ノ錯覺ニ過ギナイ。屠殺方法トシテハ、屠殺スベキ狐ヲ地上ニ横臥ニシテ、前肢ノ少シ後ノ方胸廓部ニ當リ、屠殺者ハ靴穿キノ儘、自己ノ一脚ヲ其ノ上ニ据ヘ、全身ノ重量ヲ之ニ加ヘテ一氣ニ踏付ケ、心臟ヲ破碎スルニアル。又狐ノ頭ヲ取り、頭頂ヲ肩ニ接スル迄急ニ仰向ニシ、且ツ頸部ノ所ヲ急ニ回轉シテ、咽喉部ノ氣管ヲ切斷スル方法モアル。併シ此等兩法トセ出血スルコト夥シク、爲ニ毛皮ヲ潰損スルコト甚シクシテ、折角ノ光澤ヲモ毀損スルコトノ恐レガアル。

近年「クロフォールム」又ハ「エーテル」ヲ用ヒテ、屠殺ヲ試ムモノアルニ至ツタ。前法ノ如キ慘酷ナル作業ナク、又毛皮ヲ毀損セザルガ爲ニ、一般ニ賞用セラレテ居ル。夫レニハ屠殺用ノ木箱裝置ヲ準備シ置キ、此ニ屠殺スベキ狐ヲ收容シ密閉シタルトキハ、豫テ木箱上部ノ一隅ニ當リ、裝置セル小ナル穴ニ脱脂綿ヲ挿入シ、前述ノ藥劑ヲ脱脂綿ニ灌注シ、直チニ外部ヨリ穴ヲ密閉シ置クトキハ、藥劑ハ木箱内ニテ揮發シ、直ニ死ニ至ラシム。斯クシテ斃死シタルヲ見計ヒ、木箱内ヨリ取り出し、解體場ニ送付スルモノデアアル。屠殺用藥劑ハ、以上ノ外青酸加里、青酸「ストリキニン」及砒素ヲ

用ユルコトガアル。此等ハ何レモ劇烈ナル毒藥デアアルカラ、狐ハ直ニ斃死スルノミナラズ、此毒藥屠殺ニ依ル獸肉ヲ、他獸ニ與フルトキハ、再ビ斃死若クハ輕クトモ病患ヲ惹起スルモノナレバ、屍體ノ處理方法ニ關シテハ、充分ノ注意ヲ要スベキデアアル。

屍體ヲ剥皮スルニハ、口頭ヨリ始ムルノデ、先ヅ刀ヲ以テ、上下トモ齒眼ト唇トノ間ナル薄キ膜ヲ切り裂キテ、頭蓋骨ヲ先ヅ剥キ、漸次ニ裏返シニ後體部ニ及フノデアアル。但シ茲ニ注意スベキハ、耳朵、四肢竝尾ノ部分ヲ剥グコトデアアル。耳朵ハ毛皮ノ形容ニ重大ナル關係アルモノデアアルカラ、之ヲ毀損スルガ如キコトガアツテハナラヌ。又前肢ハ腋部ヨリ、後肢ハ内腿ヨリ、刀ヲ入レテ皮ヲ割キ、足蹠ニ達セシメテ剥キ、尾ノ部分ハ、尾ト肛門トノ間ヨリ刀ヲ入レテ割キ、尾骨ヲ完全ニ剥去ルベシ。若シ骨片ノ殘留スルガ如キコトアリ、之レガ乾燥固着スルニ於テハ、製皮ニ困難デアアルノミナラズ、著シク毛皮ノ價值ヲ損傷スルニ至ルノデアアル。

剥皮ニ際シ肉及脂肪ハ、能フベキ限り之ヲ脱去スルコトヲ努メナケレバナラヌ。剥皮シ終レバ、毛皮ハ其儘二三日乾燥セシム、而シテ後轉回シテ、毛部ヲ外面ニ、内部ヲ内側ニシ、内部ニ草藁ヲ填メテ細長形ニシ、充分乾燥セシムルノデアアル。又別ニ一方

法トシテ剥皮スルニ當リ、尻部ヨリ初メ、口頭部ニ終ルモノアリ。乾燥スルニモ剥皮シタルモノハ、豫メ毛部ヲ外側ニシテ乾シ、後ニ反轉シテ肉部ヲ外側ニシテ、充分ニ乾燥スルモノガアル。何レニシテモ直接太陽ニ曝シ、若クハ特ニ人工的ニ炭火等ニ依リテ乾燥セシメテハナラヌ。是レ蓋シ其ノ色澤ヲ損亡スルコトアルカラデアアル。斯ノ如ク剥皮シ、乾燥シタルモノハ、普通飼養者ノ手ニ於テハ製皮加工ヲ營ムコトナク、生皮ノ儘賣品トシテ市場ニ販出セラレ、皮革商人ノ手ニ入り、製革工場ニ於テ製皮セラルルノデアアル。

## 第十章 毛皮ノ品質

毛皮ノ品位如何ハ、直接ニ價格ニ關係スルモノデアアル。今毛皮ノ價格ニ影響スベキ要素タル、色澤、品質、大小、多寡、雌雄、流行等ニ關シ、概括的ニ述ベテ見ヤウ。色澤 凡ソ動物タルト植物タルトヲ論ゼズ、總テノ生物ハ其ノ生存地ガ赤道ニ接近スルニ從テ濃色ヲ呈シ、極地ニ進ムニ從テ、反對ニ淡色ヲ見ルノガ常規デアアル。例ヘバ、鼯鼠、山猫、黃鼬、兔ノ如キ、其ノ產地ノ南方ナルニ從ヒ、愈々濃色トナリ、黒サヲ増加シテ來ル、而シテ北ニ至ルニ從テ、兎熊マデガ白クナル。然シナガラ亦例外ノ動物

ガアル、海狸ノ如キハ、加奈陀ノ或ル地方ヲ限リテ、特ニ黒色ノ濃キモノヲ産スルケレドモ、其ノ南方亞米利加諸州ニ産スルモノハ著シク色ガ淡クナル。又貂ニシテモ樺太ノ北倚リノ地方勘察加、ソレカラ、西比利亞ノ「イルクーツク」地方ニ於テハ、其ノ色漆黒ニシテ、然カモ毛ノ稠密ナルモノヲ産スルコトハ、既ニ世人ノ知ル所デアアル。又世界ニ於テ其生活分布ノ最モ廣キモノノ一タルベキ、狐ヲ以テ例證スルモ、我日本ノ内地府縣ニ産スルモノハ、赤狐デアアルケレドモ、之ヲ樺太ニ見レバ、赤狐十字狐、黒狐ト云フ様ニ、黒色ノモノガ現ハレテ來ル。亞米利加及加奈陀ニ於テ、黒色狐ヲ産スルガ如キ、亦之ヲ常規外ニ逸セルモノノ一ト見テ差支ナカラウ。

動物ニハ保護色ト云フモノガアル、所謂冬嶺孤松秀ツルコトハ、弱肉強食ノ盛ニ行ハルル、生存競争場裡ニ、身ヲ處スル所以ノ途デナイコトハ、動物社界ニモ、チヤント會得セラレテ居ルカラ、可成外界ノ境遇ニ適應シ、變化スルコトニ苦心シテ居ル。雪國ニ於ケル白狐、黃鼬、兔ノ白色ヲ呈スル、ヒマラヤ山脈中ニ居ル雉、ノールウエノ松鷄カ、白羽ヲ有スルガ如キハ、是ノ例デアアル。然シ此レハ、今迄隠レテ居タ劣性ガ、外界境遇ノ變動ニ依リテ、優性トナツタ爲ニ起ツタ結果デアツテ、之ヲ兔ニ就テ見レバ、耳ノ後及腹部ニハ何レノ兔ニモ、量ノ大小コソアレ、必ズ白毛ヲ生ジテ居ルガ、此レ

ガ北極ニ近クニ隨ヒテ、白色部ガ優性トナリテ、全身爲ニ白色トナルノデアアル。此場合黑色若クハ灰褐色ハ、當然劣性ニ轉化シタ、極北兎モ耳ノ先端ニハ、僅カナガラモ黑色部ガ残り、又白毛ノ黃黝及白狐ガ、其尾端ニ黑色若クハ褐色ノ點アルニ依リテモ、此變化ノ由來スル所ヲ知ルコトガ出來ル。

元來動物ノ色彩ナルモノハ、動物ノ本性ニ依ルモノナルコト勿論デアアルガ、又其棲息スベキ地位境遇ニ依リテ、變異スルモノナルコトハ、前述ノ如クデアアル、印度人ハ其皮膚ガ、彼程マデニ黑色ナルハ、強烈ナル日光ニ直射セララルニ是レ依ルモノニシテ、之ヲ寒冷ナル地方ニ移住セシムレバ、漸次褪色シテ、黃色又ハ黒褐色トナル。又之ニ反シテ白皙人種モ熱帯ニ移住セルモノハ、漸ク黃色ヲ帶ビ、日本人ノ臺灣ニ永住セルモノノ顔色黃褐色ニシテ、所謂臺灣色ヲ呈スルニ至ルノハ、此レ皆外界境遇ノ變化ニ依リテ然ルモノデアアル。

白色ハ一般ニ、高貴ナルコトノ標準トセラレテ居ル。高尚、純潔ノ表徴トシテ、古ク吾日本ニテハ神代時代ヨリ、又之ヲ西洋ニスレバ、舊約全書時代ヨリノ思想デアアル。北米印度人ガ、白色水牛ノ皮ヲ尊重シ、白象ノ暹羅國人ニ重視セラレ、白狐裘ノ支那人ニ賞用セラレ、印度ノ祭祀ニ用フル、セブノ白色ナル、皆此思想ヨリ出デタノデアアル。

青色ハ植物ニハ常ニ見ル色彩ナレドモ、動物ニハ極メテ少ク、西部、アフリカ、産狒々ノ顔面青ク、アラスカ、産狐ニ青色ノモノアルガ如キ、其ノ例デアアル、然シ青狐ト雖モ眞ノ青ニアラズシテ、幾分褐色ヲ帶ビ、黒味ヲ呈シテ居ル、赤色ニ至リテハ比較的多シ。赤狐、赤色木鼠、赤猿、等ノ如キ、即チ此レデアアル。斯クノ如ク動物ノ羽毛ハ、各種ノ色彩ヲ有スレドモ、其新古ニ依リテ差異アリ、之ヲ保存スルコト久シクシテ、漸次褪色スルモノナレバ、色彩ハ常ニ鮮明ニシテ濃厚ナルベキヲ尊ブ。要スルニ獸毛皮ハ、黒色愈々濃クシテ、愈々其價值アルモノト云フベキデアアル。

品質 毛皮ノ品質ハ、冬期間、寒氣ノ烈シキカ否カニ依リ、大ニ差異アルモノニシテ、寒氣烈シキ時ハ、毛皮愈々良好トナル。然シナガラ單ニ寒氣烈シクトモ、食餌ノ豊富ナラザルニ於テハ、反テ其品質ヲ損スルモノデアアル。湖、入江等ノ沿岸地方ハ、其濕氣ト寒氣トハ、能ク毛皮ヲシテ重厚ナラシメ、品質ヲ向上セシムベシト雖モ、海濱ニシテ強風襲來スル所ニハ、其毛ヲ粗剛ナラシムル嫌ガアル。亦寒風ノ常ニ激シキ、高丘地ニ産出セルモノモ、亦海濱産ノ如ク良好ナルヲ得ズ。要スルニ品質ノ良好ナルモノハ、寒威凜烈ナル氣候ノ下ニ、湖沼地方ノ密林中ニ棲息セルモノニ多シ。樹林地ハ實ニ毛皮ヲシテ其色ヲ濃クシ、其毛ヲ細密ニシ、其光澤ヲ發揮スルモノデアアル。狐、貂

狼ノ如キ、皆然リトスルモノデ、椴松、蝦夷松ノ密林ノ如キハ、誠ニ理想的好條件ニシテ、西比利亞、加奈陀ノ密林ノ如キ則チ是レデアル。又毛皮獸類ハ、其ノ年齢ニ依リテ毛皮ノ品質ヲ異ニシ、老獸皮ハ粗剛ニシテ比較的品質良好ナラズ、然レバトテ幼獸ハ毛皮薄ク耐久力ニ乏シキノ缺點アリ、所謂中年物ヲ以テ、最良ノ毛皮ヲ得ベキデアル。

大小 野生獸ハ極地ニ近クニ從ヒテ其其色ヲ淡クスルト同時ニ、其體容ノ大サヲ加フルモノデアアル。此レハ食物ノ分布豊富ナラザルヨリシテ、飽食センガ爲ニハ、勢ヒ廣キ地方ヲ跋渉シテ、食餌ヲ漁ルノ必要上、自然ニ偉大ナル體格ヲ形成スル一原因デアアル。而シテ又寒地ニ在リテハ、食餌分布ノ割合ガ、貧小ナルガ爲ニ、弱肉強食ノ爭ガ中々ニ激シク、生存競争愈々激烈ニシテ、偉大ナル體格ノモノニシテ初メテ存在シ得タカラデモアル。北地ニアル野兎、海狸、赤狐、鼬、鼠、狸、虎ノ如キ、之ヲ南方産ノモノニ比シテ、常ニ大ナル毛皮ヲ産スルノハ、其實例デアアル。

又動物ノ人工飼育ニ當リ營養分ノ給與其良シキヲ得タルト、及雜交ノ結果其體格ヲ大ナラシムルコトガ出來ル。異種系統ノモノヲ交配スルコトハ、體格改造ノ上ニ著シキ効果ノアルコトハ、畜産學上既ニ明白デアアル。若シ此レト反對ニ同一血統ノ動物ヲ數代交配スルトキハ、自然ニ其ノ體格ヲ整正スルケレドモ、然シ漸次小サクナリ、虛弱トナリ、遂ニハ不妊性ノモノヲ生ズルニ至ルコトモ、亦事實デアアル。毛皮ノ大サハ、則チ亦毛皮ノ價格ヲ決定スベキ一要素デアアルカラ、人工飼育上ニ於テハ、此ノ原則ヲ應用シテ、長所ヲ發揮スベキガ本理デアアル。

多寡 稀少ハ物ノ價ヲ生ズルト云フコトハ、今更之ヲ述ブルマデモナイコトデアアル。毛皮ノ如キ、實用的價值ノ上ニ、其ノ價格ヲ決定スベキガ本體デアアルケレドモ、或ル貴重獸皮、則チ臘虎、臘熊、貂、黑狐ノ如キハ、稀少ナルコトガ、今日ノ價格ヲ保持セルコトデアアルカラ、此レガ産出ニ當リテハ、須ラク市場ノ調節ヲ忘レテハナラ又。

雌雄 男女兩性ノ數ハ同一ナリトハ、一般生物界ニ於ケル定理デアアル。人類、犬、猫、牛、羊ノ如キニアリテハ、此定理ヲ肯定スルコトガ出來ル。然カモ之ヲ總體的ニ肯定シ得ルノデアアツテ、地方的ニハ著シク差異ノアルコトヲ發見スル。人類社界ニ見テモ英國ニ於テ女性多ク、澳大利亞ニ於テ男性多ク、移住地ニ於テ男性多ク、移出地ニ於テ女性多キハ、則チ此一例デアアル。一般動物モ此例ニ漏ルルコト能ハズシテ、雄ハ雌ニ比シテ、移動性ニ富メルノ關係上、或ル地方ニ於テハ、特ニ雄性ノモノヲ多ク見ルコトガアル。雄ハ雌ニ比シテ、其毛皮モ重厚デアリ、形ガ大キク、光澤モ良好デアアル。



流行 嗜味性ノ發達、竝ニ流行ノ傳播ト云フコトハ、著シク毛皮ノ價格ニ影響ヲ來スベキモノデ、普通三四割ハ、流行ニ依リテ左右セララルモノデアアル。通常ノ毛皮ニシテ然リ、珍奇ナルモノニ至リテハ、殆ンド想像ノ外デアアル。

以上ハ一般毛皮ノ價格ニ影響ヲ來スベキ、要素ヲ述ベタルモノデアアル。銀、黒、狐皮ノ品階ニ關シテハ、前各章ニ互リ、要所、要所ニ於テ陳ベテ置キタル通り、毛皮ハ成獸ノモノタルベキコト、屠殺ノ熟期ヲ得ベキコト、剥皮ニ當リ、骨肉及脂肪ヲ充分ニ除去スベキコト、乾燥及保存ノ方法ヲ誤ラザルベキコトヲ注意スベキデアアル。若シ飼養屠殺其ノ宜シキヲ得ズシテ、不成熟ノモノ、時節外ノモノ、毛ノ剛キモノ短キモノ、汚染セルモノ、脂肪多キモノ、若クハ、油燒ケノセルモノノ如キハ、著シク其品質ヲ損害シ、或ハ其ノ甚シキハ何等ノ價セザルモノガアル。

「ジョンス」氏ガ、銀黒狐毛皮ノ評定標準トシテ、擧ゲテ居ルモノヲ左ニ述ベテ見ヤウ  
一、色彩ハ、背面全部黒色ニシテ、赤味ノ黒色ヨリモ、寧ロ青味ノ黒色デアアルノガ宜イ殊ニ頭部ニ於テ著シク漆黒色ヲ現ハシ、腹部ハ背部ニ比シ淡ク暗黒色ナリ。

二、銀差毛 黒色綿毛ノ上ニ、銀白色ノ差毛アルモノガ、銀黒狐ノ特色デアアル。然シナガラ、差毛ノ全體ガ、決シテ銀白色ニ限ルノデハナイ、銀白色ノ差毛ガ、點々ニ黒キ差

毛ノ間ニ散在シテ、其ノ散リ方ノ如何ニ依リ、全體ノ色合ヲ高尚ニシ、優美ニスルノデアアル。若シ銀白色ノ差毛ガ星ノ如ク團集的ニ密生シタリ、或ハ虎斑ノ如ク、波紋形ヲナセルモノノ如キハ、品質下劣ニシテ、論ズルニ足ラナイ。

三、組織 皮革商人ガ毛皮ヲ鑑定スルニハ、之ヲ手ニ取り、手掌ヲ以テ其表ヲ一擦スレバ、直チニ其ノ品質ヲ知ルベク、手觸ノ膨軟ニシテ、恰カモ絹絲ノ如キハ、是レ優良品デアアル。

四、光澤 絹絲ノ如ク強キ光澤ヲ有スルモノヲ優良品トス。毛皮ノ光澤ハ、獸體ノ健康デアリ、毛ノ細密ナルモノニシテ、始メテ得ベキ條件デアアル。又森林竝ニ湖沼地帯ノ空氣ハ、此光澤ヲ發揮スルニ與リテ大ニ力ガアル。

五、重量 狐毛皮一枚ノ重量ハ、能ク乾燥セルモノニテ七十五匁乃至百四十匁ノ間ニ在ル。百二十匁以下ノモノハ、價値ニ乏シイ。毛ノ長ク且ツ密生セルモノハ、重量モ大ニシテ、之ヲ使用スルニ當リテ、耐久性ニ富ム。

六、大小 毛皮ノ幅員大ニシテ、坪數ノ多キモノ程、優良ナルベキハ勿論ニシテ、特ニ銀黒狐皮ニ限ラルル條件ニアラザルナリ。

要スルニ毛皮品質ノ鑑識ハ、嗜味ニアリ、經驗ニアリ、眼識ニアルノデアツテ、筆紙、口

吾ノ能クスル所デナイ宜シク事ニ應ジ物ニ觸レテ其嗜味性ヲ養成スベキデアル。

## 第十一章 毛皮及種狐ノ取引狀況

各國各地方夫々毛皮ノ集散市場ヲ有シテ居ル我日本ニ於テモ樺太北海道産出ノモノハ勿論北樺太勘察加産ノモノト雖モ一旦小樽函館ニ集マリ此地商人ノ手ヲ經テ東京横濱並神戸ニ搬出セラレ茲ニ内外商人ノ手ニ入り國內ニテ用途アルモノハ加工製皮セラレテ店頭ヲ飾リ海外輸出向ノモノハ遂ニ倫敦「ライプチツヒ」紐約等ニ集中セラルルノデアアル。

毛皮産出ノ多キヲ以テ世界ニ重キヲナス西比利亞ノ如キモ亦夫々地方的市場ヲ有シテ居ル西部西比利亞ニ於テハ「チユメン」「トホルスク」「イルビツト」ガ重ナル毛皮市場ニシテ就中「イルビツト」ガ最モ顯ハレテ居ル同市場ニ於ケル毛皮ノ最近平均價格ハ貂ガ參拾圓乃至六拾圓木鼠五拾錢乃至壹圓赤狐八九圓見當ヲ稱ヘテ居ル中部西比利亞ニ於ケル市場ハ「ミスシンスク」「クラスノヤルスク」「エニセイスク」ニシテ東部西比利亞及「モンゴリヤ」地方ニ於テハ「ウルク」並「ウリアスタイ」ヲ舉グベキデアアル然シナガラ前述中部並東部ノ地方市場ニ集マレル毛皮ハ一旦必ズ西部

ノ「イルビツト」ニ集中スベク「イルビツト」ニ於ケル價格ハ西比利亞全土ノ毛皮ヲ評價スル標準トナルモノニシテ「イルビツト」ハ則チ西比利亞ニ於ケル毛皮ノ中央市場ト稱スベシ斯クシテ西比利亞ノ毛皮ハ「イルビツト」ヨリ之ヲ「モスコ」ニ若シクハ「ベテログラード」ニ轉送セラレテ茲ニ世界的商品トシテ倫敦「ライプチツヒ」巴里等ノ中心市場ニ上ルノデアアル。

英國倫敦ハ實ニ世界ニ於ケル毛皮ノ中心市場ニシテ獨逸「ライプチツヒ」米國紐育此ニ次ギ所謂三大市場ヲ形成シテ居ル「イブラツス」氏ノ研究スル所ニ依レバ一九〇七年乃至一九〇九年ノ三年間平均世界市場ニ現ハレタル毛皮ノ年産額ハ壹億八千萬圓其ノ中「ライプチツヒ」ニ集マレルモノ八千萬圓ニ達シテ居ル此外土人並狩獵者ガ自家使用ニ供セルモノハ隨分巨額ノ數量ナルベキモ此レハ計算外ニ措クト云フテ居ル。

世界ノ市場ニ現ハルル毛皮類ハ狐貂栗鼠鼬鼠狸水獺狼山猫兔海狸臘虎臘肭獸山鼠木鼠「アナグマ」「アザラシ」「コヒツジ」「ニホヒネコ」猫虎等頗ル多種多様デアアルガ此等ヲ詳述スルコトハ本篇ノ主旨デナイカラ省略スルコトニシテ就中各種狐ノ産地並其ノ産出額ニ就キ「イブラツス」氏ノ調査セル所ヲ舉グレハ大概左ノ通デア

ル。但シ産出額ハ枚數ヲ以テ示ス。

(ア) 赤狐

北亞米利加—二〇〇、〇〇〇 西比利亞—六〇、〇〇〇 露 西 亞—一五〇、〇〇〇

蒙古、支那、日本—五〇、〇〇〇 埃太利亞—三〇、〇〇〇 西部及中部亞細亞—五〇、〇〇〇

「ノールウェー」—二五、〇〇〇 獨 逸—二五、〇〇〇

其他歐洲諸國—三五、〇〇〇

(イ) カラガネ狐

西比利亞及中部亞細亞—一五〇、〇〇〇

(ウ) 十字狐

亞米利加—一五、〇〇〇 西比利亞—三〇、〇〇〇

(エ) 灰色狐

北亞米利加—五〇、〇〇〇

(オ) キット狐

北亞米利加—五〇、〇〇〇

(カ) 白狐

亞細亞—七〇、〇〇〇 亞米利加—三〇、〇〇〇 北部歐羅巴—一〇、〇〇〇

(キ) 銀黒狐

亞米利加—四〇、〇〇〇 西比利亞—三〇〇

(ク) 日本狐 (ラックーン、ドック)

日本—八〇、〇〇〇 支那—一五〇、〇〇〇 朝鮮—三〇、〇〇〇

(ケ) 南米狐

パンパス及バタゴニア—一五、〇〇〇

以上「イ、ブラッス」ノ計算ニ依レハ、一ヶ年間ニ世界ノ市場ニ現出スベキ狐ノ毛皮ハ百五十八萬三千三百枚ニ上ルコトデアル。固ヨリ年ニ依リテ、此數ニ異動アルコトハ免レナイ。

毛皮ノ價格ハ、倫敦ノ如キ中央市場ニ於テモ、變動ノアルコトハ、止ムヲ得ナイモノデアルガ、北部加奈陀産赤狐一枚ノ毛皮ガ、倫敦ニ於テ八十圓乃至百六十圓ヲ唱ヘラレテ居ル。若シ夫レ黒狐若クハ銀黒狐皮ニ至リテハ、著シク高價ニシテ、赤狐皮ニ比シテ數倍或ハ十數倍スルモノガアル。

近年狐飼養業ノ勃興スルニ方リ、種狐ノ賣買ガ行ハルルコトナツタ。毛皮ハ普通

種狐タル生畜ノ三分ノ一ノ價格ト評價セラレテ居ルノデアアルガ、此事業經費希望者漸ク多キヲ加フルニ從ヒ、生畜ノ價格ハ著シク騰貴シテ來タ。加奈陀、ブリンズ、エドワード島ニ於ケル、一九一〇年種狐ノ賣買ハ、一偶六千圓乃至八千圓ニシテ、當時ハ尙毛皮ノ價格ヲ基礎トシテ評價セラレ、幾分割高ナルニ過ギザリシガ、一九一一年ニハ壹萬圓ニ騰貴シ、其翌一九一二年ノ初期ニハ、一躍シテ四萬圓ニ賣買セラレ、同年ノ末期ニハ更ニ奔騰シテ、三萬六千圓乃至七萬圓ヲ價スルニ至ツタ。固ヨリ此等ハ優良ナル種狐ノ價格デアアル。斯クシテ一九一四年ニ至リテハ、種狐ノ糶賣マデ行ハルルニ至リ、平均貳萬圓乃至貳萬千圓ニ取引セラレテ居ル。

加奈陀ニ於ケル種狐ノ需要増進ノ結果、單ニ現畜賣買ニ止マラズ穀物棉花ノ如クニ、一九一二年十二月ヨリハ先賣買サヘ初メラレ、血統明カニシテ受胎セル牝狐ニ對シ、後日分娩スベキ仔畜ノ定期取引ヲナセルモノアルニ至ツタ。

斯クノ如ク近年銀黑狐毛皮ノ價格騰貴シ、種狐ノ先取引マデモ、盛ンニ行ハルルニ至リタルコトヲ見テ、是レ一種ノ投機事業デアアルマイカト云フ、懸念ガ生ジナイモノデモナイ。又飼育事業ノ増進スルニ從ヒテ、毛皮ノ價格ハ漸次ニ低落シ、今日ノ如キ企業利益ヲ保證スルコトハ、出來ナイデアロウト云フ心配モナイトハ云ヘヌ。

併シナガラ貴金屬ヤ寶石眞珠類ガ近世學術ノ進歩ニ依リテ其發掘採取ヲ容易ニシ、產出額ヲ増加シツツアリト雖モ、依然トシテ貴金屬ノ價值ト珠玉ノ聲價ハ失墜セザルノミカ、愈々騰貴シテ居ルデハナイカ。此ト同様ニ銀黑狐皮ハ、獸毛皮中ノ優良品トシテ、世界人類ノ之ヲ貴重視スルコトヲ知リ初メタノデアアルカラ、尙年ヲ逐フテ價格ハ騰貴スベク、亦狐ノ性質トシテ、一雌一雄デアアルカラ、此レガ増殖ハ人工的ニ如何ニ盛ンニナツテモ、凡ソノ程度ガアルモノデアツテ、増殖ノ程度ハ、需要ノ急進トハ、到底歩ヲ同フスルコトガ出來ナイカラ、此レガ企業ヲ確實ナル根底ノ上ニ樹立セルモノニアリテハ、決シテ非企業的デナク、又投機的デモナイ、純然有利ナル企業トシテ、産業上ニ其地位ヲ保ツコトガ出來ル。

## 第十二章 結論

我ガ樺太ハ未ダ拓殖草創ノ地ニシテ、作スベキノ事業、起スベキ經營モ多々アルノデアアルガ所謂氣候風土地地産ヲ利用シテ、此レガ富源ヲ開發スルコトガ、拓地殖民ノ要義デアアルコトハ、今更之ヲ論議スルマデモナイコトデアアル。樺太ニハ未ダ斧鉞ノ入ラザル森林、鐵犁ノ投セラレザル土地ガ多々アル。是等ノ土地是等ノ森林ヲ利用シ、此ノ裡ニ生ヲ安ンジ、命ヲ樂ミテ居ル動物ノ繁殖保護ヲ謀リ、彼等ヨリ産スベキ、貴重毛皮ヲ獲得スルコトハ極メテ策ノ得タルモシデアアルマイカ。世人或ハ曰ク、人類ト野獸トハ、共存スル能ハザルモノデアアル。野獸ヲ飼育スルガ如キハ、非殖民ノ甚シキモノデアアルト。然レドモ思へ、市街地ノ真中ニ野獸ヲ放收スルガ如キコトハ、決シテナイ。夫々劃然トシテ範疇ヲ定メテ、此レガ飼育ヲナス以上ハ、寧ロ人類ト共存スルノ、反テ適切ナルモノガアルノデアアル。

樺太ニ於ケル狐ハ、恰カモ米國若クハ加奈陀ニ産出スルモノト、同一種類ニ屬シテ其毛皮モ上等品デアリ、黒、十字等ノ優良種サヘモ野生シテ居ル。先ヅ野狐ヲ捕獲シ之ヲ以テ人工的ニ改良ヲ企テテ、黒狐ノ産出ニ努メタナラバ、其人ノ努力如何ニ依

リテハ其利益ハ或ハ牛馬ヲ飼育スルヨリモ、ヨリ多キヲ得ベキコトハ明カデアアル。況ンヤ牛馬ノ飼養ガ、不可能ナル土地ヲ利用スルニ於テハ、斯業ノ樺太民ニ福スルコトノ大ナル知ルベキデアアル。

狐ハ所ニ依リテハ今ハ既ニ野獸デハナイ。加奈陀ニ於テハ、其經營狀態ヨリ見て、確カニ家畜ノ類彙中ニ組ミ入レラレテ居ル。吾人ハ樺太ニ於ケル、是レガ繁殖飼育ニ依リテ、毛皮市場ヲ調節按排スルニ至ランコトヲ、希望セザルヲ得ズ。

## 養狐業經營論終

附  
錄

樺太ニ於ケル養狐事業經營ニ  
必要ナル關係法規抄錄

### 樺太國有未開地特別處分令抄

四十四年十二月廿二日  
勅令 第二九九〇號

第九條 特定地ニシテ耕作牧畜及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル爲メ貸付シタルモノハ道路溝渠等公用ニ供スル部分ヲ除クノ外左ノ條件ニ從ヒ請求ニ因リ之ヲ讓與ス但シ貸付期間滿了後一年ヲ經過シタルトキハ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ス。

- 一 耕作及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル貸付地ニ在リテハ其ノ事業半以上成功シ且其ノ事業上必要ト認ムル牛馬ヲ所有スルコト。
- 二 牧畜及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル貸付地ニ在リテハ其事業全部成功シタルコト。
- 三 貸付後一年內ニ其ノ土地又ハ其ノ附近ニ住居ヲ構ヘタルコト。
- 四 認許ヲ受ケヌステ一年中六月以上又ハ引續キ一月以上其ノ居住地ヲ離レザリシコト。

### 樺太國有未開地特別處分令施行規則抄

四十五年一月十三日  
令 第一一三號

第一條 特定地ノ貸付又ハ賣拂ハ一人ニ付左ノ面積ヲ超ユルコトヲ得ス。

一 耕作及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル土地 五萬坪

二 牧畜及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル土地 五十萬坪

但シ狐飼養及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル土地一萬五千坪

三 市街宅地及部落宅地ニ供スル土地 千五百坪

四 其ノ他ノ事業ニ供スル土地 一萬坪

前項第四號ノ土地ハ會社又ハ組合ニ對シテハ其ノ面積ヲ五倍迄増加スルコトヲ得。

第二條 耕作牧畜及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル土地ノ貸付ハ無償トス但シ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル土地ハ有償トス。

第三條 耕作牧畜及之ニ直接附隨ノ用途ニ供スル土地ノ貸付期間ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス。

一 一萬坪未滿 三年

二 三萬坪未滿 五年

三 十萬坪未滿 八年

四 十萬坪以上 十年

市街宅地及部落宅地ニ供スル土地ノ貸付期間ハ五ケ年ヲ事業成功期間ハ一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルモノハ各期間ノ二倍迄トス

第四條 造林又ハ泥炭地ノ開墾ニ限リ土地ノ貸付期間及事業成功期間ヲ前條第一項ノ期間ノ二倍迄トス。

第五條 土地貸付期間及事業成功期間ハ許可ノ翌日ヨリ起算ス。

耕作牧畜及之ニ直接附隨スル用途ニ供スル土地ノ貸付期間及事業成功期間ノ初年ハ許可ノ翌日ヨリ翌年十二月三十一日迄トス。



(願書例式)

未開地貸付願

何郡何町村 地番

一、未開地

何坪

二、狐飼養目的

三、樹木ノ種類員數

何々目通直徑何寸

何本

既ニ貸付ヲ受ケタル土地

何坪

但シ何年何月何郡何町村何番(又ハ何町何丁目何番地)ニ於テ貸付ヲ受ケタル分

出願地

何坪

但シ同上ニ依リ記載ノコト

右ハ樺太國有未開地特別處分令第七條ニ依リ無償貸付相成度御許可ノ上ハ關係法規遵守可仕事業豫定書圖面戶籍謄本(又ハ何々)添付此段相願候也

本籍  
住所  
職業

氏名印

年月日

樺太廳長官 殿

事業豫定書

一、未開地

何坪

内譯

飼養場

何坪

建物敷地

何坪

存置地

何坪

二、飼養方法ノ要領

三、事業配當程度

附錄 樺太國有未開地特別處分令施行規則抄

初年 何坪  
内譯

飼養場 何坪

飼養舎 何個 間口何間 奥行何間

(又ハ墻垣 何間 (飼養舎ヲ設置セス飼養場ノ周  
圍ニミ墻垣ヲ設置スル場合)

右仕様 何々

建物敷地 何坪

建物 (住宅監視舎等) 何坪

右仕様 何々

存置地 何坪

飼養頭數 何頭

二年 以下前年ノ例ニ依ル

右之通相違無之候也

年月日

願人氏名印

注意

一、狐ノ飼養頭數ハ六偶(十二頭)以上トス。

二、飼養場及存置地ハ左ノ標準ヲ以テ設計スヘシ。

飼養場 三百坪以上

但シ一偶(二頭)ニ付四十五坪ノ割合ヲ以テ周圍ニ墻垣ヲ施シタル飼養舎六個以

上ヲ設置シ若ハ飼養場ノ周圍ニ墻垣ヲ設置スヘシ。

存置地 三千坪以内

但シ飼養場ノ周圍ニ於テ幅二十間以内トス。

三、飼養地ノ樹木ハ事業經營上直接障礙トナルモノヲ除クノ外存置スヘシ。

四、墻垣ハ十四番亞鉛引鐵線若ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スル鐵線網ヲ用ヒ地上

高サ十尺以上地下岩盤ニ達スル場合ヲ除キ三尺以上トシ狐ノ逸走ヲ防ク様設

備スヘシ但シ飼養場ノ周圍ニ設置スル墻垣ハ木板ヲ用ユルヲ妨ケス。

附錄終

大正六年一月十八日印刷  
大正六年一月廿一日發行



養狐業經營論與附

正價金八十五錢

著者 川口順次郎

東京市日本橋區箔屋町十四番地

發行者 竹澤章

東京市麴町區有樂町二丁目一番地

印刷者 吉原良三

東京市麴町區有樂町二丁目一番地

印刷所 報文社

發行所

丸山舍書籍部

東京市日本橋區箔屋町十四番地

電話本局二〇八五番  
振替口座(東京)五八九二番

丸山舎發行圖書要目

Table listing various books and their authors, organized into sections like '農畜及經濟書の部' and '文學衛生修養書の部'. Includes titles, authors, and prices.

丸山舎發行圖書要目 東京市本橋區沼田町四十四番地 電話二八〇五(京東) 振替五八〇二 局本話電

7

327  
920

終